



# 福井県民の将来ビジョン

— 「希望ふくい」の創造 —

平成22年12月



# “「希望ふくい」の創造”をめざして

— 『福井県民の将来ビジョン』の策定に当たって —

現在、グローバル化が新たな局面に入り、また、わが国では世界各国に先駆けて本格的な人口減少・超高齢社会が到来するなど、福井を取り巻く環境は大きく変化しています。

このように時代の大変革期を迎える中、活気にあふれるふるさとを築き、次の世代に確実に引き継いでいくためには、県民の誰もが将来に「希望」を持ち、英知と力を結集して福井が直面するさまざまな課題に挑戦し、これを皆で乗り越えていく必要があります。

そこで私は、県民、企業、さまざまな団体、市町、県が力を合わせて行動するための共通指針が必要と考え、福井がめざすおおむね10年後の将来像とこれを実現するための戦略を明らかにした『福井県民の将来ビジョン —「希望ふくい」の創造—』を策定しました。

福井は、少ない失業、高い就職率、夫婦共働き、高い世帯収入など「経済的な豊かさ」、豊かな自然、広い持ち家、三世代同居・近居など「住み良さ」、健康長寿、高い学力・体力、ボランティア活動など「県民の資質・行動力の高さ」が、いずれも全国トップクラスの水準にあります。

こうした福井の優位性と可能性を最大限に引き出し、これを活かしていくことによって、県民一人ひとりが「福井に生まれて良かった、暮らして良かった」と実感できる新しいふるさとづくりを進めていきます。

最後に、このビジョンの策定に当たり、県議会はもとより県民、企業、団体、各市町など多くの方々に参加をいただいたことに対し、心から感謝申し上げます。ビジョンに掲げた将来像の実現に向けて、県民の皆さんと共に全力を挙げていきたいと考えていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

平成22年12月

福井県知事 西川 一 誠



# — 目 次 —

## 〔第1章〕福井がめざす姿

1	ビジョン策定の趣旨	2
	福井がめざす方向性、将来像を描く10年ビジョン	
2	ビジョンの性格	4
	県民、企業、さまざまな団体、市町、県共通の行動指針	
3	ビジョンの基本理念	6
	「希望ふくい」の創造	
4	ビジョンの前提となる環境の変化と福井の進むべき方向	9
	(1) グローバル大競争社会への対応	(10)
	①地場産業、農林水産業などの後継者育成と海外販路開拓	
	②アジア最大の原子力エネルギー技術の集積を活かした産業・人材の育成	
	③福井の地理的優位性と歴史的特性を活かしたアジアとの交流拡大	
	(2) 人口減少・超高齢社会への対応	(18)
	①人口構造の変化に適応したライフスタイルの確立	
	②子どもも高齢者も元気な社会の実現	
	③地方と大都市の人口循環の創出	
	(3) つながり希薄化社会への対応	(26)
	①福井に残る絆を活かした地域づくりの推進	
	②行動と交流を生み出す県民気質の醸成	
	③青少年の自然体験・社会経験の機会づくり	
5	福井がめざす将来像	35
	(1) 「縁を活かす」福井流生活の確立と継承	(36)
	①「つながりの力」による課題解決先進県	
	②「社会貢献層」として元気高齢者が活躍する健康長寿社会	
	③貢献心を持った「新しい私」が活躍する社会	
	④福井ゆかりのネットワークによる「ふるさと県民」百万人	
	(2) 「アジア交流ゾーン福井」の成長と未来への貢献	(42)
	①関西・中京などとアジアをつなぐ交流ゾーン	
	②グローバルな視野を持つ若者や企業人を輩出	
	③「ふくいの後継者」育成による商工業や農林水産業の発展	
	④アジアの環境・エネルギー問題の解決に貢献	

## 〔第2章〕 実現のための戦略

1 戦略の体系 .....	48
Ⅰ 人が生きる（活躍） .....	51
Ⅰ-1 「人づくり」先進福井 (51)	
(1) 福井流の学力・体力を活かし次をめざす学校教育	
(2) 体験・交流する地域教育	
(3) 「1県民1スポーツ」の健康づくり	
Ⅰ-2 県民活躍社会の創出 (54)	
(1) 「一人もう一役」の活躍	
(2) 女性のゆとりと活動の応援	
(3) アクティブ・シニアがあたりまえの地域	
Ⅱ つながりを活かす（活用） .....	59
Ⅱ-1 つながりで築く地域社会 (59)	
(1) 子育て応援から「子育て環境」への挑戦	
(2) エイジング・イン・プレイス（地域で自分らしく老いることのできるふるさと）	
(3) 「笑いや楽しみ」の地域コミュニティ	
Ⅱ-2 安全で安心な地域づくり (63)	
(1) 信頼を互いに感じあえる安心生活	
(2) 災害に強い街づくり	
(3) 原子力の安全・安心の確保	
Ⅲ 環境を創る（活動） .....	67
Ⅲ-1 美しい「福井の風景」創造 (67)	
(1) 多様な環境の保全活動	
(2) 次代に残す農村と街のたたずまい	
Ⅲ-2 環境先端の基盤づくり (70)	
(1) エネルギー技術開発と人材育成	
(2) 低炭素の街づくり推進	

IV	成長を産み出す（活力）	73
IV-1	「福井の産業」新展開	(73)
	（1）「これぞ福井」の技と産地の進化	
	（2）「後継者ブランド」企業の創出	
IV-2	挑戦する農林水産業	(76)
	（1）売れる福井の特産品群の育成	
	（2）豊かな農山漁村の保全と活用	
IV-3	アジアの成長と活力の取り込み	(79)
	（1）販路を開くアジア・マーケットへの進出	
	（2）人が行き交うアジア・ネットワークの強化	
V	交流を広げる（活気）	81
V-1	新時代の街づくり	(81)
	（1）新時代にふさわしい都市改造	
	（2）暮らしを高める「ふくい文化」	
	（3）福井のブランド・観光新展開	
V-2	交流ネットワーク拡大	(85)
	（1）内外の力を活かす「新しいふるさと」	
	（2）ローカル・ネットワークの発展	
2	ビジョンの推進方針	88
	（1）県行政の責務と役割	(88)
	（2）ビジョンの実現方策	(91)

## 〔付属資料〕

1	ビジョンの策定経過	94
2	県民アンケート調査の結果	96





# 第 1 章

## 福井がめざす姿

## 1 ビジョン策定の趣旨

### (福井がめざす方向性、将来像を描く10年ビジョン)

『福井県民の将来ビジョン』は、これからのおおむね10年先を見通して、私たち福井県民が力を合わせて実行し、実現をめざす県の方向性や社会の将来像を描きます。

#### (時代の転換期の日本)

終戦から65年が経過しました。わが国は敗戦を機に「欧米に追いつけ 追い越せ」の共通スローガンの下で経済発展の道を進み、私たちは経済的に豊かな生活を送ることができるようになりました。

しかし、バブル経済の崩壊以後の日本は長い間低迷し、雇用不安や格差の拡大を生むなど、「失われた20年」とも言われる時代が今日まで続いています。

今、私たちは3つの大きな環境変化の中にいます。

一つ目は、東西冷戦の終結により急速に進んだグローバル化です。21世紀に入ってから10年間、グローバル化は情報通信技術の飛躍的な発展などに伴い、経済だけではなく、私たちの生活や地域社会のあり方にも直接の影響を及ぼすようになりました。

二つ目は、本格的な人口減少・超高齢社会への移行です。わが国の人口はすでに減少期に入るとともに、出生率の低下による若者の減少と第一線を引退する人びとの増加などによって、日本の経済・社会を支える労働力も減っています。

三つ目は、これら二つの大きな変化と価値観・ライフスタイルの多様化に伴い、家庭や地域社会における人と人とのつながりや自然の中での実体験の希薄化が進んでいることです。

#### (福井の課題と特長)

このような時代の大きな転換期にあって、私たち福井県民は次のような課題に直面しています。

- ① まず、経済面では、グローバルなコスト競争、後継者不足などによって、繊維・眼鏡などの地場産業や農林水産業が苦境に立たされています。また、中心市街地の活性化が大きな課題となっています。

- ② 次に、高齢化や晩婚化、未婚化などの影響により単独世帯が増加し、また、過疎と高齢化が一段と進む集落が増加するなど、家族や地域の役割・機能の低下が懸念されています。
- ③ さらに、耕作放棄地の増加や山林・山ぎわの荒廃など自然環境の破壊や風景の劣化が進み、生活環境の悪化にもつながっています。
- ④ また、日本経済が長期低迷する中、県や市町の財政も厳しさを増しています。今後、高齢化への対応、高度成長期に整備した橋や公共建築物など社会基盤の更新などによって、財政需要はさらに増大していきます。

その一方、福井には子どもたちの優れた学力や体力、健康長寿、女性の社会進出の高さ、家庭や地域の安定、豊かな自然環境など、私たちが先人から受け継ぎ、また、一人ひとりの努力と協力の下で育ててきた全国有数の暮らしやすい生活の基盤が残っています。

これに加え、関西・中京という大きな経済圏を背後に持ち、かつ日本海に面しアジア大陸に開かれた好位置にあるという地理的特性や、アジアなど諸外国との交流も盛んに行われた固有の歴史を持っています。

また、福井と国内各地、アジアをつなぐ交通基盤についても、長年の県政課題であった舞鶴若狭自動車道、中部縦貫自動車道の整備が着々と進んでいます。北陸新幹線についても、着実に整備を促進していく必要があります。

#### （福井が進むべき方向性）

新しい福井をつくっていくために、こうした福井の課題と特長をとらえ、私たちは今後進むべき2つの大きな方向を共有します。

- ① 福井の長所を活かした新しい生き方や生活のスタイルをつくって、次の世代に引き継いでいくこと
- ② グローバル化の中で成長を続けるアジアの活力を取り込むとともにアジアに貢献し、アジアと共に成長の道を歩んでいくこと

さらに、経済や社会が大きく変化する中であって、多くの課題を持つこれからの時代には、自ら考え、決定し行動する「人材」が必要です。この2つの大きな目標の実現を支える「人づくり」の大切さを共有します。

私たち福井県民は、先人から受け継いだ優れた基盤を最大限に活かしながら、知恵と力を結集し、新しい時代の地域活力のかたち、アジアの「成長の先にある課題」の解決モデルを示し、次の世代にしっかりと引き継いでいきます。

## 2 ビジョンの性格

### (県民、企業、さまざまな団体、市町、県共通の行動指針)

このような趣旨で作成する将来ビジョンは、次のような性格を持つものです。

- (1) 福井が抱えるさまざまな課題の解決に向けて、中長期的かつ継続的に取り組んでいくため、今後の県政運営の「道しるべ」とします。
- (2) 特に、この将来ビジョンにおいては、県民と行政が協力しながら、ここに掲げた共通の目標を実現していくことを重視します。  
県や市町という行政の目標にとどまることなく、個々の県民や企業、さまざまな団体などの各主体が主役になり、共に考え、行動するための共通の指針とします。

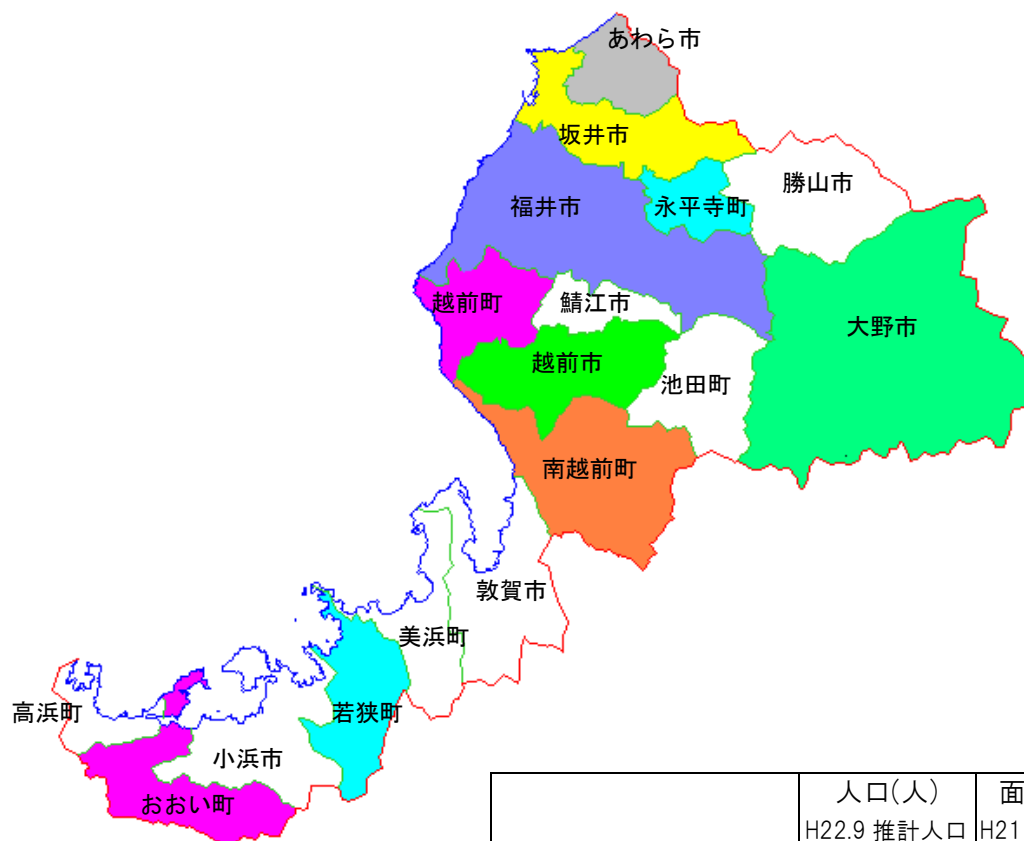
ビジョンの作成に際しては、これまでの県の長期構想のように「行政や団体などの代表が土台をつくり」、出来上がった構想の実現に向けて「県民が後から参加する」という考え方を、次の2つの点で大きく改善しました。

- ① 複雑で深刻な経済的、社会的な課題が増える中、まず、「将来ビジョン検討会議」を開催しました。「人口構造の変化」、「東アジアの成長」、「環境との共生」、「都市と地方の連携」、「新しい人間像」の5つの重要な分野において、県内外の第一線で活躍する有識者、実務者から知見や助言を得て、論点の整理をおこないました。
- ② この整理に基づき、議論を始めましたが、ビジョンの構想・素案の最初の段階から、
  - 「地区別懇談会」(福井、坂井・永平寺、奥越、丹南、二州、若狭の6地区)
  - 「分野別意見交換会」(環境、福祉・医療、子育て・女性、産業、観光、農業、林業、水産業、コミュニティ、教育の10分野)
  - 「市町長との懇談会」(県内17市町)などを開催し、広く県民や企業、さまざまな団体、市町から意見をお聴きしました。これに併せて、5千人の県民を対象にアンケート調査も実施しています。

これから、私たちは行政主導による県づくりという考え方を乗り越え、「県民主役」の福井を共につくっていく必要があります。

経済的、社会的な課題が複雑・高度化し、県民のニーズもますます多様になる今日、県は県民とのパートナーシップをさらに強めていくことが不可欠です。県は市町との連携を強めるとともに、これまで以上に県民に開かれ、信頼される存在となるよう努めていきます。

### 市町村合併後の福井県



	人口(人)	面積(k m <sup>2</sup> )	
	H22.9 推計人口	H21 国土地理院	
県 計 (17 市町)	805,372	4,189.59	
市 計 (9 市)	701,283	2,788.40	
郡 計 (8 町)	104,089	1,401.19	
福 井 市	266,837	536.17	
敦 賀 市	67,991	250.98	
小 浜 市	30,992	232.87	
大 野 市	35,389	872.30	
勝 山 市	25,429	253.68	
鯖 江 市	67,424	84.75	
あ わ ら 市	29,968	116.99	
越 前 市	85,468	230.75	
坂 井 市	91,785	209.91	
吉田郡	永平寺町	20,287	94.34
今立郡	池田町	3,041	194.72
南条郡	南越前町	11,486	343.84
丹生郡	越前町	23,044	152.96
三方郡	美浜町	10,418	152.32
大飯郡	高浜町	11,012	72.15
	おおい町	8,816	212.21
三方上中郡	若狭町	15,985	178.65

〔データ解説〕

私たちの生活に密着したさまざまな行政サービスを提供する市町村の合併が全国的に進みました。

福井県内においては、35の市町村が9市8町に合併・統合され、自治の基盤は強化されました。

また、地方分権社会の実現をめざし、国と地方、大都市と地方との新しい関係をつくるための制度や仕組みの導入が検討されています。

## 3 ビジョンの基本理念

福井の特長を最大限に活かしながら、これから10年先を見通して、先人から受け継いだ英知と勇気をもって激動の時代にふさわしい県づくりをおこなうため、私たちが共有するビジョンの基本理念を示します。

### 基本理念

## 「希望ふくい」の創造

優れた福井の特性を自覚し、維持するとともに、次の世代へより良くして残すため、新しいみんなの「希望」をつくり、外に開き、力を合わせ行動しよう

グローバル化、人口の減少・高齢化など、福井を取り巻く環境変化は今後ますますスピードを速め、私たち福井県民がこれから歩いていく道はたいへん厳しいものになると考えられます。

しかし、過去、そして現在の県民の資質と努力の結果、福井にはこうした厳しい環境を乗り越えていけるだけの優れた基盤が数多く残っています。この基盤が、私たちの現在の「生活満足度」を支えており、福井は暮らしの豊かさを実感できる県となっています。

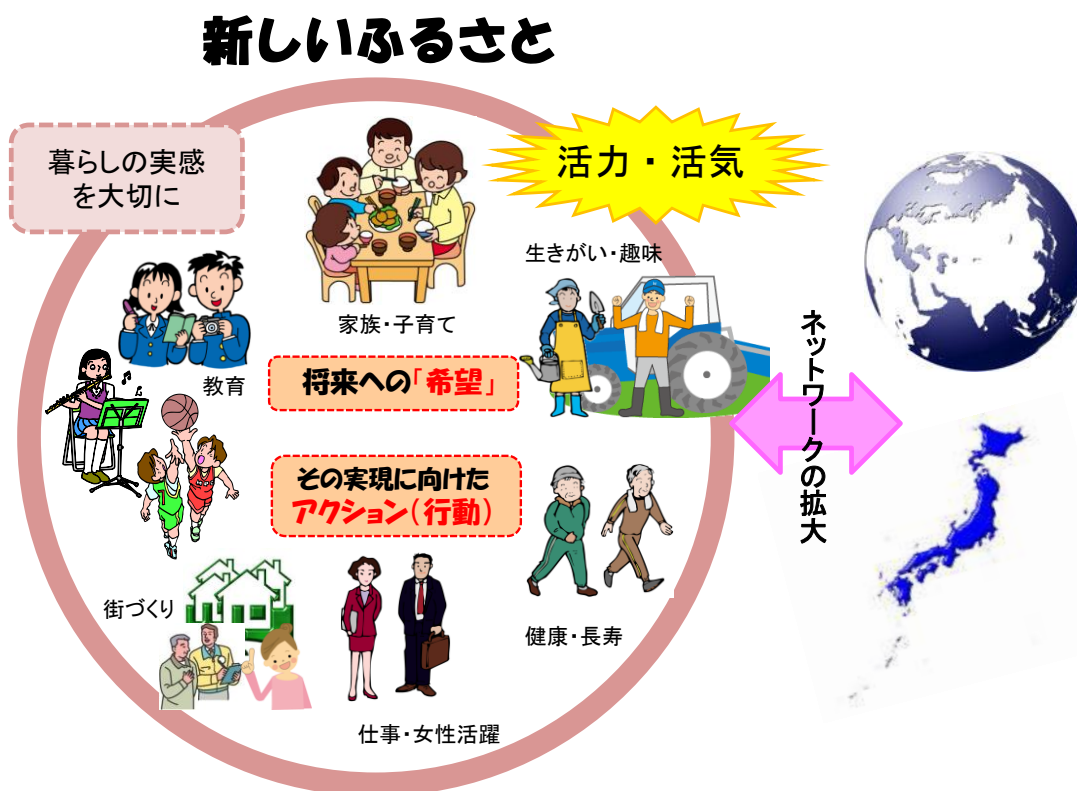
こうした福井だからこそ、私たちは、この豊かさを将来に引き継いでいくことを考えなければなりません。

現代の日本社会は、かつての高度成長期のように「希望が前提」の社会ではなくなっています。将来に対する「希望」が持ちにくい時代が到来しようとする中、福井県民がさまざまな課題を解決していくためには、私たちが「希望」にあふれる福井の姿を共有し、共に行動することが不可欠です。

『福井県民の将来ビジョン』の目的は、私たち一人ひとりの将来はもちろん、子の世代、孫の世代が少しでも良くなるよう、世代をつなぐ「希望」をつくり上げることです。これはまた、県民、企業、さまざまな団体、市町、県が協力して行動するための拠り所にもなります。

県民の誰もが次の世代が良くなることを考え、行動することによって、家族や地域社会の役割の大切さが自ずと意識され、福井の良き伝統・文化が次の世代に引き継がれていきます。

過去から受け継がれた優れた基盤の上に未来に向けて「私たちの希望」を創造すること、また、外に開かれたネットワークを築き「新しいふるさと」のモデルを示し時代をリードしていくことが、私たちの使命でもあります。







## 4 ビジョンの前提となる環境変化と福井の進むべき方向

第二次世界大戦後の復興から高度経済成長、グローバル化の時代へ福井を取り巻く環境は大きく変化し、私たちは経済・社会の構造が変わる時代の転換点に立っています。

時代や環境の変化を的確にとらえ、また、将来につながる新しい変化の兆しを今の社会の中に見つけながら、福井の進むべき方向を考えていく必要があります。

そこで、私たちの生活にこれから大きな影響を及ぼすと考えられる3つの環境変化を取り上げ、その環境変化が福井にどのような影響を及ぼすのか、また、福井の特長を活かしてこれからの課題にいかに対処していくべきかを考え、「福井の進むべき方向」として整理しました。

### 新しい3つの環境変化への対応

- (1) グローバル大競争社会（経済構造の変化）への対応
- (2) 人口減少・超高齢社会（社会構造の変化）への対応
- (3) つながり希薄化社会（人間関係の変化）への対応

## (1) グローバル大競争社会(経済構造の変化)への対応

### 福井の進むべき3つの方向

- ①地場産業、農林水産業などの後継者育成と海外販路開拓
- ②アジア最大の原子力エネルギー技術の集積を活かした産業・人材の育成
- ③福井の地理的優位性と歴史的特性を活かしたアジアとの交流拡大

### ① 地場産業、農林水産業などの後継者育成と海外販路開拓

世界は、「国際化」の時代から「グローバル化」の時代に本格的に移行しました。グローバル化は、何世紀にもわたって続いてきた国家や国境という世界観、枠組みに大きな構造変化をもたらし、私たちの地域社会を変えています。

特に、1990年代以降、国際間の移動手手段、通信手段が発達する中、経済のグローバル化が急速に進み、世界の経済・市場は一つの大きなネットワークでつながりました。

また、21世紀に入り、中国や韓国をはじめとするアジア各国・地域の経済が著しい成長を遂げています。平成22年には、中国が日本の国内総生産（GDP）を追い越し、アメリカに次いで世界第二位の経済大国になるなど、10年後のアジアは世界の一大経済圏を形成すると言われてしています。

世界の国々や企業との技術開発競争、マーケット獲得競争は一段と激しくなっています。世界の企業は海外に販路を求め、各国は競争力の強化に努めています。かつて「貿易（輸出）立国」と言われたわが国も、その地位に大きな変化が見られます。

福井の産業は、繊維・眼鏡をはじめ中小企業がほとんどを占めていますが、戦前から培ってきた優れた技術力をベースに、ニーズの変化などに適応しながら事業を継承し、新しい分野・市場を切り開いてきました。

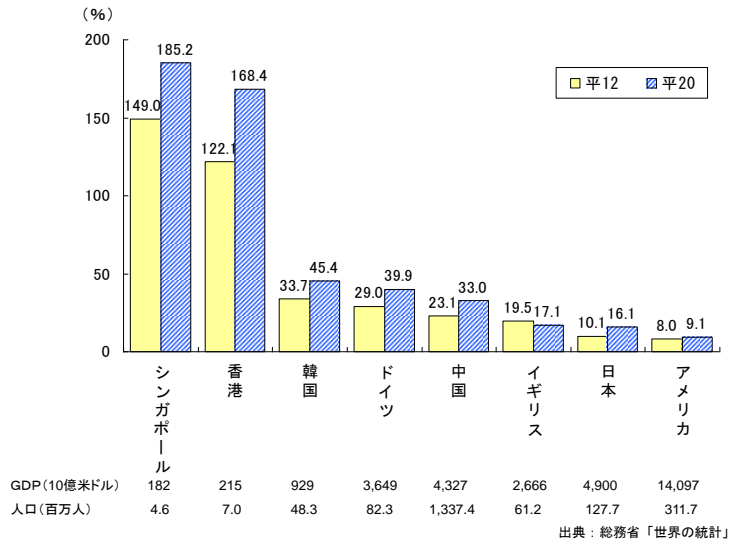
かつて日本の主力産業であった繊維産業は厳しいグローバル大競争にさらされ、規模が縮小してきました。しかし、福井の繊維産業は、今もなお国内に残る数少ない「産地」を形成し、世界の国々と互角に競争しています。

繊維産業の他にも、全国の眼鏡枠生産の9割以上を占める眼鏡産業をはじめ、漆器（越前漆器、若狭塗）、越前和紙、越前焼、越前打刃物などの伝統的産業において独自の技が受け継がれ、全国有数の「産地」として活躍しています。

### 各国のGDPに対する輸出額（輸出依存度）

〔データ解説〕

わが国の輸出依存度（GDPに対する輸出額の割合）は、16.1%（平成20年）と年々高まっているものの、アジアやヨーロッパ各国と比較すると、いまだ低い状況にあります。

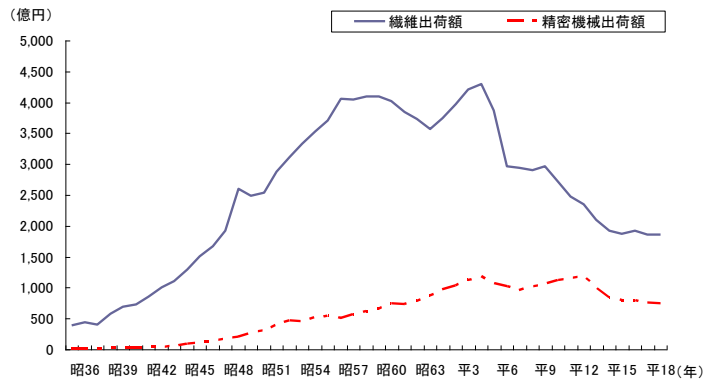


### 福井県の繊維、精密機械出荷額の推移

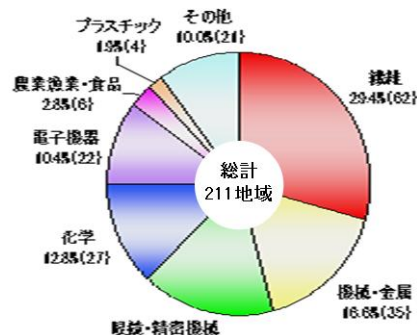
〔データ解説〕

福井の主要産業である繊維と精密機械（眼鏡）の製造品等出荷額の推移を表したグラフです。

いずれの産業においても戦後大きく伸びてきましたが、平成に入ってから出荷額の伸びは止まり、大きく減少しています。



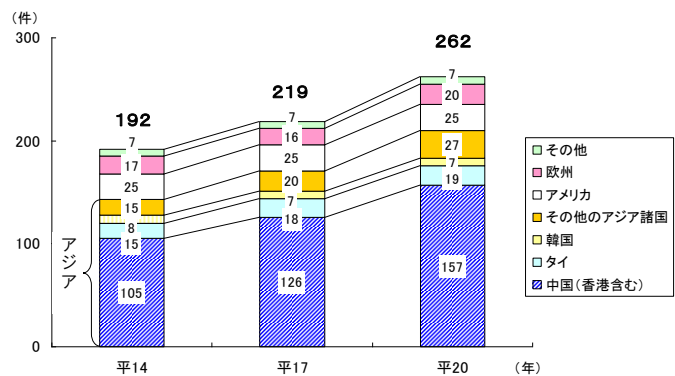
### 県内企業の業種別 アジア進出状況



〔データ解説〕

アジアへの進出企業を業種別にみると、「繊維」関連企業が62地域（28.5%）と最も多くなっています。

### 県内企業の海外拠点数の推移



〔データ解説〕

県内企業の海外拠点は、アジア地域への進出が210件と最も多く、全体の8割を占めています。

また、進出国・地域の中心は中国であり、157件（全体の約6割）となっています。

また、オンリーワン、ナンバーワンの技術を持つ元気な企業が数多く立地しており、福井は国内有数の優れた技術が集積する「ものづくり先進県」です。

このように、他の都道府県に比べ、福井には産業の基盤がまだしっかりと残り、私たちの雇用の場は安定的に確保されてきました。低成長の時代に入り、経営環境や雇用情勢が一段と厳しさを増す中、失業率の低さ、求人倍率の高さは全国トップクラスを維持しています。

また、福井の農林水産業は、海・山・里・川の豊かな自然環境を活かし、整備の進んだ優良農地などに支えられ、今日まで受け継がれてきました。

特に、福井は、国内最大のシェア（約4割）を誇る品種「コシヒカリ」の発祥の地です。農業以外に収入を得る兼業化が進む中、機械化と集落営農により米を中心としながら、麦・大豆・ソバなどの水田農業の効率化を進めてきました。

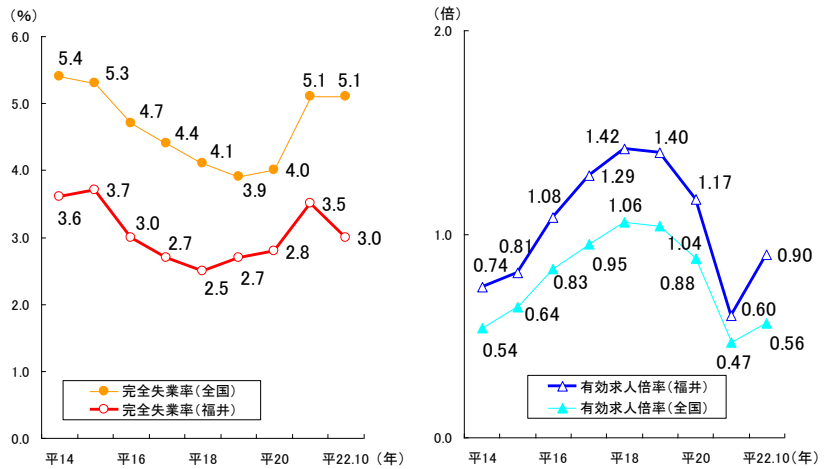
しかし、食生活の多様化、食のグローバル化が進み、米の消費量と価格は低下してきており、福井の農業産出額の低迷につながっています。また、消費者の嗜好の変化などにより魚介類の消費量が減少するとともに、輸入材の増加などにより木材価格や県産材の需要が低迷しています。

福井に受け継がれてきた産地や農林水産業を守り発展させていくためには、商工業や農林水産業などの技術を受け継ぎ、新しい展開をつくり出す後継者の確保と育成が急務となっています。

また、グローバル大競争の時代に新しい成長の道をつくるには、福井のものづくりの基盤や技術力を活かした新しい製品・価値の開発、国内外におけるマーケットの開拓が必要です。

### 完全失業率と有効求人倍率の推移

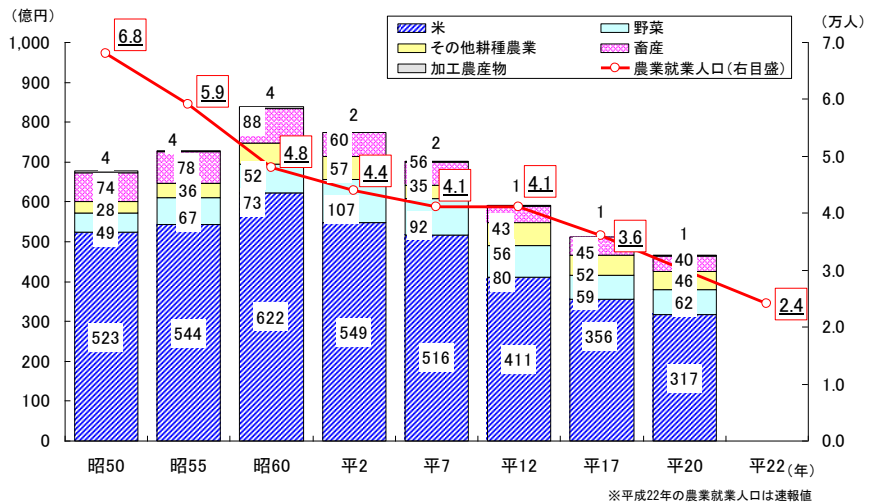
〔データ解説〕  
 わが国の雇用情勢は、平成20年9月のリーマン・ショック以降急速に悪化しました。全国の完全失業率は5%台に達しましたが、福井は2~3%台で推移しています。  
 また、有効求人倍率は1を下回る状況が続いていますが、福井の求人倍率は大きく改善しています。



出典：総務省「労働力調査」、厚生労働省・福井労働局「一般職業紹介状況」

### 福井県の農業産出額と農業就業人口の推移

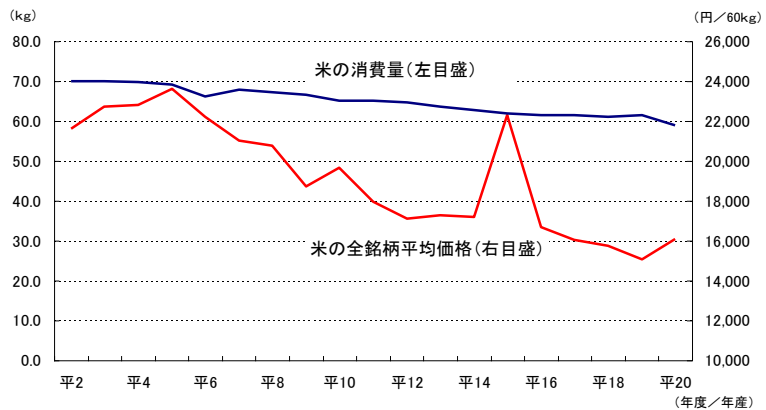
〔データ解説〕  
 福井の農業産出額は465億円(平成20年)であり、米がその約7割を占めています。  
 稲作の傍ら、専業農家によるウメ、ラッキョウ、サトイモなどの園芸産地が形成されてきましたが、産出額は2割程度に留まっており、飛躍的な拡大には至っていません。  
 また、福井の農業就業人口は年々減少し、平成22年には2万4千人になっています。



出典：農林水産省「生産農業所得統計」、「農林業センサス」

### 米の価格と消費量の推移

〔データ解説〕  
 食糧管理制度が平成7年に廃止され、農家が自由に米を販売できるようになりました。また、米の輸入自由化も始まり、米価は大きく低下しています。  
 また、米の消費量については、昭和40年代には、国民1人当たり年間100kg程度の消費がありました。現在は60kg程度にまで減ってきています。



※米の価格は米価格センターの全銘柄平均価格  
 米の消費量は、1人1年当たりの供給量  
 出典：(財)全国米穀取引・価格センター資料、農林水産省「食料需給表」

## ② アジア最大の原子力エネルギー技術の集積を活かした産業・人材の育成

グローバル化の影響は、経済・ビジネス面だけではなくありません。インターネットの発達により瞬時に伝わる海外情報、生活に欠かせない石油の価格高騰、輸入食品の安全性に対する不安の拡大など、私たちの日常生活にも直接の影響を及ぼしています。

これは、日本の一地方における私たちの暮らしが、海外に向かって開かれ、いろいろな国々の動きとダイレクトに結びついていることを示すものです。

エネルギー需要が急速に拡大する中、今後、地球温暖化や環境・エネルギー問題への対応が世界共通の大きな課題となっていきます。グローバル化の中で生じるこうした問題を解決するためには、私たちの日常生活や身近な地域社会の中に解決の糸口や処方箋を見つけ出し、一つ一つ地道に取り組んでいくことが最善の道となります。

平成22年6月には、アジア太平洋の21の国・地域が参加し、「APECエネルギー大臣会合」が福井市において開催され、各国・地域が協力して低炭素化社会をめざす「福井宣言」が採択されました。

福井の嶺南地域は、日本はもとよりアジア最大のクリーン・エネルギーの供給地域です。昭和45年の大阪万国博覧会にあわせ、アジアで初めて営業運転を始めた商業用原子力発電所（敦賀発電所1号機）をはじめとする15基の原子力発電所（「ふげん」を含む）が立地し、関西の消費電力の約半分を供給しています。

原子力発電は、火力発電に比べ二酸化炭素排出量が圧倒的に少ないことから、これをもとに算出した福井の「環境貢献度」は非常に高く、全国上位に位置づけられています。

また、投機目的での石油取引の拡大、中国やインドなど新興国の成長に伴うエネルギー消費の拡大などにより石油価格が世界的に高騰し、わが国をはじめ先進国の石油輸入代金は大きく伸びています。新エネルギーや省エネの技術は、産業として大きく成長する可能性を持った分野になっています。

県では現在、国、電力事業者、県内外の企業・大学などとともに、原子力エネルギー技術の応用による産業化や国内外の原子力人材の育成など、エネルギー研究開発の拠点をめざしたプロジェクトを推進しています。

今後、福井はこの分野における技術と人材の集積を活かし、産業の活性化を実現するとともに、グローバルな規模で広がる環境・エネルギー問題への貢献が期待されています。

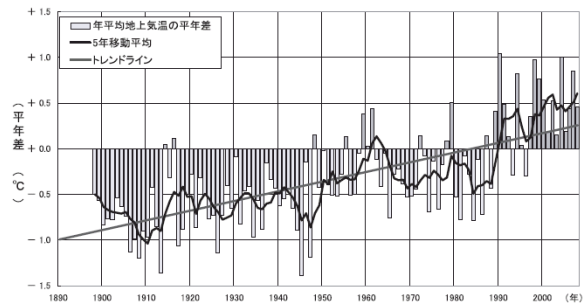
福井県内の原子力発電所



〔データ解説〕

嶺南地域の4市町（敦賀市、美浜町、おおい町、高浜町）には、廃止措置が決まった新型転換炉「ふげん」を含め、15基の原子力発電所が立地しています。

日本の年平均気温の上昇

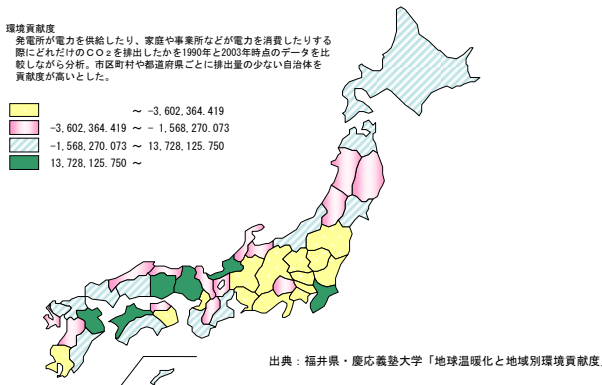


出典：気象庁ホームページ  
環境省「平成21年版 環境統計表」

〔データ解説〕

日本の年平均気温は、この100年の間に約1.1℃も上昇しています。特に、1990年代以降は高温となる年が頻出しています。

地域別環境貢献度

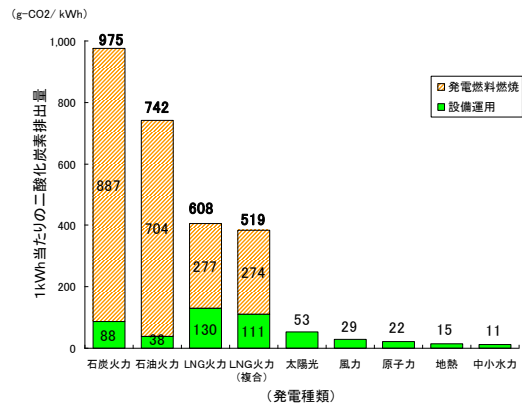


出典：福井県・慶応義塾大学「地球温暖化と地域別環境貢献度」

〔データ解説〕

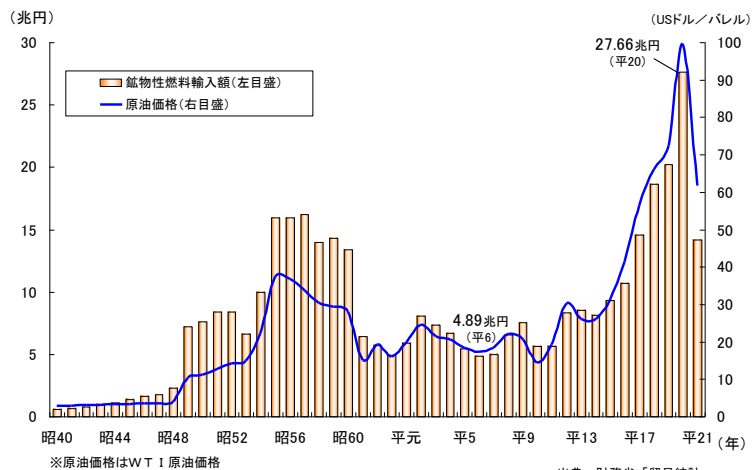
二酸化炭素の排出量をベースとした都道府県別の「環境貢献度」を示しました。原子力発電所が集中立地する福井は、千葉、兵庫、岡山、愛媛、大分と並び、二酸化炭素排出量は相対的に低くなっています。

各種電源別の二酸化炭素排出量



出典：電力中央研究所「ライフサイクルCO2排出量による原子力発電技術の評価（平成13年8月）」  
「ライフサイクルCO2排出量による発電技術の評価（平成12年3月）」

日本の原油、石炭等の輸入額の推移



※原油価格はWT I 原油価格

出典：財務省「貿易統計」

〔データ解説〕

平成20年の石油など鉱物性燃料の輸入額は27.66兆円に達し、わが国の輸入総額の35%を占めています。

石油などの輸入額は、石油価格に連動していることが読み取れます。

2度のオイルショックにより石油価格が高騰していた昭和55年には、輸入総額の約5割を占めていました。

### ③ 福井の地理的優位性と歴史的特性を活かしたアジアとの交流拡大

#### (地理的な優位性)

福井は日本列島の真ん中に位置し、成長著しいアジア大陸とは日本海を挟んで対岸に面しています。直線距離200kmの圏内には、福井が広域的な連携を行っている北陸信越、中部、関西各圏の主要都市（県庁所在地）が立地し、さらに300km圏にまで範囲を広げると、これらの府県の圏域をほぼ包含する好位置にあります。

また、東アジアから日本列島を眺めると、敦賀湾と伊勢湾を結ぶラインで日本海と太平洋が最も近接（100km程度）しており、この地域は、アジア・太平洋地域の交流の中心として要衝の位置にあります。

舞鶴若狭自動車道、中部縦貫自動車道の整備を進め、また、北陸新幹線の県内延伸が実現することによって嶺南・嶺北の一体性が強まるとともに、北陸信越、中部、関西の各圏域はもとより首都圏へのアクセスが格段に向上し、福井の国内における地理的優位性は飛躍的に高まります。

一方、対アジアとの関係では、大型船舶が接岸できる日本海側最大級の国際ターミナルが完成した敦賀港、石川との連携によりアクセスを改善し福井の空の玄関口として位置づける小松空港があります。

「アジアの中の福井」の視点でとらえると、福井はアジアと関西・中京経済圏、そして太平洋とを結ぶ結節点に位置しています。新しい交通ネットワークの基盤を最大限に活かすことによって、福井はアジアとの大交流時代を切り開き、アジアでの地位を高め、またその交流に大きな役割を果たしていくことができます。

#### (歴史的な特性)

また、福井には日本とアジア、世界とをつなぐ「かけ橋」の役割を果たした固有の歴史も数多くあります。

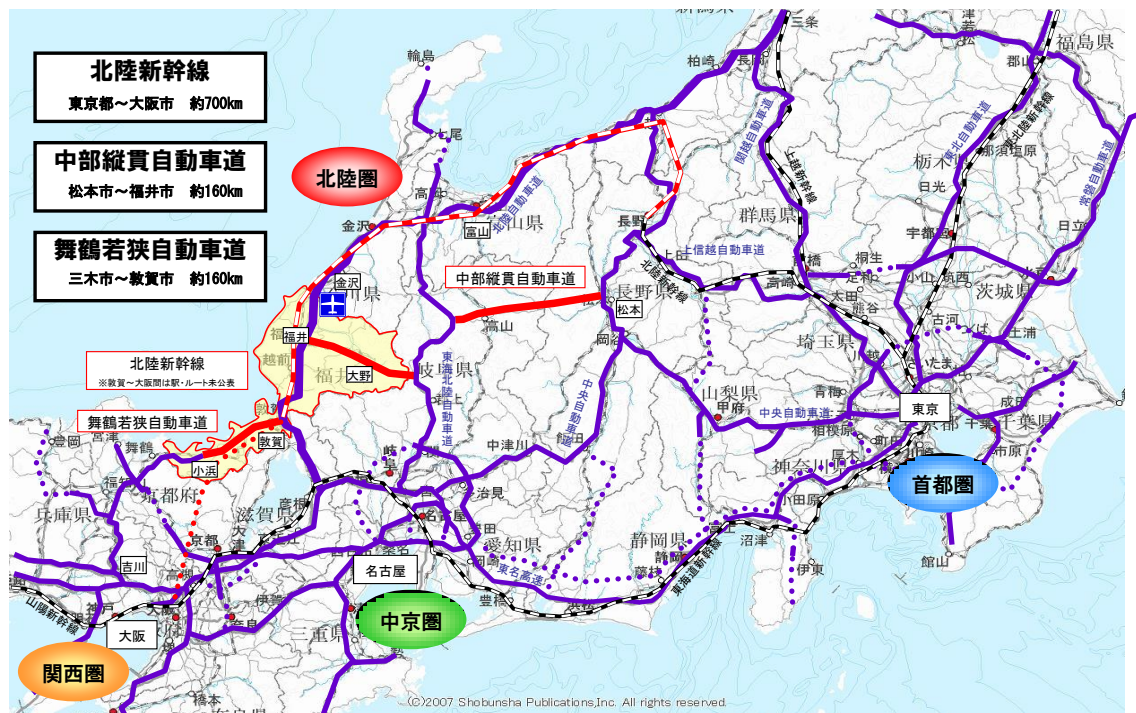
今から一世紀前の明治45年から昭和16年にかけて、敦賀はアジアやヨーロッパ大陸に開いた日本の表玄関でした。東京発の欧亜国際連絡列車が敦賀港と直結し、多くの日本人やヨーロッパ人が敦賀、ウラジオストク、ベルリン、パリを行き来しました。

また、中国の文豪・魯迅<sup>ろしん</sup>が敬慕した藤野巖九郎（明治7年～昭和20年、現あわら市生まれ）は、福井の偉人です。仙台医学専門学校（現在の東北大学医学部）の講師時代に築いた二人の師弟関係は、小説『藤野先生』によって日中両国はもちろん広く世界に知られています。

二人の関係が示す、国籍や立場の違いを超えた尊敬と信頼に満ちた人間関係のあり方は、私たちだけでなく、グローバル時代を担うこれからの世代への強いメッセージと言えます。



### 福井県から伸びる高速交通ネットワーク



### アジアの中の福井



## (2) 人口減少・超高齢社会(社会構造の変化)への対応

### 福井の進むべき3つの方向

- ① 人口構造の変化に適応したライフスタイルの確立
- ② 子どもも高齢者も元気な社会の実現
- ③ 地方と大都市の人口循環の創出

### ① 人口構造の変化に適応したライフスタイルの確立

世界の総人口(69億人)がアジア(42億人)を中心に引き続き増加する中、わが国においては、世界にも例を見ない「人口の減少」と「高齢化」が同時に進み、これからの10年間で本格的に人口減少・超高齢社会へ移行します。

わが国の人口は、平成18年をピークとして減少に転じ、また、65歳以上の高齢者の割合もすでに23%に達しました。

福井の人口は、平成11年の83万1千人をピークに減少傾向が続き、平成22年には80万5千人にまで減少しています。10年後の平成32年の県人口は約76万人、20年後の平成42年には約71万人になると推計されています。

また、65歳以上の人口は20万人(平成22年)を超え、県人口の25%を占めています。これからの10年間で3万人程度増加すると見込まれ、県人口に対する割合も3割を超えます。

そのうちの約5割を75歳以上の人口が占めています。今後、75歳以上の人口はさらに増え続け、超高齢化が一層進みます。

一方、少子化の影響により、学校・学級の規模は今後さらに小さくなっていくと考えられます。現在、福井の小・中学生の数は約7万1千人ですが、10年後(平成32年)には1万人程度減少し、約6万1千人にまで減ると見込まれています。

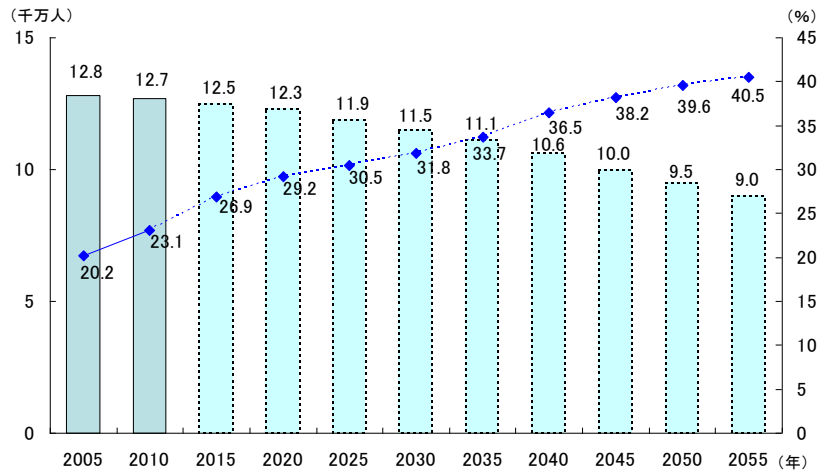
### 日本の人口と高齢化率の推移と将来予測

〔データ解説〕

わが国の過去の出生率、死亡率の推移などをもとに、国の研究機関において算出した将来の長期推計人口のデータです。

今後の10年間で、日本の人口はゆるやかに減少していきます。

また、65歳以上の高齢者の割合は、2025年頃に3割を超え、2050年頃には4割に達すると予測されています。



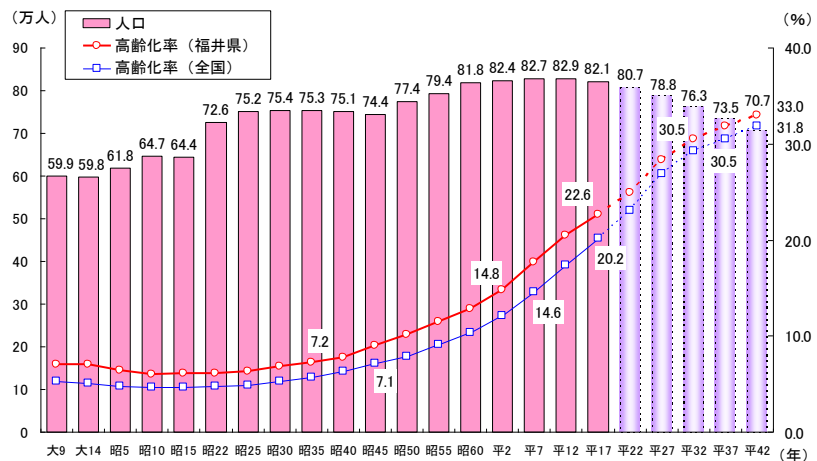
出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」

### 福井県の人口と高齢化率の推移・将来推計

〔データ解説〕

国の研究機関の推計（中位推計値）によると、平成32年（10年後）の福井県の人口は76.3万人、平成42年（20年後）には70.7万人にまで減少します。

一方、福井県の高齢化率（65歳以上の人口割合）をみると、平成32年に3割を超え（30.5%）、平成42年には3人に1人（33.0%）に達します。



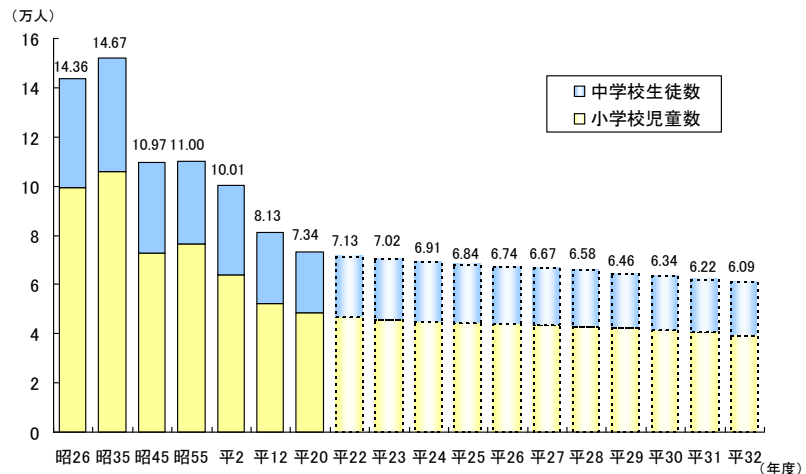
出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口（平成19年5月推計）」

### 福井県の小中学校児童・生徒数の推移と将来推計

〔データ解説〕

福井の小・中学生は、20年前（平成2年）には10万人いましたが、10年前（平成12年）には8万1千人、平成22年には7万1千人にまで減少しています。

今後の小・中学校の児童・生徒数を推計すると、さらに減っていくことが分かります。



出典：文部科学省「学校基本調査」 ※平成22年度以降は、福井県政策統計課推計

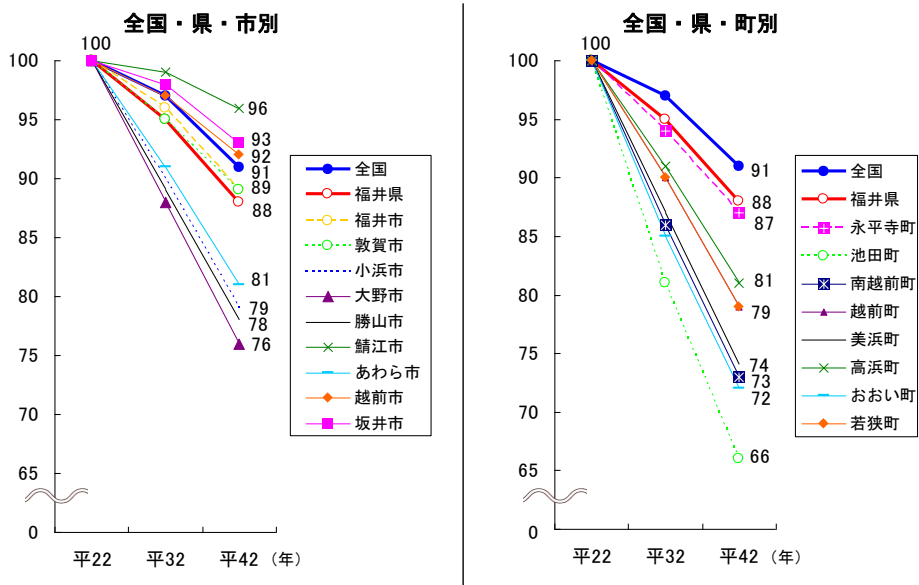
人口の減少と超高齢化は、県内一律に進む訳ではありません。市部よりは町部において大きく進み、産業や経済を支える労働力人口の減少、一人暮らしの高齢者世帯（高齢単独世帯）の増加、中山間地域における集落機能の低下などの課題がさらに大きくなっていくことが予想されます。

一方、大きな視野でとらえると、これまでは福井など地方圏において進み地方固有の課題とされてきた人口減少・高齢化の流れは、今後、東京や大阪など大都市圏においても著しく進んでいきます。また、その先には、アジアの国々が同じ課題に直面します。

人口の構造が大きく変わるこれからの時代には、高齢者の経験・能力を生産活動や地域活動に活かすという発想の転換が求められます。

大都市より早く人口問題に直面してきた私たち自らが率先して新しいライフスタイルを築き上げ、高齢者が社会的な弱者とならないような公共インフラの整備、移動手段の充実、健康づくりや介護予防の仕組みづくりを進めるなど、新しい時代にふさわしい豊かさの基準を積極的に提案していく必要があります。

### 推計人口指数 ※平成22年=100



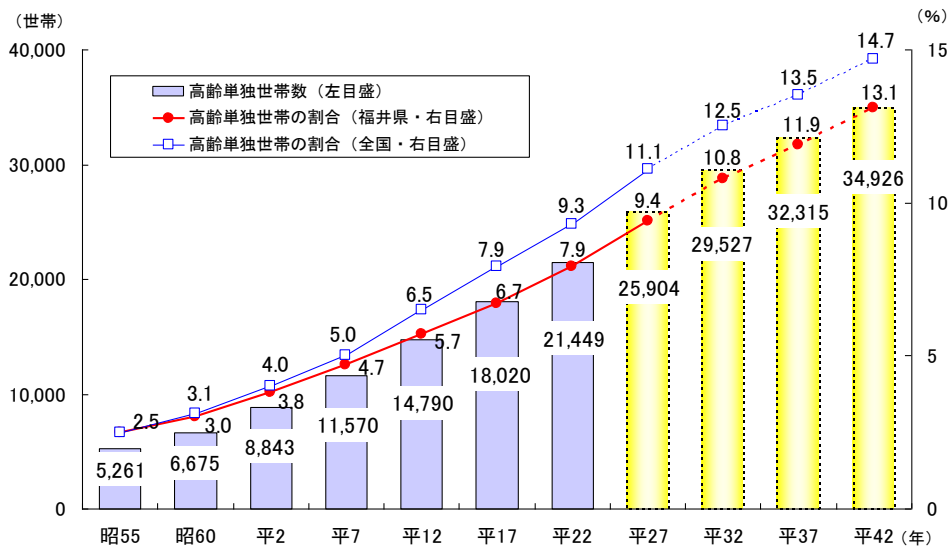
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口（平成20年12月推計）」

〔データ解説〕

平成22年を基準に、県と市町別の10年後、20年後の推計人口の減少率を表したグラフです。現時点と比較すると、10年後の県人口は約95%（全国平均97%）、20年後は約88%（全国平均91%）になると推計されており、全国平均よりも人口の減少率は高くなっています。

また、市町別に減少率（推計値）をみると、地域によるばらつきが大きくなってきます。（66%～96%）

### 高齢単独世帯の推移と将来推計



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計」

〔データ解説〕

福井には現在、65歳以上の高齢者の単独世帯が21,500世帯余（平成22年）あり、全世帯の約8%を占めています。今後も高齢者の単独世帯はさらに増え続け、10年後には約3万世帯に達し、全世帯の1割を超えると推計されています。

## ② 子どもも高齢者も元気な社会の実現

少子化が全国的に進行しています。わが国の出生率（女性が一生涯に産む子どもの数）は、晩婚化などライフスタイルの変化により昭和50年に2を下回り、平成17年には1.26まで低下しました。近年、全国的に少子化対策が進められ、出生率は1.37（平成21年）にまで回復しています。

福井の出生率は平成16年を底に上昇に転じ、平成21年には1.55と全国平均を大きく上回っています。

福井の女性の就労、夫婦共働きの割合はいずれも全国第1位です。女性が活発に働きながら出生率が増えているのは、三世代同居・近居に象徴される家族のつながりの強さや「3人っ子の子育て応援」など家庭、地域、企業、行政が連携して、結婚から出産、子育ての各ライフステージに応じたきめ細かな応援をおこなってきた結果です。

今後は、高齢化が進む中で出産期の女性が減少します。家族や地域のつながりが残る福井の強みを活かし、子どもを産み育てやすい地域社会づくりを一層進める必要があります。

人口減少・超高齢社会の到来は、労働力人口の大幅な減少などによる成長力の低下や医療・介護など社会保障費の増大を招くなど、社会全体に大きな影響を及ぼします。

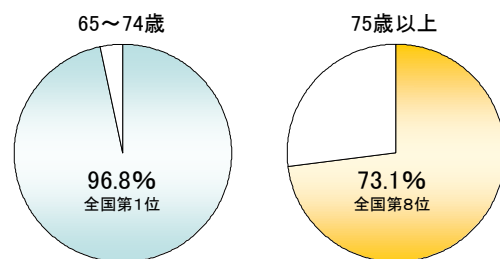
その一方、戦後直後に生まれた「団塊の世代」を中心に、社会の第一線を退いた元気で活動的なシニア層が増えています。豊かな経験や能力を活かしながらネットワークを広げ、地域活動や街づくりの応援、地域ビジネスなどが盛んにおこなわれつつあります。

福井は、健康で長生きの高齢者の割合が全国トップクラスの水準にあります。終戦直後には全国下位にあった平均寿命は大きく伸びました。平成17年現在、福井の女性の平均寿命は86.25歳（全国11位）、男性は79.47歳（全国4位）となっています。

高齢者の健康度を示す「元気生活率」（要介護認定を受けていない人の割合）をみると、65～74歳のほぼ全員、75歳以上も4人に3人が健康で元気な暮らしを送っています。

福井は「健康長寿」を活かすことによって、健康で元気な高齢者が活躍・貢献する社会づくりを率先して進めていく必要があります。

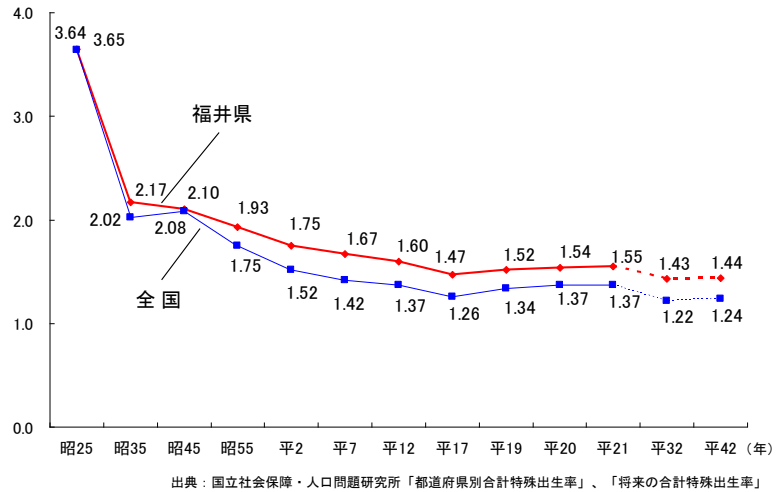
福井県の高齢者の「元気生活率」



出典：厚生労働省資料（平成22年3月末現在）

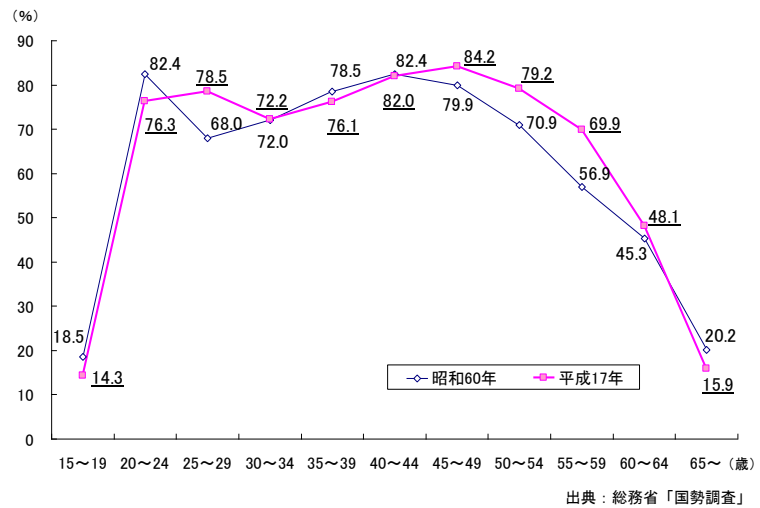
### 合計特殊出生率の推移と将来推計

[データ解説]  
 福井の合計特殊出生率は、平成16年を境に5年連続の上昇傾向が続いています。  
 平成21年は1.55と全国第5位の水準にあります。



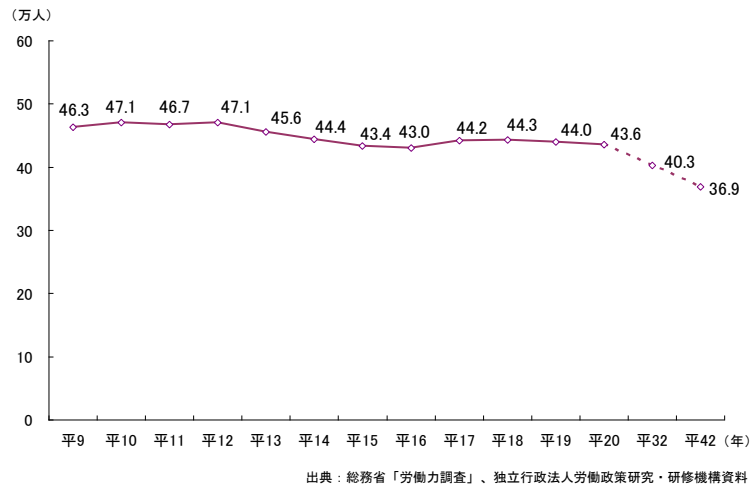
### 福井県の女性の年齢別労働力率

[データ解説]  
 福井の女性の有業率は5割を超え、全国第1位となっています。年齢別にみると、出産子育て期に労働力率が下がる「M字カーブ」を描いています。  
 25年前と現在とを比較すると、45～64歳の労働力率が上昇しています。



### 福井県の労働力人口の推移と将来推計

[データ解説]  
 労働力人口は、15歳以上の人口のうち、就業者と失業者を合わせた人数です。  
 福井の労働力人口は、徐々にではありますが、減少傾向が続いています。  
 国の研究機関においては、今後この傾向が続き、10年後には40万人、20年後には37万人にまで減少すると推計しています。



### ③ 地方と大都市の人口循環の創出

地方で生まれ育った若者の多くが就職、進学を機に大都市に移り住み、大都市の経済を支えています。戦後、ほぼ一貫して続くこのような人口移動により、わが国は高い経済成長を実現してきました。

福井は大学等への進学率（平成22年3月卒：57%）が全国上位であり、高校卒業を機に、毎年約3千人の若者が県外に進学しています。しかし、県の推計では、県外に出た若者が就職時にふるさとに帰ってくるのは、そのうちの約1千人程度にとどまっています。

このように、地方から大都市への一方的な人口流出が続いてきたことによって、わが国では「過疎と過密」、「大学や企業の都市への集積」などが進みました。地方と大都市の間に大きな歪みが生じ、深刻な社会問題の一つになっています。

低成長の時代に入った現在、大都市は必ずしもすべての人に「満足」や「希望」を与える場所ではなくなっています。近年、東京一極集中の動きが再び強くなる一方、都市の住民が住み慣れた大都市を離れ、自分の生まれ故郷やあこがれの地に移り住む「ふるさと回帰」の動きが、次第に活発化しています。

今後、地方と大都市との間において人口や産業をはじめとする新しい循環をつくり出し、わが国の社会構造、国土構造を変えていく必要があります。



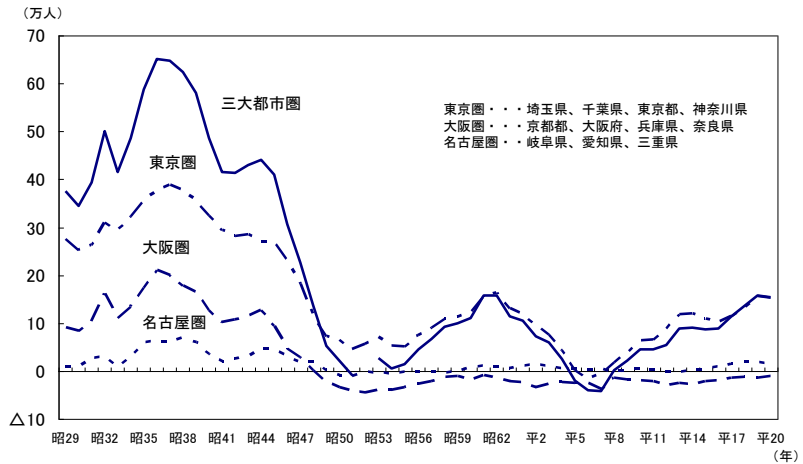
### 三大都市圏の転入超過数の推移

〔データ解説〕

高度成長期には、地方から大都市への「集団就職」が盛んに行われるなど、三大都市圏に人口が集中しました。

しかし、昭和40年代後半に入ると三大都市圏への人口流入は大きく減りましたが、東京圏に一極的に集中する新しい現象が見られるようになりました。

平成7年以降、人口の東京一極集中の流れは再び強まっています。



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

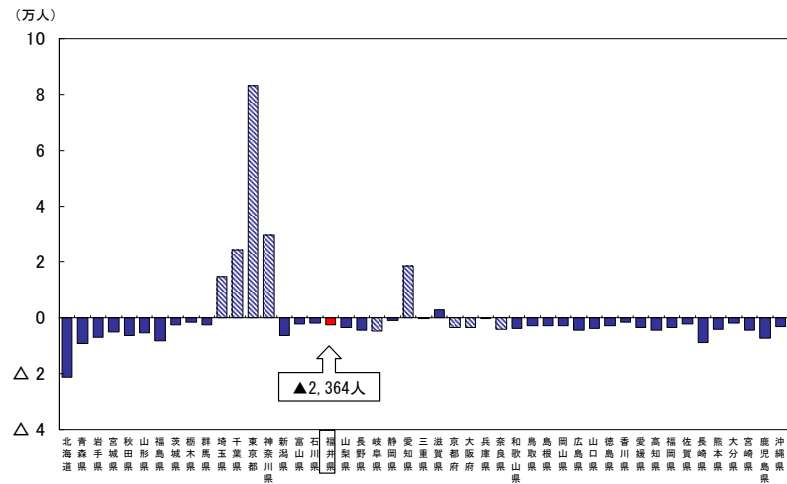
### 都道府県別転入超過数

〔データ解説〕

このグラフは、平成20年における県境をまたぐ転入者と転出者の差（社会移動）をみたものです。

福井は、他の地方圏と同じ傾向にあり、年間2,364人の転出超過となっています。

一方、東京をはじめとする首都圏には人口が大幅に流入（転入者>転出者）しています。また、愛知県、滋賀県など一部の大都市圏にも流入しています。



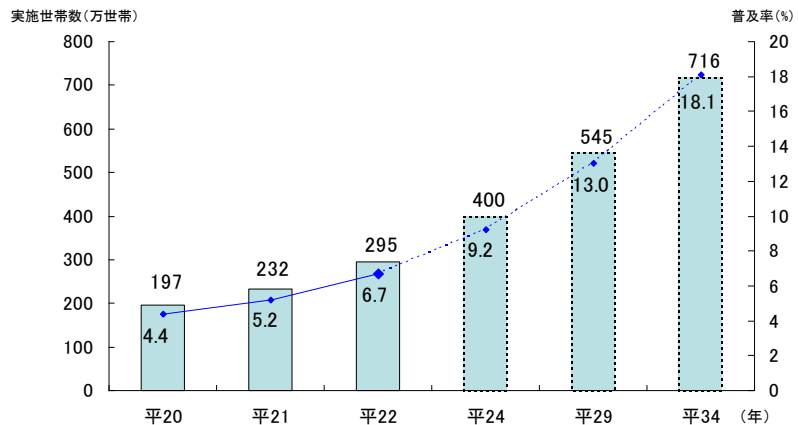
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（平成20年）

### ふるさと回帰の将来普及率と世帯数

〔データ解説〕

近年、住み慣れた大都市を離れ、生まれ故郷などに移り住む「ふるさと回帰」の動きが強まっています。

国土交通省などの試算によると、12年後の平成34年には716万世帯（現在の約2.5倍）に増え、普及率は18%にまで達するとされています。



出展：国土交通省 株式会社ふるさと回帰総合政策研究所 「平成19年度 地域への人の誘致・移動による市場創出の可能性及び方策に関する調査」

## (3) つながり希薄化社会（人間関係の変化）への対応

### 福井の進むべき3つの方向

- ① 福井に残る絆を活かした地域づくりの推進
- ② 行動と交流を生み出す県民気質の醸成
- ③ 青少年の自然体験・社会経験の機会づくり

### ① 福井に残る絆を活かした地域づくりの推進

戦後、個人の思いや行動を尊重する個人主義の考え方が広く浸透しました。生活は豊かになり、一人ひとりのライフスタイルは大きく変化し、また多様化しています。

かつて家族や地域社会は、強い絆の下で私たちの生活に大きな影響を与えてきました。高度成長期には、家族や地域社会における人のつながりは次第に弱くなる一方、企業にコミュニティの役割を求める人びとが増えました。

グローバル化の進展とともに終身雇用の保証はなくなり、企業が果たしてきたコミュニティ機能も弱まっています。さらに、高齢化や晩婚化・非婚化により単独世帯も増加し、孤立する人が増え、大きな社会問題になっています。

しかし、福井においては、多世代が共に支え合いながら暮らす「三世代同居」（全国第2位）や「三世代近居」に代表されるように、家族のつながりや絆がしっかりと残っており、福井の子育てや優れた教育、高齢者の元気を支える大きな力となっています。

「家族」を大切にしたいと思う県民の気持ちは、意識調査の結果（平成22年6月実施）にも表れています。

その一方、単独世帯の割合は増え続け、すでに「三世代同居」を上回っています。福井の単独世帯の割合は、10年後には28%（全国34%）、20年後には31%（全国37%）を超えると推計されています。

福井も社会の大きな変化と無関係ではありません。これからの10年、福井の子育てや教育、高齢者の元気など、日本有数の生活環境を支えてきた福井の良さが失われてしまう前に、一人ひとりの生活を応援し、みんなで支え合う地域社会を構想し、みんなが協力してつくり上げていく必要があります。

### 福井県の三世帯世帯数と単独世帯数の推移

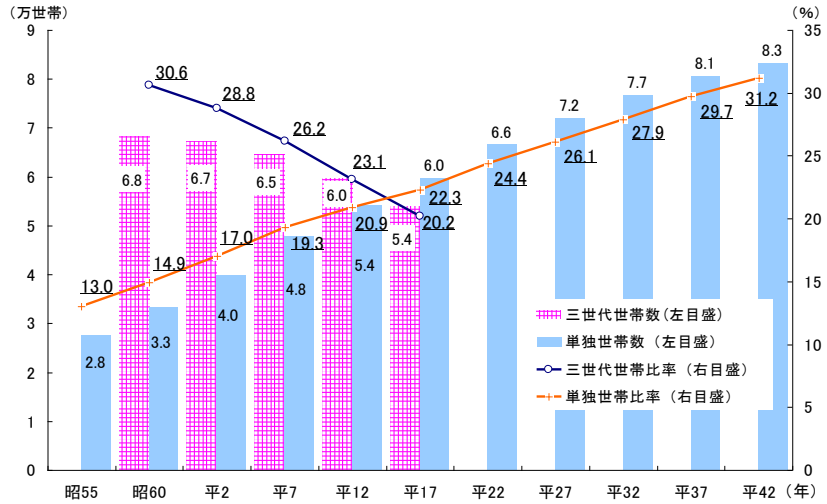
〔データ解説〕

福井の「三世帯同居」は約5万4千世帯あり、全世帯の20%を占めています（平成17年）。

25年前の昭和60年と比べ、10ポイント減少しています。

一方、「単独世帯」は年々増加し、平成22年には約6万6千世帯に達し、すでに「三世帯同居」を上回っています。

「単独世帯」は今後も増え続け、平成32年には7万7千世帯、平成42年には8万3千世帯になると推計されています。

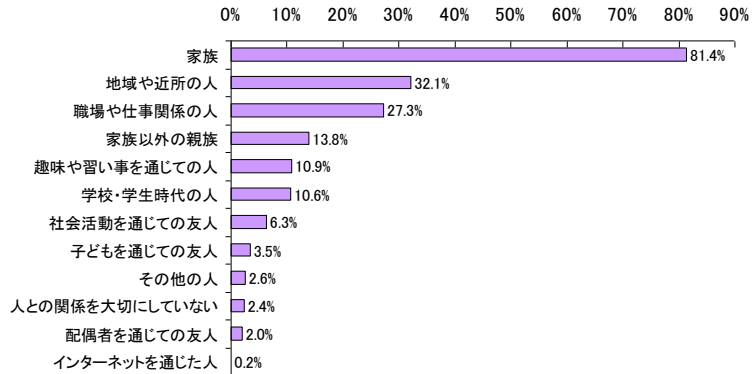


出典：総務省「国勢調査」  
国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計」

### 福井県民が大切にしたいと思っている人との関係

アンケート回答数：2501件（回収率50.02%）

「日々の生活で、どのような人との関係を大切にしているか」を以下の項目から2つ選択



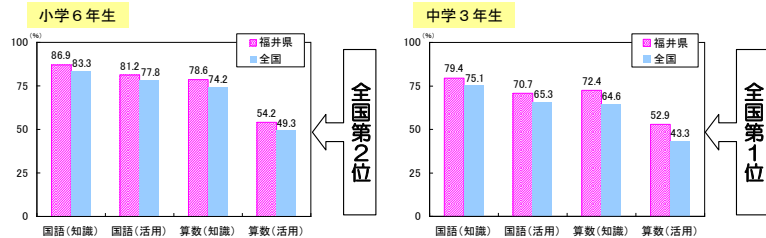
出典：福井県「県政マーケティング調査」（平成22年6月）

〔データ解説〕

県民が大切にしたい人間関係は、「家族」が81.4%と群を抜いて高くなっています。

次いで、「地域や近所」(32.1%)、「職場や仕事」(27.3%)の順に高くなっています。

### H22年度全国学力・学習状況調査における各教科別正答率

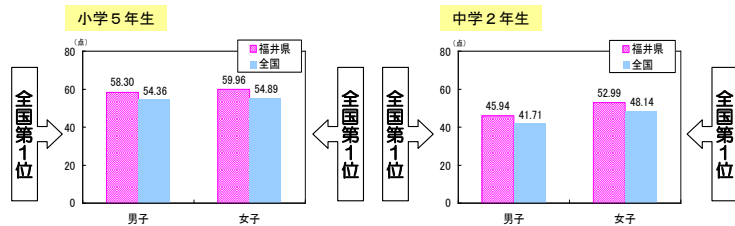


〔データ解説〕

福井の子どもたちの学力・体力は、全国最上位の水準にあります。

この成績は、平成19年に「全国学力・学習状況調査」、また、平成20年に「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」が始まって以来、維持しています。

### H22年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点



## ② 行動と交流を生み出す県民気質の醸成

福井は、他の都道府県との間における人口の移動率（県外からの転入、県外への転出）が最も低い県の一つです（全国45位）。

大都市ほどつながりの希薄化が進まず、地域社会において互いに助け合いながらよくまとまっているのは、この人口移動率が低いことも一つの要因であると考えられます。

若狭地方では、「京は遠ても18里」（1里は約4km）と言われてきました。福井が安定した豊かな暮らしを維持できるのは、地域に地場産業が育つとともに、関西・中京などの大都市圏から近すぎずまた遠すぎないという、適度に離れた地理的条件にも一因があります。

福井は、大都市のベッドタウンとなり急激な都市化がもたらすさまざまな課題に巻き込まれるほど近くはありません。また、ビジネスをおこなうにしても大都市に拠点を移さなければならないほど遠くはありません。

福井は嶺南、嶺北で気候風土が異なるという違いはありますが、このような条件に恵まれ、全国の中でも県としての独立性を維持している県であり、県としてのまとまりを強めることによって新しい時代の豊かさを実現していける地域です。

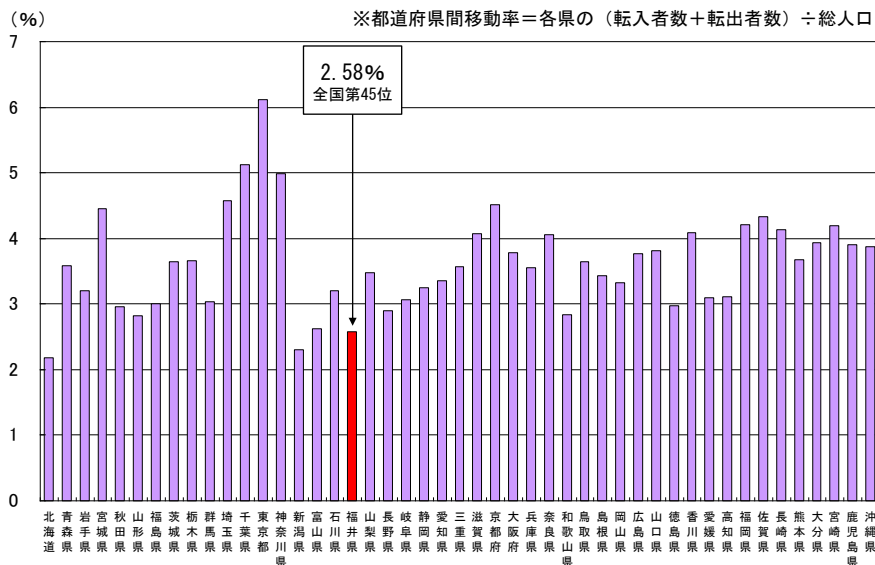
その一方、このような地理的な特性に裏づけられた家族や地域内における強い絆意識が影響し、「外に対して閉鎖的」、「積極的に前に出たがらない」と言われる県民気質も指摘されます。

福井には、時代の大変革期であった幕末・明治期に新しい時代を構想し、また積極的に外に出てさまざまな分野で活躍し、歴史に名を刻んだふるさとの偉人が数多くいます。政治・行政の分野では、松平春嶽をはじめ梅田雲浜、由利公正、橋本左内などがいます。また、文化面では、『茶の本』の出版などにより東洋文化を欧米に紹介した岡倉天心がいます。

グローバル化が進む中、県内企業の海外進出も増え続けており、また多くの海外留学生が県内の大学などに学ぶようになっています。

これからは、自らの殻を破り時代をリードする気概と行動力を持った県民気質を醸成するとともに、国内外の多くの人たちとの交流を活発化し互いに刺激し合うことによって、新しい時代の豊かさを福井からつくり上げていく必要があります。

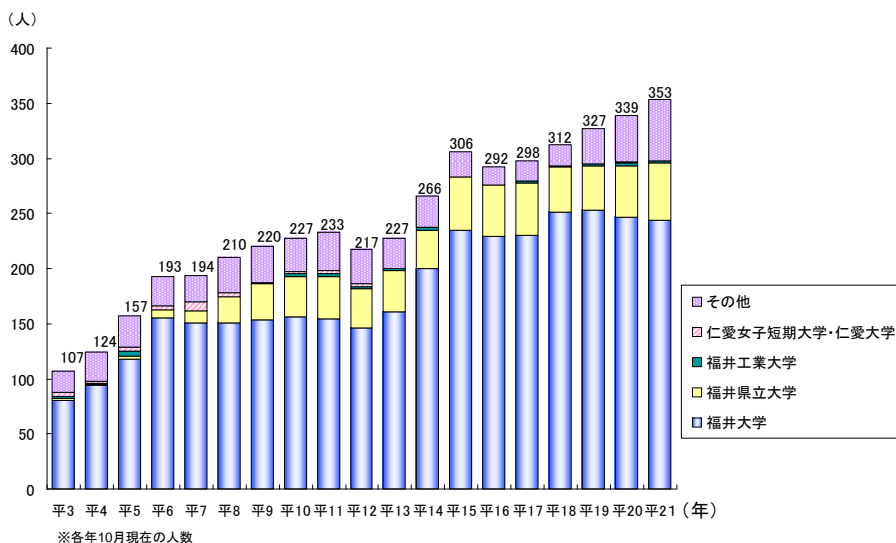
### 都道府県間移動率



〔データ解説〕  
 都道府県別に人口に占める移動者（転入者数+転出者数）の割合をみました。  
 福井の県境をまたぐ人口の移動率は、北海道、新潟に次いで低く、県人口のわずか2.58%にとどまっています。

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（平成20年）

### 外国人留学生の受入れ状況の推移



〔データ解説〕  
 県内の大学など高等教育機関に留学している外国人学生の推移を表しました。  
 外国人留学生の数は、この10年間で約1.6倍に増えています。

出典：福井県国際・マーケット戦略課「福井県の国際化の現状」  
 ※福井県留学生交流推進協議会調べ

### ③ 青少年の自然体験・社会経験の機会づくり

グローバル化やインターネットの普及などの情報化が急速に進み、私たちの日常生活においては、リアリティのある人とのつながりや自然体験、社会経験が少なくなっています。

特に、近年、屋外に出て自然の中での遊びやスポーツを楽しむ子どもたちが減っています。また、海外旅行を楽しむシニア層が増える一方、若者の海外旅行は減っています。外に目を向けて実体験を積み重ねようという意欲が、若者を中心に低下しつつあることが懸念されます。

子どもたちはさまざまな体験や経験を積み重ねることによって、将来たくましく行動できる人間に育っていきます。

福井は四方を山と海とに囲まれており、水源や河川の流域が県内においてほぼ完結し、コンパクトにまとまっている全国にも珍しい「箱庭の自然」を持っています。日本に生息・生育する数多くの動植物分布の北限、南限が集中する地域でもあります。

また、県内の各地域では、ラムサール条約湿地に登録される「三方五湖」など湖や湿地の保全活動、豊かな地下水「御清水」<sup>おしよすず</sup>を生活水として守り活用する活動、「コウノトリの古里」の再生をめざし農業を使わない農地を広げる活動など、地域住民が主体となった自然環境の保全・創造活動が徐々に広がってきています。

このように美しい自然環境が残る福井は、身近な自然環境、生活環境を自らの手で守り育てていく体験を通じて、環境が良くなっていくことを実感できる優れた立地条件にあります。

しかしながら、改良・整備が進んだ優良農地は、後継者がなく耕作しないまま放棄されるケースも増えています。また、山を守る後継者の不足により山林、山ぎわの荒廃が進み、生物多様性の確保や土砂流出防止など森林本来の機能が低下しています。中山間地域においてはイノシシやシカなどの鳥獣被害が常態化しています。さらに海辺では、砂浜の侵食など自然環境の劣化も進んでいます。

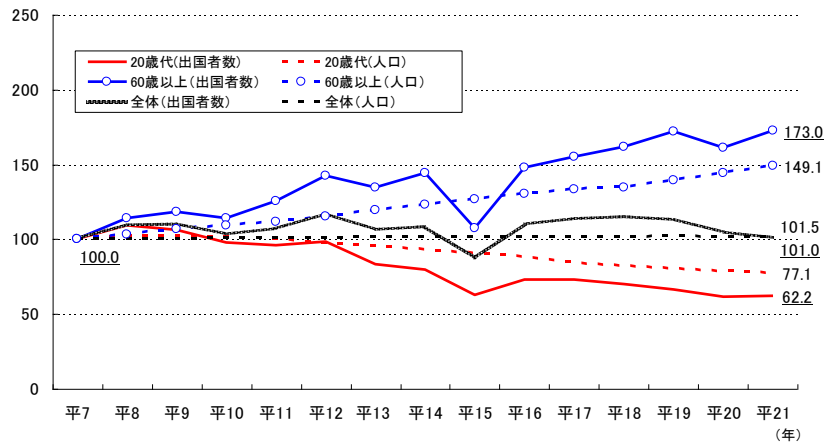
私たちの生活に安らぎとうるおい、安全と安心を与え、また、子どもたちの体験の場にもなる自然環境、生活環境の保全と創造が、今後の大きな課題です。

### 日本人出国者数の推移 平成7年=100

〔データ解説〕

日本人の海外への出国者数の推移をみたグラフです。

平成7年を基準にすると、60歳以上の年齢層における出国者数が1.7倍に伸びる一方、20歳代の出国者数は約6割にまで減っています。

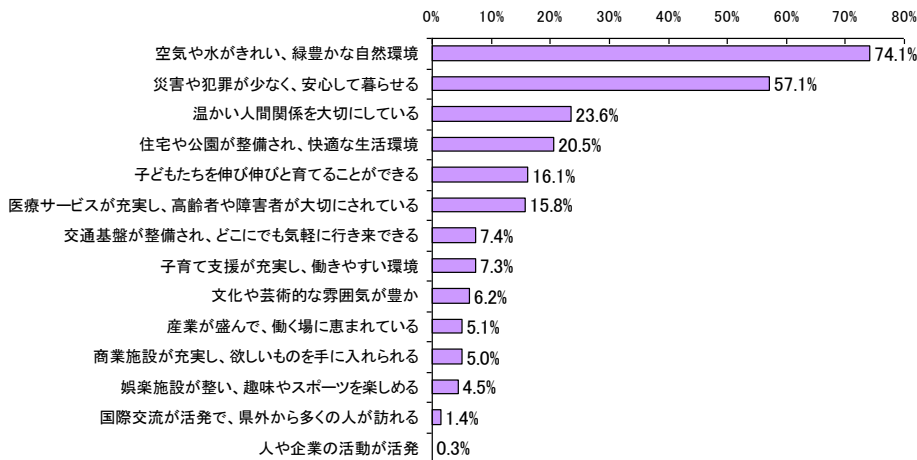


出典：法務省入国管理局「出入国管理統計」

### 福井県民が考える福井県の良いところ

アンケート回答数：2501件（回収率50.02%）

「福井県の良いところはどこだと思うか」を以下の項目から3つ選択



出典：福井県「県政マーケティング調査」（平成22年6月）

〔データ解説〕

県民に「福井の良いところ」を聞きました。「空気や水がきれい、緑豊かな自然環境が守られている」が74.1%と一番多く、「災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる」(57.1%)が続きます。

次いで、「地域コミュニティの結びつきが強く、温かい人間関係を大切にしている」(23.6%)、「住宅や公園、下水道などが整備され、快適な生活環境の中で暮らすことができる」(20.5%)の順となっています。

一方、「人や企業の活動が活発」(0.3%)、「県外から多くの人が訪れる」(1.4%)と答えた人はわずかにとどまっています。

## 課題解決の方向性

これまで述べてきた日本社会の大きな変化の中、福井は将来に向けてどのような方向に進むべきでしょうか。福井県民が過去から受け継ぎ、築いてきた強みを活かし、将来を切り開いていくためには2つの基本的な方向を共有することが重要です。

一つ目は、少子・高齢化に伴う社会構造の変化に対応して、地域社会や行政のあり方を「成長・拡張型」から「持続・安定型」へ変えていくことです。具体的には、福井の地域社会に残る人びとのつながりを再構築し、活力のある暮らしのスタイルをつくり上げていくことをめざしていきます。

これからは、かつてのような高い経済成長は期待できません。経済成長や財政の拡大によって新しい施設やサービスをつくり出し、課題を解決することはできなくなりつつあります。私たちが知恵を出し、協力してさまざまな課題に立ち向かっていく必要があります。

行政の役割もこれまでにつくった施設を維持し活用すること、また、地域の住民や企業、さまざまな団体間のつながりを強化し応援することに重点が移っていきます。

経済の分野においても生産（量）を増やして利益を得るのではなく、これまで以上に人びとのニーズの変化に合った付加価値の高い製品をつくることが求められます。質の高い伝統工芸品やコミュニティ・ビジネスなど、社会ニーズの変化に適応した分野には大きな可能性が出てくるでしょう。

二つ目は、成長を続けるアジアの活力をしっかりととらえることです。アジアに開かれた福井の特性を活かし、アジアのマーケットや観光客などをしっかり取り込んでいくことが欠かせません。地域内を安定させる一方、外に向かってはチャンスを広げ積極的に出て行くことが、これからの行動の基本となります。

アジアでは、経済成長を支える製造業の発展は著しいものがありますが、製品の基幹部分や高い信頼性が求められる部品などはまだまだ日本の技術が支えています。オンリーワンの部品技術は福井の中小企業の得意とするところであり、大きなチャンスがあります。



グローバル化が進む中、日本の国内総生産（GDP）に輸出がどれだけ寄与しているかをみると、その影響度はすでに韓国やドイツを下回り、スウェーデンや中国と比べると半分以下になっています。「貿易（輸出）立国」という言葉は、今の日本には当てはまらなくなっています。福井の企業は優れた技術に磨きをかけ、積極的に海外マーケットを開拓していくことによりビジネスチャンスが広がります。県は、そのためのきめ細かな支援をおこなっていきます。

また、成長するアジアでは、多くの富裕層が育っています。観光や伝統工芸品、安全でおいしい食など、「暮らしの質」に関わるニーズが高まっています。十分な市場調査をおこない、伝統的な技法にデザイン性を加えるなど付加価値を高めていくことによって、この需要を確実にとらえていく必要があります。

新しい方向に進んでいくためには、既存の考え方にとらわれない大胆で柔軟な発想と、自ら考え新しいことに向かう果敢な「挑戦力」が不可欠です。

例えば、65歳以上の人びとを高齢者とみなして労働力の外側に置くことは、その豊かな経験や知識、社会に貢献する気持ちを活かす大きなチャンスを奪うことになります。私たちに求められているのは、福井の元気な高齢者の実態に即した「高齢者観」をつくるとともに、アジアの成長や地域の結びつきを福井の活力とする仕組みを考えることです。

これを実現するためには「人づくり」が最も重要です。高度成長期など社会が順調に成長しているときには、社会の成長とあわせ自然に人材も育っていきました。一方、社会が転換期にあるときには、「人」が社会の進むべき方向を決める鍵となります。

多くの有為な人材を輩出した幕末から明治にかけての維新时期には、「人づくり」が各地で盛んにおこなわれました。現在もまた、この時代と同様「人づくり」を最優先に進める時期です。

県民や企業、さまざまな団体との意見交換会において、多くの方が「人づくり」の重要性を指摘しているのは、福井が時代の転換期にあることを感じているからだと考えられます。このビジョンが「人づくり」を大きな柱としているのは、このような思いを共有するためでもあります。

この方向性に基づき、「福井がめざす将来像」を具体的に見ていきます。



## 5 福井がめざす将来像

福井の置かれている厳しい現状を認識しつつ、「福井の優位性と可能性」を最大限に引き出し、これを活かしていくという視点を強く持って、この10年間に実現をめざす福井の方向性、将来像を描きます。

『希望ふくい』の創造」という基本理念の下、私たち福井県民は思いを共有しながら、実際の行動に移し、次に掲げる大きな2つの将来像の実現をめざし努力していきます。

### 福井がめざす将来像

- (1) 「縁を活かす」福井流生活の確立と継承
- (2) 「アジア交流ゾーン福井」の成長と未来への貢献

## (1) 「縁を活かす」福井流生活の確立と継承

- ① 「つながりの力」による課題解決先進県
- ② 「社会貢献層」として元気高齢者が活躍する健康長寿社会
- ③ 貢献心を持った「新しい<sup>わたくし</sup>私」が活躍する社会
- ④ 福井ゆかりのネットワークによる「ふるさと県民」百万人

### ① 「つながりの力」による課題解決先進県

福井は、少ない失業、高い就職率、夫婦共働き、高い世帯収入など「経済的な豊かさ」、豊かな自然、広い持ち家、三世代同居・近居など「住み良さ」、健康長寿、高い学力・体力、ボランティア活動など「県民の資質・行動力の高さ」が、いずれも全国トップクラスの水準にあります。

県民意識調査（平成22年6月実施）の結果によると、8割を超える県民が「福井に暮らしてきたことに満足感」を持っています。

福井においては、これまでも県民、企業、団体、行政などさまざまな主体が共に行動することによって、子育てや教育、結婚、高齢者の介護などを互いに応援し、支え合う仕組みをつくり、課題解決に挑戦してきました。このように、みんなで築き上げた豊かな生活環境が、私たちの今日の高い「生活満足度」につながっています。

グローバル化と少子・高齢化が進み、地域の絆が希薄になるにつれ、人びとの中に互いにつながりを求める気持ちが強くなっていることは、社会的な存在である人間として自然なことです。

この四半世紀、社会のために役立ちたいと思っている人びとの割合は、ほぼ一貫して増え続けています。今日では約7割にまで達しており、社会構造の変化に伴い私たち日本人の気持ちにも変化が表れています。

今こそ私たちは、「ふるさと福井」の歴史や良き伝統・文化の中で育まれてきた「つながりの力」を活かすときです。未来への「希望」を持ち行動を起こすことによって人と人との「つながり」を再構築し、新しい県民の生活スタイルをつくって今の豊かさを次の世代に引き継いでいきます。

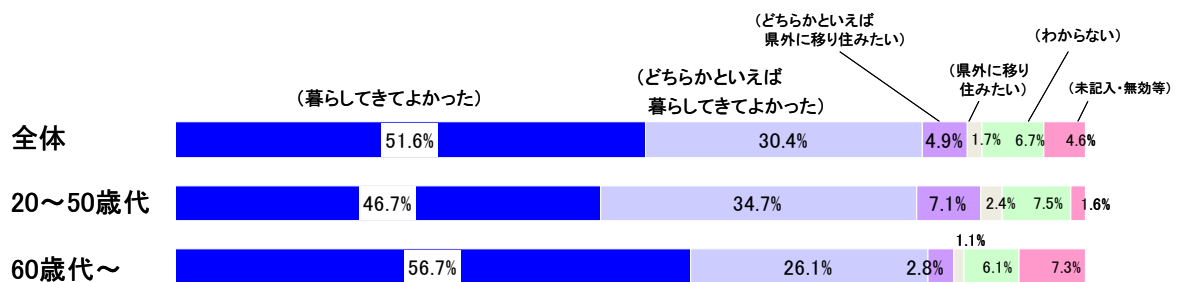
そのためには、グローバル化や人口減少・超高齢化が進む中、子育て、教育、雇用、結婚、医療・介護など直面するさまざまな課題を、一人ひとりの暮らしやライフステージに応じて最優先で解決していく必要があります。

福井の最大の強みである「つながりの力」を活かして、県民が一致協力し、こうした課題の解決のために全力を尽くします。

結婚や子育て世代の応援、誰もが「健康長寿」を全うするための健康づくりなどの県民運動や地域システムづくりを進め、課題解決の先進県をめざします。

## 福井に暮らしてきたことに対する県民の満足感

アンケート回答数：2501件（回収率 50.02%）



出典：福井県「県政マーケティング調査」（平成22年6月）

### 〔データ解説〕

福井に暮らしてきたことに対する県民の思いを聞いたところ、「暮らしてきてよかった」と答えた人が 51.6%、「どちらかといえば暮らしてきてよかった」が 30.4%となっており、両方を合わせた「福井に暮らしてきたことに満足感」をもつ県民の割合は 82.0%となっています。

## ② 「社会貢献層」として元気高齢者が活躍する健康長寿社会

人口減少・超高齢社会においては、県民が互いに助け合い、協力し合わなければならない場面が増えてきます。これは同時に、多くの県民が活躍できる場や機会が増えることでもあります。

10年後、福井においては、65歳以上の高齢者の割合（高齢化率）が3割を超えます。しかし、今日すでに60歳代、70歳代の世代は、健康を維持し元気に活動する「アクティブ・シニア層」です。

「健康長寿」日本一の福井だからこそ、これまでの「高齢者観」を根本的に転換することができます。福井においては、60歳代、70歳代を中心に健康で元気なシニア層を「社会貢献層」ととらえ直す新しい高齢者観を共有します。

これまでの年齢の区分から生まれる固定観念にとらわれることなく、県民一人ひとりが意欲や経験、体力に応じて地域や社会のために行動する動きをつくり出すことによって、年を老いても元気で生きがいを持って暮らし、活躍することのできる社会を実現します。

そのため、地域における活動やボランティア、自己啓発・学習などをおこなうことができるトータルなシステムをつくり出します。

このような新しい地域活力の仕組みをつくり、日本だけでなく、今後アジアにおいても急速に進む超高齢社会のモデルをめざします。

### 新しい年齢観と「社会貢献層」



### ③ 貢献心を持った「新しい私」<sup>わたくし</sup>が活躍する社会

他の人のために役立ちたいという抽象的な気持ちが、福井では、家庭菜園で育てた野菜をはじめ海・山・里・川の旬の味覚などを、となり近所や親戚、親しい仲間へ届けるような、具体的な「おすそわけ」の文化として定着しています。

また、ロシアタンカー重油流出事故（平成9年1月）、福井豪雨災害（平成16年7月）などの大きな事故や災害を経験し、私たち一人ひとりのボランティア精神は大きく育ちました。

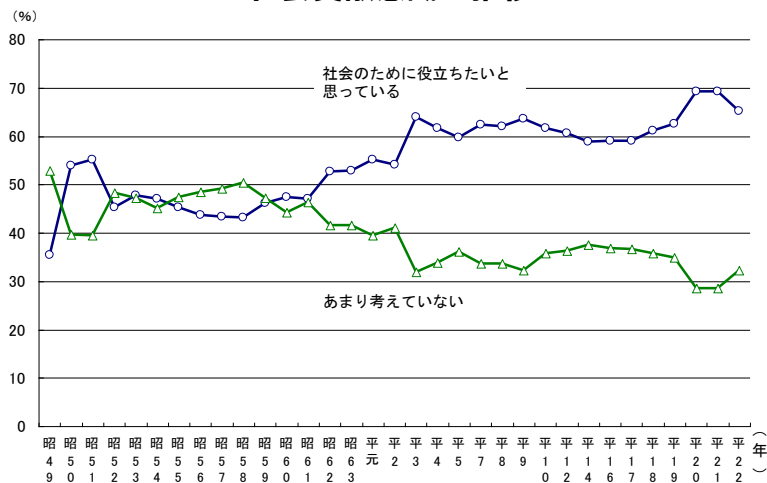
福井においては、こうした経験の積み重ねもあって、現在、災害時だけでなく日々の子育てや教育、地域の安全・安心のための活動が活発に行われています。

こうした良き伝統・文化、経験を活かし、他人や地域社会のために貢献したいという思いを持った「新しい私」<sup>わたくし</sup>が、「おすそわけ」のようにちょっとした「志」を交換・共有し、家庭や地域社会において「もう一役」を買って出る気風を育てます。

「新しい公」<sup>おおやけ</sup>は、財政状況が厳しくなる中、政府が国民に行政の一端を担う役割を求める考え方でした。一方、「新しい私」<sup>わたくし</sup>は、時代の転換期に生きる私たちが他者や社会のことを考え、自ら行動し貢献する、これからの個人の生き方を示すキーワードです。

県民一人ひとりが人的ネットワークを広げることによって、人を助け、人に認められることへの喜びと同時に、人に助けられることへの感謝の気持ちを実感できる社会をめざします。

社会貢献意識の推移



出典：内閣府「社会意識に関する世論調査」

## ④福井ゆかりのネットワークによる「ふるさと県民」百万人

高度成長期以来、東京、大阪などの大都市圏を中心に福井から転出した人は、推計で約80万人にのぼります。転出者のうち半分が福井にUターンしているとしても、全国には40万人の福井人が生活をしていることとなります。

県外への人口流出は、県内における活力低下の一つの要因ですが、見方を変えると、全国各地に40万人の福井ゆかりの人びとがいるということです。家族を含めると、その数はさらに増えることとなります。

私たちは、人口の減少や転出を心配するだけでなく、開かれた発想で国内外にネットワークを広げ、県外から知恵やアイデアを取り入れ、力を合わせて地域の活力をつくり出す気概を持つことも必要です。

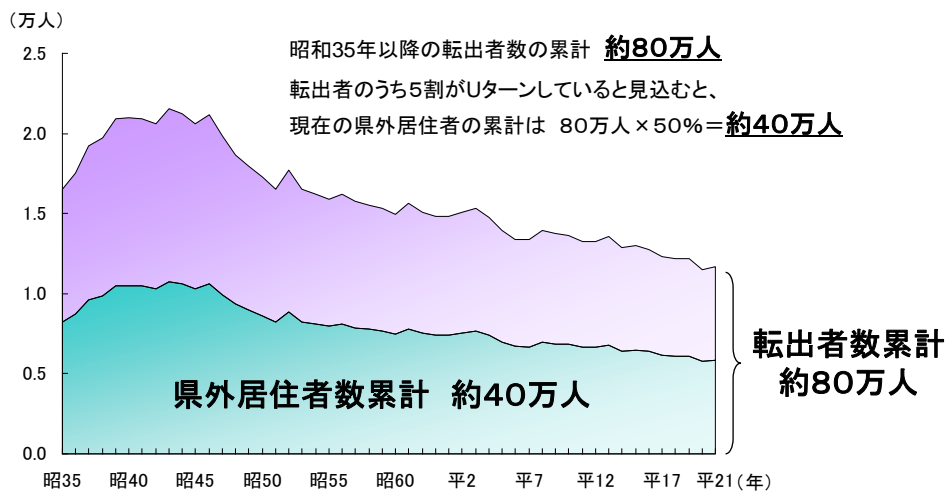
福井は、「ふるさとを応援したい」という人びとの思いを形にする「ふるさと納税」の仕組みを最初に提唱し、国の税制度として実現しました。また、「ふるさと納税情報センター」を独自に設置し、全国の先頭に立って「ふるさと納税」制度の普及と寄付の拡大を進めています。

また、全国の11県が参加する「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」を創設し、地方の新しい活力のあり方を共に考え、地方から日本を元気にする政策を提案しています。

これからも「ふるさと帰住」や「ふるさと起業」などの施策を進めるとともに、広い視野をもって県外在住の福井出身者、福井創業の企業、全国や世界の福井ファンの知恵やエネルギーを活かす県の外とのネットワークを強化し、「人口百万人規模の地域活力」を生み出していきます。



### 福井県からの転出者の推移と県外居住者推計



出典：総務省「住民基本台帳移動報告」

## (2)「アジア交流ゾーン福井」の成長と未来への貢献

- ① 関西・中京などとアジアをつなぐ交流ゾーン
- ② グローバルな視野を持つ若者や企業人を輩出
- ③ 「ふくいの後継者」育成による商工業や農林水産業の発展
- ④ アジアの環境・エネルギー問題の解決に貢献

### ① 関西・中京などとアジアをつなぐ交流ゾーン

福井は、関西・中京圏に近くアジアに開いた地理的特性、ものづくりやエネルギーに関する長年にわたる技術集積など歴史的特性を持っています。

こうした福井の強みを活かすことによって、私たちはアジアの活力を最大限に取り込み、アジアに貢献しながらアジアの発展とともに成長する道を歩んでいくことができます。

敦賀港は、平成22年に国際ターミナルの整備を終え、国の「重点港湾」指定も受けました。官民共働のポートセールスを強め、コンテナ貨物取扱量も次第に増えつつあります。また、敦賀と関西圏を若狭湾岸経由で結ぶ舞鶴若狭自動車道も平成26年度に全線が開通する予定となっており、嶺南地域から外に伸びる大動脈は5年以内に完成します。

さらには、奥越から長野、愛知など中部日本の各都市や首都圏につながる中部縦貫自動車道、北陸信越の各県を經由し首都圏に直結する北陸新幹線の整備を着実に進めることによって、大都市圏とのアクセスは格段に向上し、アジアと太平洋をつなぐ中心地として福井が成長するための基盤が整います。嶺南地域の新たな鉄道についても、新幹線の延伸や生活面、観光面の拡大を踏まえ、地元市町とともに引き続き検討を進める必要があります。

こうした港湾や高速交通ネットワークの完成・延伸を最大の好機ととらえ、観光など外に向けた働きかけを強めることによって、県内各地域の活力を最大限に高めていきます。

アジア各国・地域との間で「信頼」のパートナーシップを築き上げ、関西・中京経済圏とアジア経済圏をつなぐ環日本海の「交流ゾーン」となって、ビジネスチャンスと人、モノの行き来（人流・物流）を飛躍的に拡大していきます。

## ②グローバルな視野を持つ若者や企業人を輩出

「粘り強い」、「勤勉でまじめ」と評される福井県民には、多様化する一人ひとりの価値観やライフスタイルを十分尊重しながら、力を結集して粘り強く街づくり、地域づくりを前進させる資質が備わっています。

かつて高度成長期の日本では、一生懸命働けば、それに応じて所得が伸び、みんなが明日に「希望」を持って頑張っていくことができました。

しかし、私たちは戦後65年を経てグローバル化、人口の減少や高齢化という経済・社会構造が変わる時代の大きな転換点に立っています。多くの課題に直面する今日は、また多くのチャンスがある時代でもあります。課題をチャンスととらえ挑戦を行い、活力を生み出す「人材」の育成が最も大切です。

福井には、子どもたちの「学力・体力日本一」という教育の優れた基盤が整っています。全国の中でも、次の世代を担う「人づくり」について県民が一致協力して次のステップに挑戦できる最も近いポジションにあります。

「視点が短期的」、「外に対して閉鎖的」と言われる県民気質をあらため、「長期的な視点や目標を持って、外に開き積極的に働きかける」という姿勢を持ち行動することによって、将来を切り開いていくことができます。

「ふるさと福井」に誇りを持ち、グローバルな視野を持って幅広い分野で活躍できる人材、新しい分野にチャレンジする企業を数多く輩出していきます。

「アジアの中の福井」として、福井に本拠を置くグローバル人材、グローバル企業がアジア人脈を開拓し、活動のエリアをアジア中心に世界に広げていきます。その第一歩として、私たちの「志」を外に向け、互いに尊重し学び合う、現代における「魯迅・藤野巖九郎モデル」が築けるよう一丸となって努め、アジアをはじめ世界の人びとに頼られる福井人をめざします。

### ③ 「ふくいの後継者」育成による商工業や農林水産業の発展

アジアの国々の成長により、富裕層や中間層に属する人口が急増しています。これに伴い、アジア市場における消費者ニーズも大きく変化し、食品や日用品などに対する安全志向や高級志向、本物志向が強まっています。

福井には、全国的に見ても規模の大きな伝統的工芸品や繊維・眼鏡など高い技術力を有し生産を維持している「産地」が集積しています。

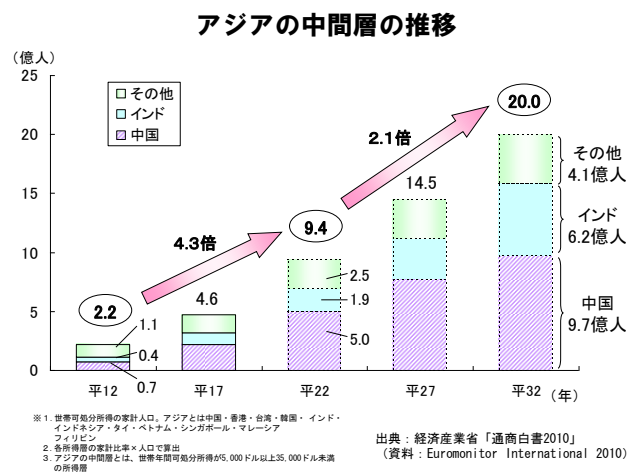
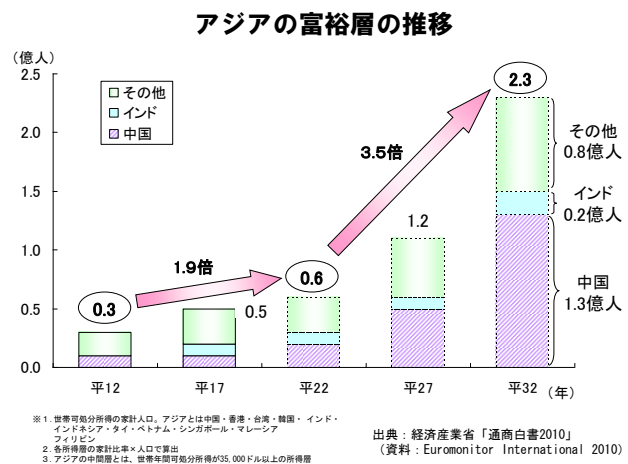
これからは、確かな技術力に支えられた優れた製品・商品が、アジア市場の中で求められる時代になります。福井の技術力とアジアのニーズを融合し、福井の「後継者ブランド」として育て、将来に継承していくことによって、大きな発展のチャンスが生まれます。

農林水産物についても、日本の商品の持つ品質と安全性に対する信頼の上に、福井のブランドとしての価値をつくり上げていくことによって、大きなマーケットを獲得できる可能性があります。

まず、ふるさとの先人から受け継いできた福井の優れた技術や能力、文化を次の世代に継承・発展させていくため、各分野の熟達者が師（先生）となって「ふくいの後継者」を育成します。

福井の若者が自らの技術や能力を継続的に磨く仕組みをつくり、商工業や農林水産業、伝統工芸、伝統文化の継承などさまざまな分野の「後継者」を育成することによって、福井の活力を生み出していきます。

福井産地の「後継者」が製品、商品、農林水産物などの付加価値を高め、国内外に向けて積極的にセールスする「後継者ブランド」の企業を積極的に応援する仕組みをつくっていきます。



## ④アジアの環境・エネルギー問題の解決に貢献

世界の人口はアジアを中心に今後も爆発的に増加し、また、世界経済もアジアを軸に成長していきます。その一方、エネルギーや食料の不足、地球温暖化などの環境問題、高齢化などの人口問題が、福井も巻き込みながら地球規模で深刻化していきます。

近年、3つの「E」（「経済の発展=Economy」、「資源・エネルギー・食料の確保=E<sub>nergy</sub>」、「地球環境の保全=E<sub>nvironment</sub>」）が、特に強調されています。

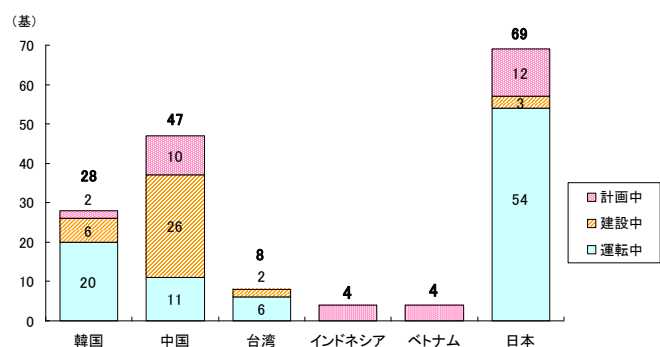
豊かな自然に恵まれ、「環境貢献度」の高い福井だからこそ、「経済の発展」に一方的に偏ったこれまでの考え方や行動を率先してあらため、この三つをバランスさせる新しい生活のスタイルをつくり上げていくことができます。

私たちは、アジアの国々の「成長の先にある課題」を解決するための模範を示し、アジアに貢献する姿勢を強く持って、これから先、直面するさまざまな課題を解決していきます。

第一に、環境・エネルギーの分野において、国や電力事業者、企業などと協力しながらアジア各国・地域との間で研究開発や人材育成のための地域協力の枠組みをつくり、国内外の環境・エネルギー問題の解決に向けて積極的に貢献します。また、私たちの日常生活において、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の排出をできるだけ抑える低炭素の街づくりを進め、地球環境問題にも貢献していきます。

第二に、海や山、里、川、水、動植物など福井の豊かな「自然資本」を未来に引き継ぐための活動を活発化させ、「環境と生活」、「環境と産業」を両立させるローカルの仕組みをつくり、国内だけでなく、経済成長が著しいアジアにおいて今後重視される環境保全のモデルを示します。

### アジアの原子力発電所の現状



出典：（社）日本原子力産業協会「世界の原子力発電開発の動向 平成22年版」  
※平成22年1月1日現在

#### 〔データ解説〕

アジアでは現在、37基の原子力発電所を新設しており、建設中のプラントは世界全体（66基）の56%を占めています。

また、アジアで計画中の発電所も32基あり、世界全体（74基）の43%を占めています。



## 第 2 章

# 実現のための戦略

# 1 戦略の体系

第2章では、基本理念「『希望ふくい』の創造」の下、第1章に掲げた福井の将来像の実現をめざして、これから先の10年間に、県民、企業、さまざまな団体、市町、県が共に考え、行動するための戦略を示し、大転換期にある福井の「活路」を開いていきます。

## 戦略の体系 (5つの「活」で福井の「活路」を開く)

- I 人が生きる(活躍)
- II つながりを活かす(活用)
- III 環境を創る(活動)
- IV 成長を産み出す(活力)
- V 交流を広げる(活気)

### ◎基本理念

「希望ふくい」の創造

### ◎福井がめざす将来像

- (1)「縁を活かす」福井流生活の確立と継承
- (2)「アジア交流ゾーン福井」の成長と未来への貢献

## I 人が生きる(活躍)

P 51 ~

「ふるさと福井」への誇りと愛着を持ち、自らの将来に「希望」を持ってグローバルな視野で行動する人材を育てます。県民一人ひとりが行動力を発揮する「県民活躍社会」を創出し、時代の転換期をリードします。

### I-1 「人づくり」先進福井

### I-2 県民活躍社会の創出

## II つながりを活かす(活用)

P 59 ~

福井に残る「家族や地域のつながり」、「人と人の新しい縁」を活かし育てることによって、子育て、高齢者福祉、地域の安全・安心を地域ぐるみで応援します。日本やアジアの先進モデルとなる地域社会を実現します。

### II-1 つながりで築く地域社会

### II-2 安全で安心な地域づくり



### Ⅲ 環境を創る（活動）

P 67～

福井の海・山・里・川など豊かな「自然資本」を守り育て、ふるさとの景観を維持・改善し、美しい「福井の風景」を次世代へ継承します。また、最先端となる低炭素の街づくりを進め、成長するアジアのモデルをめざします。

#### Ⅲ-1 美しい「福井の風景」創造

#### Ⅲ-2 環境先端の基盤づくり

### Ⅳ 成長を産み出す（活力）

P 73～

商工業や農林水産業など福井の産業の技術革新と「ふくいの後継者」育成を最優先に進めます。多様なニーズに応える商品開発力とアジア・マーケットへの販売力を強化し、アジアの成長と活力を取り込みながら福井の産業の成長を産み出します。

#### Ⅳ-1 「福井の産業」新展開

#### Ⅳ-2 挑戦する農林水産業

#### Ⅳ-3 アジアの成長と活力の取り込み

### Ⅴ 交流を広げる（活気）

P 81～

人口減少・超高齢時代にふさわしい新しい街づくりや「ふくい文化」の創造を進め、活気にあふれる「新しいふるさと」をつくり出します。高速交通網を活用し、国内外とつながる新たなネットワークを築いて人流・物流を活発化します。

#### Ⅴ-1 新時代の街づくり

#### Ⅴ-2 交流ネットワーク拡大



## I 人が生きる（活躍）

福井の優れた教育力を出発点とし、私たちは「人づくり」の基盤をさらに強化します。県民一人ひとりが「活躍」できる場や機会を充実し、県全体の活力と活気を生み出します。

そのために、次代を担う子どもたちの教育やスポーツの充実（「人づくり」先進福井）、人と人とのつながりによって地域の活力を高める社会づくり（**県民活躍社会の創出**）を進めます。

### I-1 「人づくり」先進福井

グローバル化、少子高齢化が進む中、日本の基礎科学、技術開発力、産業競争力の相対的な低下が懸念されています。次の世代を担う子どもたちが激動の時代を生き抜くための多様な能力や資質を身につけることは急務であり、「教育」の充実は、私たちの最も大きな責務の一つです。

日本の教育を支えているのは地方です。地方から「教育の質」を上げていく努力が必要です。福井の子どもたちの学力・体力は全国最上位であり、これを支える家庭や地域も安定し、優れた教育風土が福井には残っています。

このような恵まれた環境の下、世界や日本をリードする人材や「ふるさと福井」の将来を担う人材を育てる福井流の教育を進めます。

福井の子どもたちが自らの将来に「希望」をもって粘り強く学び、行動する「挑戦力」を最大限に伸ばす教育を、県民や企業などの幅広い協力と参加の下で推進します。

一方、スポーツは心身の健康や明るく豊かで活力に満ちた社会づくりに不可欠です。平成30年には国民体育大会が福井において開催されます。これを機に、子どもから高齢者まで、一人ひとりが体力に応じて健康づくりをおこなう風土をつくりまします。

子どもたち一人ひとりが自立し、健康で豊かな人生を送るための基礎づくりを進め、「人づくり先進県」の確固たる地位を築き上げます。

**（1）福井流の学力・体力を活かし次をめざす学校教育**

**（2）体験・交流する地域教育**

**（3）「1県民1スポーツ」の健康づくり**

## (1) 福井流の学力・体力を活かし次をめざす学校教育

- 子どもたちの興味や関心、意欲を高め、活用力や読解力を伸ばす新しい授業法、社会性や規範意識を含めた総合的な力を伸ばすカリキュラムを独自に開発・導入することによって、「社会や世界の動きと結びつく分かりやすい授業」を充実します。  
福井の優れた「学力」、「体力」を活かし、子どもたちが激動の時代を乗り切る力を身につける福井流の新しい学校教育を推進します。
- 少子化時代にふさわしい教育環境を県民とともに考え、整えていきます。学校単位に行われてきた教育活動の枠を一步踏み出し、学校同士、学校と地域社会、学校と企業・大学などとのネットワークを築き上げ、「外」の知見を学校教育に最大限に活かす「オープンネットワーク教育」を広げ、「挑戦力」を持つ人材を育てていきます。  
また、学力・体力の基礎を養い豊かな心を育む「幼児教育」を重視し、「保幼小、小中、中高の連携」による幼少期から青年期までの接続を重視した教育を推進します。
- これからの時代を生きていくためには、グローバルな視野と能力が欠かせません。グローバル社会をリードしアジアなど世界に貢献する福井人を育てるため、実生活の中に生きる国際感覚や語学力を養う「国際教育」を強化します。  
また、経済・社会の新たな活力の源となるICT（情報通信技術）を適切に活用できる人材を育成する「情報教育」、倫理観を持って人類の発展に貢献する科学技術の基礎を学ぶ「サイエンス教育」、アジアの共通言語・文化である「漢字・書道教育」などを、各分野において活躍する県民や企業の力を得て充実します。
- 福井の先人や歴史を通して生きる姿勢、行動力を学ぶ「ふるさと教育」、地域の農林水産業の恵みを知る「食育」などを進め、「ふるさと福井」を愛する子どもたちを育てます。

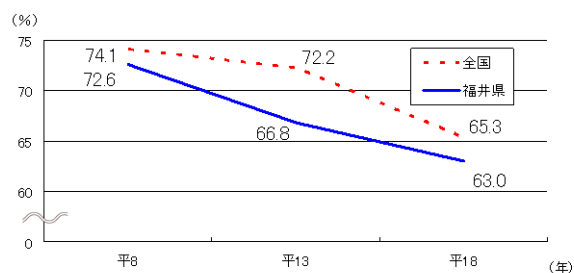
## (2) 体験・交流する地域教育

- 福井の小学生が放課後などを安全・安心に過ごせる環境を一層充実するとともに、国内外で活躍する福井人や「社会貢献層」の教育への参加を促し、地域において子どもたちの「夢」や「希望」を育む教育を進めます。  
県内各地では、すでに市町や住民団体が協力して進める環境保護や伝統文化の継承などの活動がおこなわれています。「地域教育プログラム」をつくり、福井の青少年が豊かな自然の中で体験活動や環境学習を深める機会を充実します。また、インターンシップなど企業などにおいて社会経験を積む仕組みを強化します。
- ふるさとの伝統・文化、技術の継承など多世代やさまざまな企業との交流を広げるとともに、小・中学生、高校生の地域ボランティア、社会貢献の活動を促進します。
- 変化のスピードの速い時代に暮らしの中で役立つ最先端の知識や技能を高め、また、県民の「ふるさと福井」への愛着と誇りを育む生涯学習の機会を充実します。

## (3) 「1県民1スポーツ」の健康づくり

- 平成30年に開催する第73回国民体育大会を契機に、県民が身近で生涯にわたりスポーツに親しめる環境をつくりまします。県民の元気と創意を国体に結集（1県民1参加）するとともに、スポーツを県民生活へ浸透させる「1県民1スポーツ」運動を進め、広く県民がスポーツとの関わりを持ち続けていくための場や機会を広げまします。
- 幼児の頃から親子と一緒に体を動かす「遊びと運動プログラム」、雪が降る冬季をはじめ季節ごとに家庭や地域、学校において楽しく運動できるニュースポーツを広げまします。
- 県独自の体力テストを市町とともに継続的に実施することにより、子どもたちの「体力・運動能力日本一」を維持・向上まします。  
また、拠点校方式の運動部活動の実施、スポーツ少年団活動の活性化、スポーツ指導者の育成と派遣システムの構築などを進め、トップアスリートを広く県民の応援を得て育てまします。

スポーツの年間行動者率  
(10歳以上)



出典：総務省「社会生活基本調査報告」

## 1-2 県民活躍社会の創出

社会構造の変化に伴い権利意識が強まる一方、「社会のために役に立ちたい」と考える人の割合が大幅に増えています。県民への意識調査（平成22年6月実施）においても、地域活動への参加を望んでいる人の割合が半数を超えています。

このような意識の変化は、個人を尊重しながら社会や地域のことを考え行動する「新しい<sup>わたくし</sup>私」と呼べる新しい生き方の登場を示すものです。こうした県民の気持ちを育て、県民、企業、団体などの活動主体が地域社会の中で「もう一役」を買って出て、活躍する気風をつくり出します。

一方、福井の女性は日本一の働き者といわれています。働く女性の多くは「仕事と家事と地域活動」と、一人が何役も担っています。一方、男性は仕事にとらわれ「もう一役」が十分に果たせないことが多くなっています。

男性が家事や育児へ積極的に参加する気風をつくり女性のゆとりを生み出すとともに、職場や地域社会において女性がさらに活躍できる環境をつくる必要があります。男性がさまざまな場面で新しい一役を担うことにより、社会のつながりのあり方も大きく変わることが期待されます。

また、60歳代、70歳代を中心とする経験豊かで元気な世代が、「社会貢献層」としてその意欲や能力を発揮するための仕組みづくりを進めます。

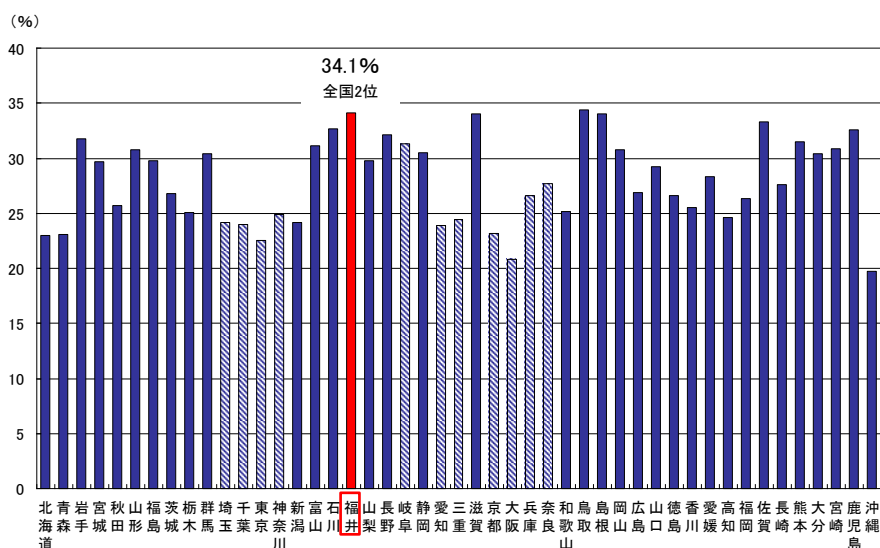
県民の意欲と行動力を最大限に活かし、福井の地域活力を生み出す県民活躍社会を実現します。

- (1) 「一人もう一役」の活躍
- (2) 女性のゆとりと活動の応援
- (3) アクティブ・シニアがあたりまえの地域

## (1) 「一人もう一役」の活躍

- 福井は、全国の中でもボランティア活動に参加する人の割合が非常に高く（全国第2位）、河川の美化や子どもの見守り活動を地域ぐるみでおこなうなど、「みんなのための活動」に積極的に参加する動きが活発です。  
年齢や性別にかかわらず、一人ひとりが積極的に「もう一役」を買って出る県民運動を展開し、県民の活躍の場を広げます。
- ボランティア休暇の導入を促進するなど、働きながら「もう一役」の活動ができる環境づくりを進め、県民一人ひとりの家庭や地域社会における活躍を応援します。
- 企業やさまざまな団体が得意分野を活かし、福井の環境や文化、教育などを支える「一社もう一役」活動を促進します。
- 福井は障がい者の就職率が日本一高い地域です。障がい者の雇用の場をさらに増やすとともに、賃金の向上を実現します。

### ボランティア活動の年間行動者率（15歳以上）



出典：総務省「社会生活基本調査報告」（平成18年）

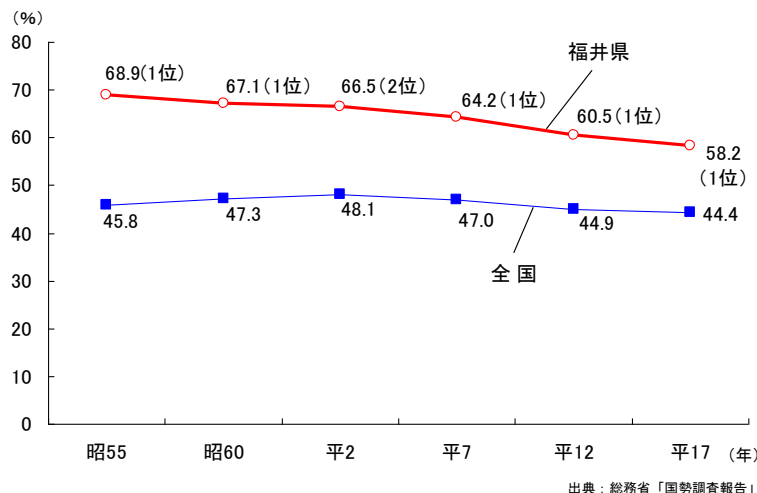
## (2) 女性のゆとりと活動の応援

- 女性の活躍は、福井の活力の源です。男性に比べ少ない女性の余暇時間を「1時間」増加させる「女性のゆとり時間プラスワン運動」を進め、女性の生活にゆとりを生み出し、新しい目標にチャレンジできる環境をつくります。
- 男性の家事・育児への参加を促進するための県民運動の展開、家事・育児などホームマネジメント分野においてビジネスを始める「社会貢献層」や若手起業家の応援、女性のネットワークづくりや起業の応援などをおこない、仕事や地域で頑張る女性の活動を応援する社会を実現します。

**多忙な福井の女性**

- ◆ 共働き率 58.2% (全国1位)  
総務省「平成17年国勢調査」
- ◆ 月別平均労働時間 177時間 (全国1位)  
厚生労働省「平成20年賃金構造基本統計調査報告」
- ◆ 勤務日の睡眠時間は半数が6時間以下  
福井産業保健推進センター「平成21年度福井県の女性労働者のワークライフバランスとメンタルヘルスに関する横断調査」
- ◆ 1日当たりの家事関連時間 3時間37分  
(男性40分)  
総務省「平成18年社会生活基本調査」 ※15歳以上
- ◆ 1日当たりの余暇活動時間 5時間46分  
(男性6時間18分)  
総務省「平成18年社会生活基本調査」

### 福井県の共働き率



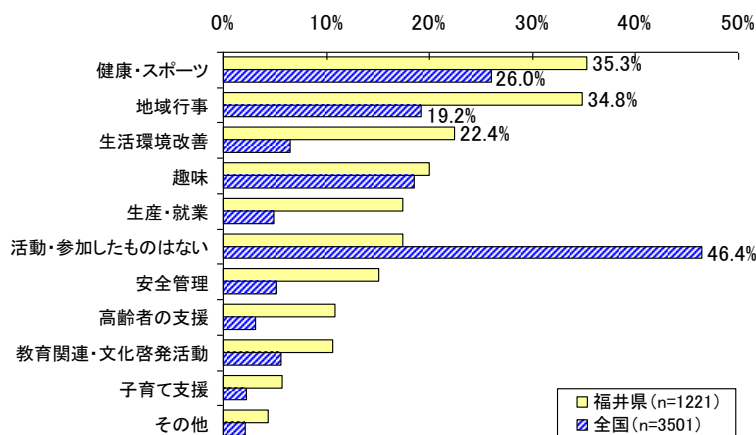


### (3) アクティブ・シニアがあたりまえの地域

- コミュニティビジネスの起業や農林水産業への就業支援など、健康で元気なアクティブ・シニア層が「社会貢献層」として「もう一役」できる活動の場をつくり、地域社会の中の人と人とのつながりを強化します。「社会貢献層」の活躍によって、福井の地域活力はさらに高まります。
- 「社会貢献層」の持つ卓越した技能を次の世代に伝承するための登録・派遣の仕組みづくり、「社会貢献層」がケアの必要な高齢者を支援（買物、給食、見守り）する仕組みづくりなどを進めます。
- また、就業中の熟年世代を対象に、退職後の地域活動やボランティア活動に関する情報提供をおこなうなど「地域リターン」を社会全体で支援します。

### 福井県民が参加した活動（60歳以上）

「この1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている次のような活動を行った、または参加したことがあるか」を以下の項目からいくつでも選択



出典：福井県「県政マーケティング調査」（平成22年6月）  
内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」（平成21年度）



## II つながりを活かす（活用）

健康長寿、子育て環境、治安の良さなど、福井の優れた暮らしを支えているのは「つながりの力」です。こうした強みを活かし、誰もが安心して子どもを産み育て、住み慣れた街で生涯を楽しく暮らすことのできる地域社会をつくります。

そのために、地域のつながりを活かした子育てなど地域福祉の充実（**つながりで築く地域社会**）、犯罪や災害から私たちの暮らしを守る安全・安心社会づくり（**安全で安心な地域づくり**）を進めます。

### II-1 つながり で 築く 地域社会

高齢化が、今後さらに進みます。また、価値観やライフスタイルも多様化し、単独世帯の増加など暮らしの礎となる家族の形態は大きく変化していきます。

高齢者になれば、精神的にも肉体的にも他者の支援が必要となります。人口構造の変化に応じて、これまでの若者から壮年世代を中心とする「独立志向・個人志向の社会」から、人びとが助け合う「寄り合い型の社会」への転換が求められています。

一方、福井の「三世代同居」は2割、「三世代近居」（車で15分圏程度）は4割を超え、個人の自立と家族の支え合いをバランスさせる良好な家族関係が残っています。単独世帯が増える中、地域に残る「つながりの力」を活かし、困っている個人や家族を支援する仕組みづくりを進めます。

また、「高齢者標準」の社会基盤づくりを進めると同時に、子育てから高齢者の医療や介護、障がい者の自立を支援するため、地域全体の「志」と「力」を集めて「助け合いのネットワークづくり」を進めます。

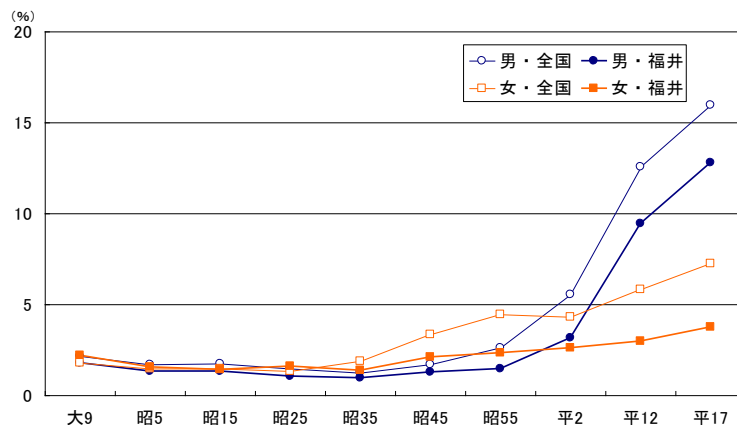
子育てから介護まで社会全体で支援するための地域の「つながりの力」を強化し、県民の誰もが「出生から終生まで」生き活きと暮らせる地域社会を実現します。

- (1) 子育て応援から「子育て環境」への挑戦
- (2) エイジング・イン・プレイス（地域で自分らしく老いることのできるふるさと）
- (3) 「笑いや楽しみ」の地域コミュニティ

## (1) 子育て応援から「子育て環境」への挑戦

- 共働き世帯割合が全国第1位の福井において、地域における日々の子育てサポートや子どもが病気にかかったときの助け合いシステム（病児デイケア、病児送迎、一時預かりなど）をさらに充実します。また、「社会貢献層」が若い世代の子育てを地域において応援する仕組みづくりを進めます。
- 企業とともに「ワークライフバランス」を推進し、子育てしやすい職場環境をつくり、出産や子育てを理由に女性が仕事を辞めたり、転職しなければならない環境を変えていきます。
- 子育ての応援とともに、子どもが持つ「自ら育つ力」を伸ばすため、読み聞かせなど読書に親しむ環境づくりや多くの子どもたちが集う各地の自然体験の機会充実など、「子育て環境」を市町とともに整えていきます。
- また、出産期にある女性の減少や晩婚化・未婚化の影響を受け、今後、福井においても少子化が一段と進みます。結婚を望む男女が良いパートナーと巡りあい、新しい家庭を築けるようみんなが応援することによって、「縁結び先進県」を実現します。
- 障がいのある子どもたち、養護が必要な子どもたちについては、専門スタッフや地域のボランティアなどのネットワークを広げ、身近な地域における質の高い療育環境や福祉サービスを充実していきます。
- 全国的に児童への虐待行為が増えています。つながりの強い福井の地域特性を活かし、専門機関の相談・支援体制を強化するなど地域の安全ネットワーク網を広げることによって、児童虐待の未然防止と早期発見・早期対応の体制を強化します。

福井県の生涯未婚率の推移



出典：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2009」

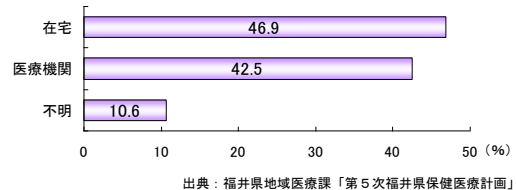
## (2) エイジング・イン・プレイス（地域で自分らしく老いることのできるふるさと）

- 今後の医療や介護需要に見合った医師・看護職員・介護職員の確保と養成、こども急患センターなど救急医療や周産期医療体制の充実、基幹病院と診療所との地域医療の体制や連携の強化などを進め、県民がいつでも安心して受診できる医療環境を整えます。
- 平成23年から県立病院において「陽子線がん治療」が始まります。県民ががん治療を受けやすい環境を整えるとともに、がん検診を定期的に受診できる環境を充実することによって県民の検診受診を定着させ、がんの未然防止や早期発見、早期治療につなげます。
- 福井の65歳以上の就業割合（26%）とボランティア行動者の割合（30%）はともに全国上位にあり、積極的に社会へ参加し貢献しています。その一方、運動習慣を持ち、年間を通してスポーツを楽しむ高齢者の割合は、全国平均を下回っています。  
「ふくい元気体操」プログラム、介護予防トレーニングの開発・普及などによる日々の健康づくりのための県民運動を進め、高齢者の「元気生活率」をさらに向上します。

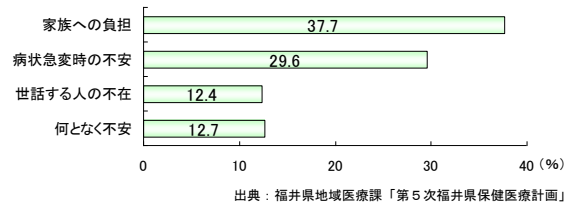
- 県の調査では、年老いて寝たきりになった場合には、県民の約半数が「在宅における医療や介護」を望んでいます。医療や介護が必要になったときの地域におけるケア・システムづくりを推進します。

食事の調達・準備、栄養指導など「高齢者の食」の支援体制の強化など家族への負担を軽減することによって、在宅でのケアを望む県民のニーズに応える仕組みづくりを進めます。

寝たきりになった場合に治療を望む場所



入院による治療を望む理由



- 「ジェロントロジー（総合長寿学）」の知見や実証実験の成果を活かし、高齢者の移動手段（モビリティ）や生きがいづくりの場の確保、また、主治医・副主治医、訪問看護師、介護職員などの「チームケア」の環境整備を進め、住み慣れた自宅や地域において医療や介護を受けられ、自分らしく老いることができる「エイジング・イン・プレイス」を実現します。

### (3) 「笑いや楽しみ」の地域コミュニティ

- 高齢者の単身世帯がさらに増加する中、地域とのつながりを維持し安心して楽しく生活を送ることのできる環境をつくれます。  
市町や公民館、小学校など身近な公共施設と連携し、子育て、多世代交流、コミュニティビジネスの拠点となる集いの場を広げます。誰もが「笑い」につつまれ、自らの暮らしの中に「楽しみ」を実感できる地域を実現します。
- 特に、人口減少や高齢化が進む中山間地域などにおいては、買い物や通院、通学などの日常生活に支障をきたさないよう、市町とともに集落支援の仕組みをつくって応援します。
- また、都市住民と一緒に農業を楽しむ「ふるさと農園（コミュニティ型共同農園）」の整備、住民生活に役立つコミュニティビジネスなど地域の外の力を活かす仕組みづくりを進め、暮らしの機能を守り高めていきます。
- 元気な高齢者の学習や地域活動への参加意欲に応え、新しい仲間づくりを応援するため、生涯学習のあり方を見直し、本格的なリカレント教育の導入などを進めます。

## II-2 安全で安心な地域づくり

「暮らしの質」を考える上で最も大切なのは、犯罪や災害に強い安全で安心な地域をつくることです。これは決して行政の力のみによって実現できるものではなく、県民一人ひとりが地域とのつながりをもって行動することによって維持されます。

グローバル化が一段と進み、人の交流や広域的な移動が容易かつ盛んになりますが、これは一方で犯罪の広域化など地域社会の不安定要素が増える一因にもなります。こうした状況も考え、地域において住民同士の信頼関係を維持していくことが求められています。

人と人、人と地域のつながりを強め、県民、警察、行政などが一体となって犯罪の起きにくい地域社会を実現します。特に、子どもや高齢者、女性などの安全を確保し、互いに信頼を感じあえる生活の実現をめざします。

また、地球温暖化などの影響により、局地的な豪雨や少雨、猛暑などの新しい災害が増えつつあります。災害に強い社会インフラを整備するとともに、地域と行政が協力して高齢者など災害に弱い人びとを守る社会システムをつくり上げます。

原子力については、運転開始後40年を超える発電所がこれから増えてきます。こうした新しい課題にも慎重かつ的確に判断・対処しながら、原子力発電所の安全対策に万全を期します。また、さまざまな事態を想定し、地域や事業者とともにおこなう防災訓練を充実するなど、県民の安全・安心と信頼を最優先に確保します。

**(1) 信頼を互いに感じあえる安心生活**

**(2) 災害に強い街づくり**

**(3) 原子力の安全・安心の確保**

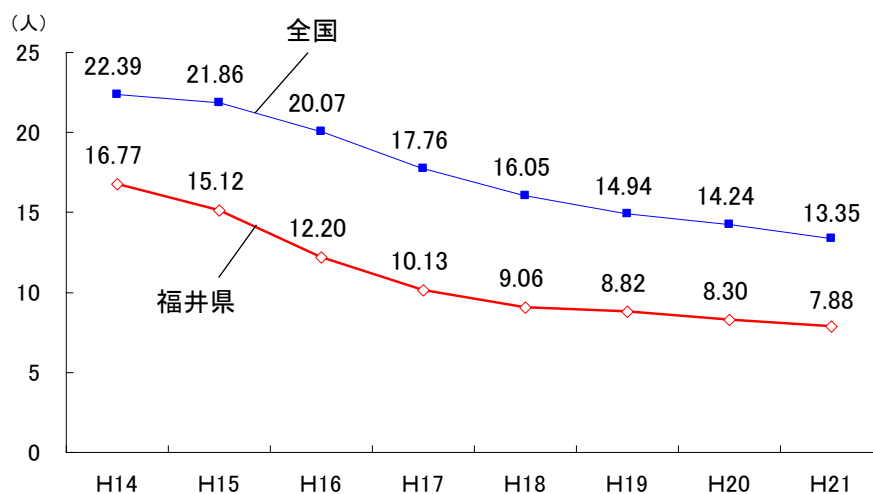
## (1) 信頼を互いに感じあえる安心生活

- 福井の刑法犯認知件数は、平成14年をピークに7年連続して減ってきています。県民の94%が、「福井の治安は全国平均以上の水準にある」と感じています。福井の治安は、この数年間で「治安回復」から「治安向上」、さらには「体感治安の向上」へと目標を高めながら、犯罪の抑止に努めてきました。

危険や不安が増える現代社会において、福井の地域の「つながりの力」を活かし県民総ぐるみの運動を展開することによって「犯罪の起きにくい社会」をつくり、信頼を互いに感じあえる生活へと「安心の質」の向上をめざします。

- 県民と警察、行政などが一体となり、玄関の施錠、一戸一灯運動の取組みなど家庭・地域における防犯活動、子どもや高齢者の見守り活動などを継続的におこないます。
- 地域防犯活動のリーダーや「後継者」の育成、「社会貢献層」であるシニア層の活躍などにより地域防犯活動が維持・継承できるよう、みんなの手で育てていきます。
- 県民一丸となった「3S（スロー・シグナル・シャイン）運動」を進め、死亡事故の多い高齢者の交通事故やスピード違反、飲酒運転などの交通法規違反を減らします。

### 刑法犯認知件数の推移（人口千人当たり）



出典：警察庁刑事局「犯罪統計書」



## (2) 災害に強い街づくり

- 県民と市町、県が一体となって、自然災害への備えを万全にすると同時に、「自分たちの街は自分たちで守る」という意識を常を持って「災害に強い街づくり」を進めます。
- 地域が主体となっておこなう消防団や自主防災活動は、県民が積極的に「もう一役」を買って出ることによって広がる地域コミュニティ活動の一つです。こうした安心づくりのための活動をさらに強め、子どもや高齢者など災害弱者を地域で守る体制をつくります。
- 市町と県は連携して、一人暮らしの高齢者、障がい者、乳幼児など要援護者一人ひとりの具体的な避難支援計画を充実するとともに、水害・土砂災害に対するハザードマップの活用を促進します。  
地域の企業や消防団などとの連携、防災情報の住民への伝達や災害に対する初動の体制づくりなどを推進し、災害対応能力を高めていきます。
- 緊急輸送道路や迂回路のない生命線道路など県民の生命や暮らしを守る道路の整備、道路防災・防雪対策の促進、水道施設の更新・耐震化など、災害に強い社会インフラを市町とともに整備します。
- 水害対策としては河川の上流域における足羽川ダムをはじめとするダムの整備、中・下流域における河川改修や雨水幹線の整備、また、土砂災害対策としては砂防えん堤などの災害防止施設の整備を計画的に推進します。

### (3) 原子力の安全・安心の確保

- 安全・安定運転の実現、高経年化対策の充実、「もんじゅ」の安全確保など原子力行政を取り巻くさまざまな課題に対し、常に県民の立場に立って、「安全の確保」、「住民の理解と同意」、「地域の恒久的福祉の実現」の原子力三原則にのっとり、慎重に対処していきます。
- 県は、市町とともに独自のチェック体制を強化するなど、国や電力事業者に対しトラブルの発生防止や再発防止策の徹底、迅速かつ適切な情報公開の徹底などを促し、県民の安全・安心と信頼を最優先に確保します。
- 運転開始から40年を超える高経年の原子力発電所が増えます。高経年化技術評価と長期保守管理方針の確実な実施、40年を超えて運転する発電所についての中間安全確認の実施など高経年化対策を充実します。
- 「もんじゅ」については、国と事業者の安全対策を厳正に確認しながら、原子力と地域共生の先進的なモデルをめざします。
- 市町と協力して原子力防災対策を強化し、地域住民や関係機関とともに実践的な原子力防災訓練などを継続的に実施します。

## Ⅲ 環境を創る（活動）

先人が守り育ててきた福井の美しい自然環境や街並み景観は、私たちの子や孫に引き継ぐべき貴重な財産です。里地里山などの自然や生活環境を保全するとともに、街並みの景観を磨くことにより、次の世代に引き継ぐ美しい風景をつくり出します。

また、日本最大のクリーン・エネルギー供給地である福井の強みを活かし、最先端のエネルギー研究開発や人材育成を推進するとともに、モデルとなる「低炭素の街」を実現し、環境・エネルギー分野においてアジアをはじめ世界に貢献します。

そのために、美しく豊かな福井の環境と景観の保全・創造（美しい「福井の風景」創造）、クリーン・エネルギーを活用した最先端の低炭素化社会づくり（環境先端の基盤づくり）を進めます。

### Ⅲ－1 美しい「福井の風景」創造

環境は私たちの生活を取り巻き、豊かな暮らしの土台となるものです。環境は人と自然との関係ですが、同時に人と人との関係を反映するものです。つながりの残る地域には、美しい環境や景観が育ちます。このような観点に立ち、これからの10年、福井の美しく豊かな自然環境と景観を守り育てていきます。

福井の豊かな自然環境は、将来にわたって価値を生み出す大切な「自然資本」です。海・山・川・湖が美しく配された福井の「箱庭の自然」を私たち自らの手で守り育て、子どもたちのふるさとへの誇りを育てていきます。

江戸末期から明治期に日本を訪れた外国人が「おとぎの国」のようだと賞賛した日本の美しい街並みは大きく損なわれてきました。今後、橋や公共建築物など多くの社会資本の老朽化が進み、修繕や更新が必要となる中、県民の意見を集め「景観創造型の街づくり」を推進します。

「福井の良き自然環境」と「福井の農村と街のたたずまい」を守り育てることによって、美しい「福井の風景」を創造していきます。

#### （1）多様な環境の保全活動

#### （2）次代に残す農村と街のたたずまい

## (1) 多様な環境の保全活動

- 福井の各地域では、無農薬農法や「ふゆみずたんぼ」、「水田魚道」などを普及させ、人と生き物の双方にとって良好な田園環境の再生を進めてきました。この結果、滞在する水鳥が大幅に増えるとともに、コウノトリが3か月以上にわたって滞在するなど、地域の自然環境を守り育てる活動の成果が表れつつあります。

私たちは、自然環境を次世代に引き継ぐべき貴重な「自然資本」であるという意識を共有し、福井の美しい自然を守り育てる地域ごとの多様な環境保全活動を、県内全域に広げていきます。

- コウノトリ水田、中池見湿地、三方五湖をはじめ、福井が守っていくべき多くの地域を生物多様性の「ホット・エリア」に指定し、地域住民や企業の自主的な保全活動を市町とともに応援します。

- 近年の温暖化現象や山に人が入らなくなったことなどにより森林本来の機能が低下し、イノシシやシカなどの鳥獣被害が増加するとともに、山崩れなど災害発生の危険性が高まっています。市町などと連携し、間伐など山ぎわの整備、緩衝帯・防護柵の設置、個体数の調整など中山間地域を中心とする農山部の住民生活を守る鳥獣被害対策や災害に強い森づくりを進めます。

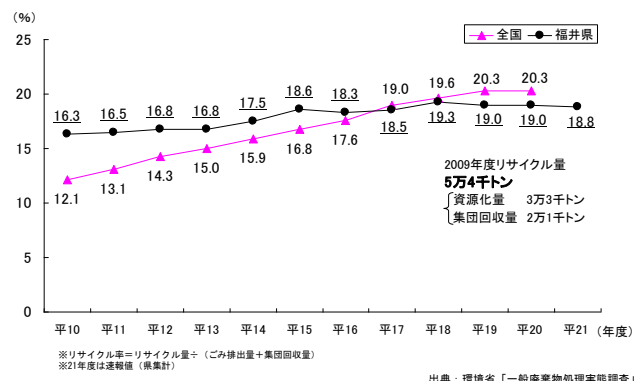
- 河川は、多くの生物の生息空間であり、また地域住民の憩いとやすらぎの場としても重要な役割を果たしています。このような河川の役割と周辺の利用状況に配慮しながら、多種多様な生物が生息しやすい「多自然川づくり」を進めます。

また、海辺の侵食被害から人の生活空間を守るとともに、福井独自の海辺の景観や生物の生息環境を保全するため、砂浜の回復などを考慮した侵食対策を進めます。

- 県民一人ひとりのごみの排出量は減少傾向にあるものの、県全体のリサイクル率は全国平均を下回っています。私たちは廃棄物を大量に排出するライフスタイルから、良いものを大切に長く使うライフスタイルに転換していきます。

「3R（リデュース・リユース・リサイクル）運動」によるごみの徹底した減量化、食品廃棄物の堆肥化や堆肥を活用した農作物生産などを促進し、「環境」と「地域経済」が両立する地域循環システムをつくりまします。

福井県のリサイクル率の推移



## (2) 次代に残す農村と街のたたずまい

- 福井の自然や風土、県民の日々の暮らしの中で形づくられた農村と街のたたずまいもまた、次の世代に引き継ぐべき貴重な財産です。各地域の特色ある景観の価値を再認識し、県民、企業、市町、県が協力し高めていきます。

「伝統的民家群保存活用推進地区」を指定するなど、古き良き福井の伝統的民家や街並みの保存を進めます。

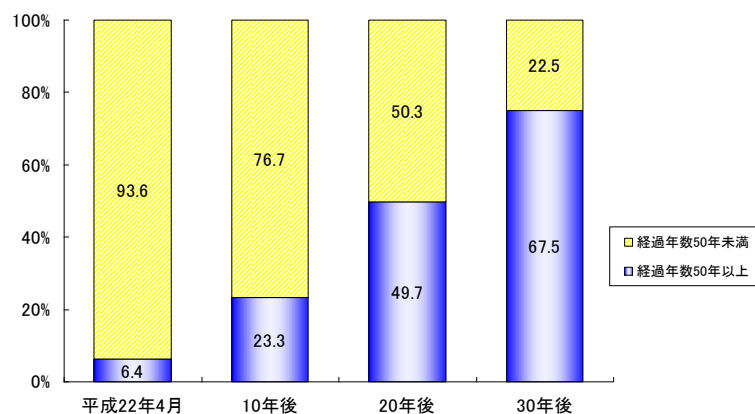
- 県民一人ひとりが周囲の景観に配慮した住まいや街並みなどを学ぶ「住教育」の機会を広げ、それぞれの地域の特色を活かした「住風景」や「街並み景観」をつくり出していきます。

- 高度成長期に整備された橋や建物などのインフラが、今後集中して耐用年数を迎えます。こうした社会基盤は地域の景観を形成する重要な要素です。

社会基盤の多くが修繕・更新の時期を迎えるこの機会を好機ととらえ、市町と県が連携して、地域の景観や風景に配慮した社会資本の保全更新プランを策定し、「景観調和型公共工事」を計画的に推進します。

また、公共施設への案内看板を削減するなど、カーナビゲーション時代に対応した景観づくりを進めます。

福井県における経過年数50年以上の橋りょうの割合の推移



出典：福井県土木部資料

## Ⅲ－2 環境先端の基盤づくり

グローバル化が進む中、温暖化防止をはじめとした地球環境保全への具体的な行動を、世界規模で加速する必要があります。

福井の嶺南地域にはさまざまなタイプの原子力発電所が集中立地し、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を排出しないクリーン・エネルギーを供給する日本屈指の「環境貢献地域」であり、原子力・エネルギー分野において最先端の研究開発と人材育成を進めています。

こうした技術・人材の集積を活かし、原子力・エネルギー分野における技術開発と人材育成、クリーン・エネルギーを活かした最先端の街づくりなど、経済成長に伴い環境悪化が懸念されるアジアの模範となる先進施策を推進することによって、世界の共通課題の解決に貢献します。

### （1）エネルギー技術開発と人材育成

### （2）低炭素の街づくり推進

## （1）エネルギー技術開発と人材育成

- 「エネルギー研究開発拠点化計画」（平成17年3月策定）に掲げる「安全・安心の確保」、「研究開発機能の強化」、「人材の育成・交流」、「産業の創出・育成」の4つの柱に基づき、原子力・エネルギー分野における最先端の研究開発と人材育成を進め、国際的な拠点づくりをめざします。
- レーザーや電子線など原子力関連技術を活用した産学官の共同研究を進め、福井の新産業を創出します。また、原子力・エネルギー関連企業の誘致など、電源立地地域としての特性を最大限に活かした産業の育成や集積を進めます。
- さらに、国際的な研究施設・機能を集積し、国内外から優秀な研究者、技術者、学生などが集う拠点づくりを進めることによって、アジアにおける原子力の安全技術の向上と人材育成に貢献します。

## (2) 低炭素の街づくり推進

- APECエネルギー大臣会合の開催地として低炭素化社会をめざす「福井宣言」の趣旨を引き継ぎ、クリーン・エネルギーの普及を促進します。
- 県民自らが環境への貢献を生活レベルで実感し、また福井を訪れる多くの人びとに新しい街づくり、地域づくりのモデルとして模範にしてもらえるよう、「エコ・エネルギー・コリドール（回廊）」プロジェクトを市町とともに推進します。  
特に、原子力発電所が立地する嶺南地域を中心に、エネルギー研究開発拠点化計画がめざす産業化とともに、クリーン・エネルギーを核とした最先端の住み良い街づくりを進めます。
- 産業・運輸部門、家庭部門における温室効果ガス排出量を削減します。  
また、一世帯当たりの自家用乗用車の保有台数（2,042台／世帯、平成21年全国消費実態調査）が全国3位の福井ですが、ハイブリッド車や電気自動車も徐々に普及（世帯当たりの普及率2.6%、全国6位、平成21年全国消費実態調査）しています。今後、電気自動車の普及とそのための基盤整備を進めていきます。  
さらには、脱マイカー運動や環境にも健康にもやさしい自転車への乗り換え運動などを県民運動として進めます。
- 子どもたちへの環境・エネルギー教育の充実、地球温暖化ストップ県民運動「LOVE・アース・ふくい」の展開などによって、「ゼロカーボンライフ」を広げていきます。





## IV 成長を産み出す（活力）

福井の地理的優位性、歴史的特性を最大限に活かし、アジアの豊富な資金・活力を福井の産業・経済に取り込み、アジアとともに成長します。

福井の優れた技術や人材など先人から受け継いだ貴重な財産を「後継者」を育て引き継ぐとともに、さまざまなニーズに応え革新を繰り返すことによって、新たな成長を産み出します。

そのために、<sup>イノベーション</sup>新産業育成と<sup>リノベーション</sup>地場産業再生による産業構造の変革（「福井の産業」新展開）、農林水産業の成長産業への挑戦（**挑戦する農林水産業**）、アジアとのネットワーク強化による成長戦略（**アジアの成長と活力の取り込み**）を進めます。

### IV-1 「福井の産業」新展開

アジアの国々が目覚ましい経済成長を遂げる一方、日本社会においては、高齢化の進展に伴い消費のスタイルが変わりつつあります。福井が新たな成長の道を切り開くための鍵は、技術革新や人材育成、企業誘致、多様なニーズに応える商品開発です。

日本の「産地」としての技術集積を最大限に活かし、技術革新と人材育成を進めることが、福井の産業のこれから10年間のめざすべき方向となります。地場産業、伝統的産業の再構築を図るとともに、新産業への展開やアジア市場の販路開拓を進め、新たな「産業群」を創出します。

産業を支えるのは「人材」です。将来、福井の産業の担い手となる「後継者」を育成・確保することが何より重要です。これからの技術革新や新ビジネス創出を担う優れた産業人材を育成します。さらに、失業率の低さや求人倍率の高さなど全国トップクラスの雇用環境を維持・向上させ、安心雇用を実現します。

福井の新産業の育成と地場産業の再生などの動きをつくり出し、「福井の産業」を次のステージに引き上げ、次世代に引き継いでいきます。

(1) 「これぞ福井」の<sup>わざ</sup>技と産地の進化

(2) 「後継者ブランド」企業の創出

## (1) 「これぞ福井」の<sup>わざ</sup>技と産地の進化

- 福井は、繊維、眼鏡、和紙、漆器などの地場産業で培った技術を活かした、素材創生・加工技術、原子力関連技術、蓄電池関連技術など「実は福井」と呼べる優れた技術や製品が数多くあります。また、建設、小売、卸売、物流などさまざまなサービスが地元企業によって提供されています。

このような独自の技術やさまざまなサービスを継承・発展させてきたのは、福井の経済と県民の暮らしを支えている多くの中小企業です。

福井の企業が持つものづくり技術を活かし、また企業と団体と行政がスクラムを組んで、高齢化や環境など今後ニーズが高まるビジネス分野への挑戦を継続的に進めます。
- 「環境・エネルギー」や「健康長寿」をはじめ福井の優れた地域資源を活用したビジネスモデルをつくるなど、地域の強みや特色を活かした新しい産業群を育成します。
- 企業間のネットワークを広げ、福井の技術と人材を守り育てることによって、新たな分野や業種への展開、国内外への販路開拓を進め、地場産業を再生します。
- 地場産業が技術革新、販路開拓を進めるための企業誘致にさらに力を入れるとともに、立地企業の定着に努めます。
- <sup>イノベーション</sup>新産業育成、<sup>リノベーション</sup>地場産業再生、<sup>インバイト</sup>企業誘致を推進することにより、新しい「福井の産業」を産み出し、「実は福井」から「これぞ福井」の技と県民が誇れる技術やサービスの開発と集積を進め、福井の産地を次の世代に引き継いでいきます。

## (2) 「後継者ブランド」企業の創出

- 福井の各産業分野において活躍する熟達者の卓越した技能を「ふくいの後継者」に引き継ぐための仕組みをつくり応援することによって、福井のものづくりや農林水産業の技術、優れたサービスを提供する中小企業の基盤を維持・強化します。
- また、技術と技能の蓄積を活かした中小企業の企業内創業を応援するなど、地域産業の新しい活力づくりを推進します。
- 若者、女性、障がい者、高齢者が等しく安定した仕事の機会を得られるよう、企業や団体、学校、行政が一体となって雇用の場を確保し、全国トップクラスの水準にある失業率の低さ、求人倍率の高さを維持・向上します。

製品開発や技術革新を担う専門的な知識・技術を有する人材、医療・福祉など需要が増加する分野の人材、農林水産業や伝統的産業など後継者不足が問題となっている分野の人材など、分野別に雇用の場をきめ細かく確保し広げていきます。
- 福井は人口当たりの事業所数の割合が全国で一番高いにもかかわらず、大学などへの進学を機に県外に出た若者が、就職をする際には3人に1人しか福井には帰ってきません。

官民が協力して若者を対象にした「起業ビジネス塾」などを開き、若者のベンチャー創業や就業を応援することによって、これからの成長市場やグローバル化などに対応できる高度技術・ノウハウを持った人材を育成します。

## IV-2 挑戦する農林水産業

わが国の食料自給率が4割と低迷する中、食へのこだわり、食品に対する安全と安心を求める国民が増えるなど、食を提供する農業、林業、水産業に対する国民的な関心が高まっています。また、アジアの国々においても、日本の安全で品質の良い食品などに対するニーズが高まっています。

その一方、日本の農林水産業は他の産業分野と同様、海外から安価な食料や木材、魚介類の輸入が増えるなど、グローバル大競争の影響が拡大しつつあります。

こうした時代に農林水産業の活路を開くためには、大都市に比較的近い福井の地理的優位性を最大限に活かしながら、他の業種や産業との連携を強めることによって付加価値を高め、販路を開拓していくことが重要です。

しかし、耕作放棄地が増加し、美しい福井の農地は年々荒廃しています。農業については、農地を保全し将来に残しながら、担い手の確保と農産物の高付加価値化を推進します。

また、日本屈指の好漁場である「福井の海」、多様な生態系を維持し清らかな水と空気を育む「福井の山」についても資源の保全と管理を強化します。農山漁村の豊かな資源を守り活かすことによって、福井の農林水産業の新たな展開の基礎とします。

こうした基盤の上に、農林水産業を福井の経済の「新たな成長エンジン」と位置付け、他の業種や産業との連携を強めて、より高い付加価値を創出します。

**(1) 売れる福井の特産品群の育成**

**(2) 豊かな農山漁村の保全と活用**

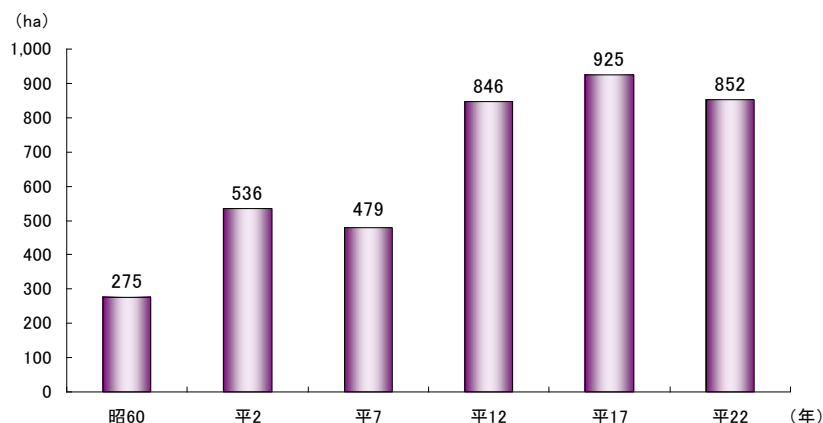
## (1) 売れる福井の特産品群の育成

- 「日本一おいしい米」、「高品質な木材」、「新鮮な海の幸」など国内外のマーケットの評価を得て、安全・安心で付加価値の高い「売れる福井の特産品群」を育成します。  
県内外やアジアにおいて販売ルートや市場を開拓することによって、「農林水産業を起点とする生産額」を大幅に増やします。
- 「五月半ばの適期田植え」や食味検査を広げ福井米の品質を向上させるとともに、エコ農業や作り手の顔が見える「こだわり米」の生産を拡大し、コシヒカリを生んだ福井の米の市場競争力を高めます。
- 「坂井北部丘陵地」を福井における企業的農業のモデル地域に育て上げ、県内に広げていきます。生産・加工・販売の各分野を取り込んだ農林水産業の「6次産業化」を応援し、それぞれが連携した地域モデルをつくります。
- 「森林生産力の増大」をスローガンに戦後進められてきた大規模な植林の結果、「ふくい森」では、今後多くの木が主伐期を迎えます。「木を伐って使う」時代に、森林所有者が協力して山から木を出す「コミュニティ林業」や林道などの基盤づくりを促進するとともに、県産材のブランド化と販売拡大を進めます。
- 「越前がに」、「若狭ふぐ」など福井自慢の地魚の鮮度や安心感を高めるとともに、「若狭のサバ」など新しいブランドを育てます。福井の旬の魚とおいしい食べ方を県内外の消費者に分かりやすく伝えることによって「魚を食べる文化」を広げ、消費を拡大します。  
また、「越前若狭のさかな」のブランド力を活かし、漁家民宿などにおける観光誘客を促進します。
- 農林水産業への企業参入や新規就業などを促進するため、民間からの資金調達、企業間のネットワークづくり、支援のワンストップサービス化のための仕組みをつくり、高付加価値産業への転換を進めます。

## (2) 豊かな農山漁村の保全と活用

- 県民の約6割に当たる約47万人が農山村部に住み、農業や農村と何らかの関わりを持ちながら暮らしています。また、県土の84%を森林と農地が占め、私たちの暮らしは豊かな「自然資本」の上に成り立っています。  
農業分野における「ふくいの後継者」を確保し技能継承を進め、担い手として活躍する環境を整え、食料生産と美しい景観の基盤となっている農地の減少に歯止めをかけます。
- 整備が行き届いた農地やかんがい用水を福井の貴重な財産として適切に保全・活用し、将来へ引き継いでいきます。  
公共工事や宅地造成などに伴う農地転用を最小限度に抑制し、「優良農地の保全」を優先した土地利用を推進します。
- 新鮮で安全・安心、顔の見える地元産の農林水産物を家庭、学校、企業などにおいて消費する「地産地消」をさらに広げます。また、家庭や学校などにおける「食育」の充実にもつなげていきます。
- 福井の自然や農林漁業を体験する教育旅行を、市町とともに推進します。作業体験や農山漁村における生活体験など、福井の食や文化、歴史を学ぶカリキュラムと受入体制を充実し、観光資源として全国にアピールします。
- 農林水産業や農山漁村には「癒し」の機能があります。障がい者の自立支援にも役立つ「園芸福祉」など、農林水産業や農山漁村とさまざまな分野とを組み合わせた新たな価値をつくり、広げていきます。

### 福井県の耕作放棄地の推移（総農家）



※平成22年は速報値

出典：農林水産省「農林業センサス」

## IV-3 アジアの成長と活力の取り込み

アジアの国々は、目覚ましい経済成長を遂げています。「アジアの時代」が到来する中、アジア大陸に対面する福井の地勢を活かし、アジアと関西・中京経済圏などをつなぐ「交流ゾーン」となって人流・物流を活発化させ、福井の活力を創出します。

現地進出企業、産業団体、県などがそれぞれの役割を發揮しながら連携し県内企業のアジア・マーケットへの進出を応援することによって、アジアの人びとの旺盛な購買力や観光ニーズを取り込み、福井の経済成長につなげます。

県民一丸となってアジアと関西・中京経済圏などとのネットワークを築き上げ、アジアの活力を最大限に活かす「共生と成長」の戦略を推進します。

### (1) 販路を開くアジア・マーケットへの進出

### (2) 人が行き交うアジア・ネットワークの強化

## (1) 販路を開くアジア・マーケットへの進出

- 経済成長を続けるアジアは、生産拠点としてだけでなく消費市場としても急速に拡大しています。アジア全体の個人消費額は、10年後には約16兆ドルと現在の2.4倍、また富裕層も約2.3億人と現在の4倍に増加すると推定されています。

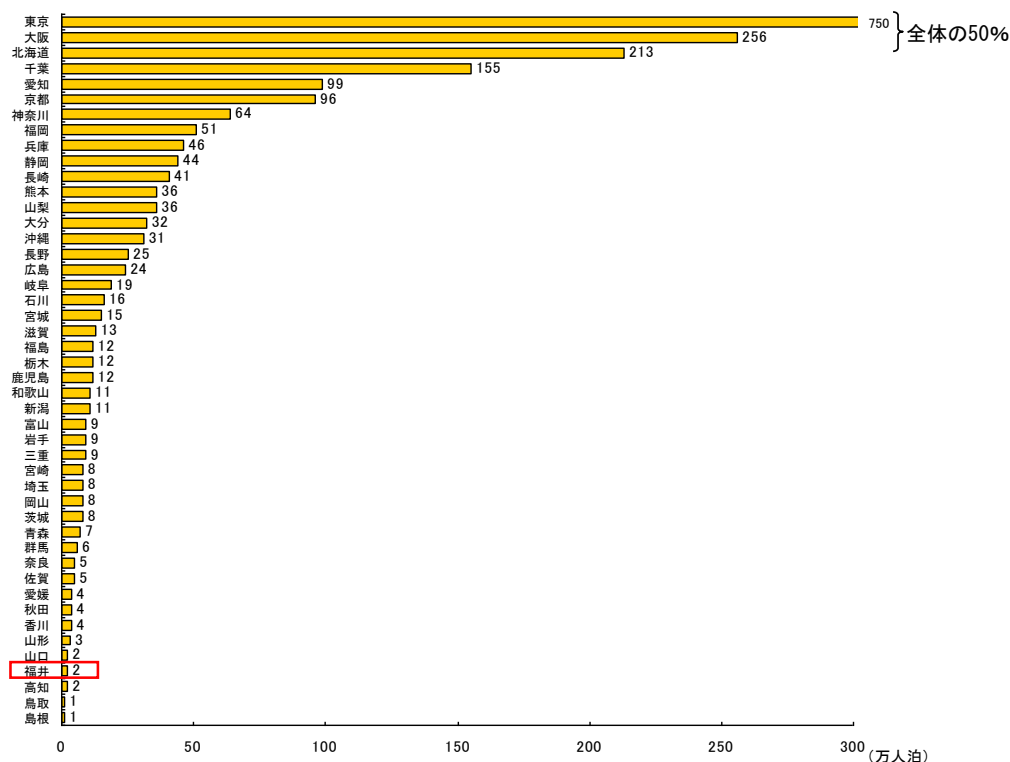
繊維・眼鏡などの地場産品をはじめ伝統工芸品、食などについて、高いデザイン力と信頼性により「福井の逸品」、「日本の逸品」として磨き上げ、アジア市場に積極的に進出します。

- 十分な市場調査をおこなうとともに、アジア進出企業、産業団体、行政が協力して新しいネットワークを構築し、県内企業のアジア進出をサポートする「商社」機能をつくることによって、初めて海外市場に進出しようとする中小企業や農林水産業者の挑戦を支え、アジアにおける人脈とビジネスを拡大します。

## (2) 人が行き交うアジア・ネットワークの強化

- アジアの富裕層を主要ターゲットにした外国人向けの観光ルートづくり、海外における観光プロモーションなどを進め、福井を訪れる外国人観光客を大幅に増やします。  
また、コンシェルジェ機能が強化された商業エリアを県内に広げるなど、アジアから観光客を受け入れるための基盤や環境を整えていきます。
- 県立大学など県内高等教育機関において、アジアをはじめ世界を相手に活躍するグローバルな産業人材を養成するための教育体制や研究機能を強化します。
- 福井の地理的特性を活かし、敦賀港や福井港を拠点とする環日本海物流ネットワークを築き上げます。  
官民共働のポートセールスをおこない、韓国をはじめ中国やロシアに向けた「広角的な福井航路」を開きます。

### 都道府県別外国人延べ宿泊者数（平成20年）





## V 交流を広げる（活気）

人口減少・超高齢社会の到来を見通し、郊外発展型のこれまでの街づくりをあらため、多くの人が集い楽しめる新しい時代の「街づくり」と「ふくい文化の創造」に挑戦します。また、高速交通網の整備が大きく進むこれからの時代にふさわしい県外、世界への新ネットワークを築き上げ、人流、物流などの交流を活発化します。

そのために、活気にあふれる街づくりと新ネットワークを活用したブランドや観光の振興（新時代の街づくり）、県民の自信と誇りにつながる外に開いた「新しいふるさと」づくり（交流ネットワーク拡大）を推進します。

### V-1 新時代の街づくり

長期的な視点に立って、人口減少・超高齢社会に最適な街づくりや地域の基盤づくりを、県民や市町とともに進めます。また、一人ひとりが「新しい私<sup>わたくし</sup>」としてみんなのために活躍する暮らしのスタイルを福井の新しい文化にまで育て上げ、次の世代に引き継いでいきます。

こうしたハード（都市基盤）、ソフト（文化）を活かし、外に向かって開かれた新しいつながりを広げます。福井流の生活や福井ブランドに磨きをかけ国内外にアピールすることによって、海外、県外からの観光客を大幅に増やします。

- (1) 新時代にふさわしい都市改造
- (2) 暮らしを高める「ふくい文化」
- (3) 福井のブランド・観光新展開

## (1) 新時代にふさわしい都市改造

- 現代の都市は、世帯数の増加や自家用車の普及、大型商業施設の立地などによって市街地が郊外に広がり、中心市街地からの人口流出や中心市街地の商業低迷など、構造的な課題をたくさん抱えています。人口の減少と高齢化が一段と進む中、今までの街づくりのあり方を大きく転換する必要があります。

長期的な展望をもって、これからの時代にふさわしい「新時代の都市改造」を、県民の理解と協力を得ながら各市とともに進めます。
- 北陸新幹線の県内延伸が実現することによって、JR福井駅をはじめ新幹線各駅を結節点とする新たな人の流れが生まれます。特に、県都の福井駅周辺には、福井城址、養浩館庭園、柴田神社、足羽川、足羽山といった歴史・文化、水や緑の憩いを感じることのできるスポットが数多くあります。

「駅周辺のにぎわい創出」など福井市中心部の大きな方向づけについて議論を進め、市とともに街の再設計（リ・デザイン）を進めます。
- 超高齢社会に対応した「高齢者標準」の街づくり、雪や雨に強い歩行者優先の街づくりを県内全域で進め、子どもから高齢者まで安心して活動できる公共空間、移動空間をつくります。

特に、福井は、車への依存度がとても高い県です。超高齢社会を見通し、公共交通機関の接続改善、中山間地域における買い物バスやボランティアバスなど生活を支える地域交通の仕組みづくりを進めます。生活圏における移動手段の確保、それぞれの生活圏と都市部とを結ぶ交通ネットワークの維持・向上をめざします。
- クラウドコンピューティングなど新たな情報技術が発達し、新しいネットワークも生まれています。今後、ICT（情報通信技術）は産業や教育の分野はもちろん、超高齢社会を迎え医療や介護などさまざまな分野において新たな価値やサービスを生み出す前提になります。

県は市町とともに、ICTの大きな進歩に遅れることのないよう新しい技術を取り入れながら、いつでも、どこでも、誰とでもつながる、使いやすく人にやさしい情報ネットワークをつくり、維持していきます。

## (2) 暮らしを高める「ふくい文化」

- 文化は、私たちがふるさとの先人から受け継いだ歴史的遺産だけではありません。私たちの暮らし方、生活の様式そのものが「ふくい文化」を支えています。

私たちは、これからの時代にふさわしい生活様式をつくる努力を続けることによって「暮らしの質」を高め、新しい福井の文化に育てていきます。

- 福井は、歴史的遺産の宝庫です。鯖街道（熊川宿）や北国街道（今庄宿）など旧街道が往時の面影を伝えていますが、福井は古来、奈良や京都などと盛んに行われた交流・交易を通じて、先進文化を取り入れながら固有の文化を築いてきました。

福井には、歴史的遺産の他にも伝統的な祭り、芸能（水海の田楽能舞など）、行事が今日まで残っています。このような伝統・文化を絶やすことなく、私たちの子や孫へ引き継ぐ地域の住民や団体の努力を「ふくい文化の後継者」として企業や行政が応援する仕組みをつくります。

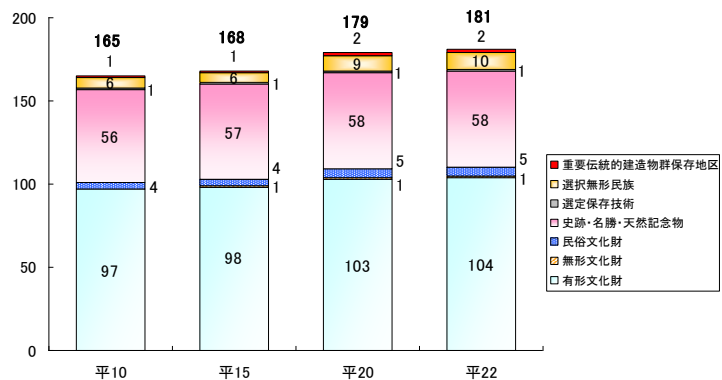
- 各家庭や企業に伝わる一級の美術品や各地域に残る歴史的遺産などを遺す「ふるさと遺産コレクション」の仕組みをつくり、福井の古くて良いものを将来へ引き継いでいきます。

- 美術館・博物館など文化施設のネットワーク強化、福井ゆかりの作家や詩人の足跡をたどる「ふるさと文学館」の設置など、県民が「ふくい文化」を楽しみ、鑑賞・参加できる機会を増やします。また、次の時代を担い世界に挑戦する若手文化人・芸術家を県民、企業、行政総ぐるみで応援します。

- 白山文化など特色あるテーマや平泉寺・一乗谷朝倉氏遺跡・吉崎御坊など同時代の文化をつなぐ「歴史・文化研究」を進め、ふるさとの歴史に対する県民の関心を高めます。

また、福井の歴史・文化を題材にした観光、映画・ドラマの制作などに活かします。

福井県の文化財指定状況（国の指定・選定・選択）



出典：福井県教育庁文化課資料

### (3) 福井のブランド・観光新展開

- 県民のふるさとへの自信と誇りを高める「福井ブランド」の創造と発信をさらに強化するとともにビジネス化を推進し、福井の認知度を高めます。  
国内外への働きかけについては、県民、企業、団体、市町、県がさまざまなツールや媒体を活用し、それぞれの目的に応じて最も効果的な「共動営業」のスタイルをつくり進めます。
- 県外に伸びる高速交通ネットワーク（北陸新幹線、舞鶴若狭自動車道、中部縦貫自動車道）の整備促進のための働きかけを強め、県外、海外から多くの人びとを福井に呼び込むための大動脈を一日も早く完成します。
- 平成26年度には舞鶴若狭自動車道が敦賀まで全線開通し、嶺南地域と嶺北地域、関西・中京圏とをつなぐ交流基盤が大きく改善されます。海の幸など嶺南ならではの特長を活かした観光地の魅力づくりや小浜の街なか、敦賀港エリアなどの観光拠点を強化する「若狭湾岸ハイウェイ」プロジェクトを進め、多くの観光客を集めます。
- 10周年を迎えた県立恐竜博物館は世界レベルの研究水準を向上し、「恐竜王国」のブランド価値をさらに高め、国内外に発信します。  
また、中部縦貫自動車道の延伸、化石発掘現場周辺の「野外博物館」化、地元勝山市一帯を「ダイノソーバレー（恐竜溪谷）」として磨き上げることなどによって、奥越地域を中心に県外から多くの観光客を継続的に呼び込みます。
- 福井の観光客入込数は、増加の傾向にあります。県をあげて関西・中京圏を中心に県外、海外に福井の売り込みを強化し、観光客を増やします。  
特に、東尋坊、あわら温泉、永平寺など観光地の充実、戦国・幕末など歴史的な観光資源や周辺エリアのルート化、県民のホスピタリティ向上など、観光客の満足度を倍増する「旅のハイライトづくり」と「もてなし力の向上」をめざします。  
また、県内各地域はもとより、石川、岐阜、滋賀、京都といった隣接府県、北陸や関西・中部圏などとの広域的な連携を強め、アジアにまで視野を広げた「教育旅行」、「ヘルス・ツーリズム」などの旅行商品を企画・セールスし、国内外からの宿泊客を大幅に増やします。
- 国際会議や学会などのコンベンション誘致を強化し、会議後のサイトツアーなどにより福井をアピールします。

## V-2 交流ネットワーク拡大

県民一人ひとりが外に向かって開き、国の内外との交流を盛んにすることによって、活気にあふれる「新しいふるさと」が創造されます。県民や企業が県内外や未来に目を向けておこなうさまざまな活動を多様な仕組みをつくって応援し、「福井の希望」をつくり出します。

また、地方分権時代にふさわしい大都市を経由しない地方同士の「流通・ビジネスモデル」をつくり出します。大都市に集中するヒトやモノ、カネの動きを変えるための新しい動きを地方連携の下で強め、大都市から地方への人や企業の「分散」を促進します。

国内外とのネットワークを築き上げ、地方分権時代に私たちの「ふるさと福井」から日本を変える新しい動きをつくり出します。

**(1) 内外の力を活かす「新しいふるさと」**

**(2) ローカル・ネットワークの発展**

## (1) 内外の力を活かす「新しいふるさと」

- 私たちは「内向き」の気質をあらため、県外、海外に向かって積極的に開き、外の活力を取り込み、「福井に暮らして良かった」と県民の誰もが思える活気にあふれる「新しいふるさと」づくりを進めます。  
また、福井の「暮らしの質」を共に高め外に積極的にアピールすることによって、県外に住む人びとに「福井に住んでみたい」、「福井を応援しよう」と思ってもらえるような県づくりを推進します。
- 福井出身者や福井ゆかりの人など、福井を愛する県外在住の福井ファン（応援団）を増やし、その知恵や力をふるさとの街づくりや国内外との交流などに活かす仕組みをつくります。  
そして、これらの人びとを福井の内と外とをつなぐ「ふるさと県民」ととらえ、そのネットワークを広げます。県人口70万人台の時代に県外からの応援や活力も結集し、人口百万人規模の地域活力を生み出します。
- 「ふるさと回帰」や都市の本居はそのままに地方に兼居する「二地域居住」の動きが活発化しています。このように大都市から地方へと向かう新しい人の動きを好機ととらえ、県内の各地域において帰住・移住希望者の受入体制を整え、情報発信や働きかけを継続的におこない、「ふるさと帰住」や「新ふくい人の誘致」を促進します。
- 外国人が快適に生活できる環境づくりを進め、福井を愛する海外の「知福人」のネットワークを広げることによって、いつでも訪問・滞在・居住できる機会を増やします。

## (2) ローカル・ネットワークの発展

- これまで築いてきた隣接府県、北陸・中部・関西の各地方広域ブロックのネットワークをさらに発展させ、観光や環境など県域を超えた広域的課題を、県民、企業、団体など多様な主体の参加を促進し解決していきます。
- 地方と地方（ローカル・アンド・ローカル）が大都市を経由せず連携する自治体ネットワークを拡充することにより、「地方知」を活かした施策づくりを推進します。  
大都市から「新ふくい人」や学生、企業の福井への誘致を進める施策を提案し、また福井から率先して実行することにより、大都市に集中する資源の「地方分散」を促進します。
- また、企業、団体、大学、メディアなどさまざまな分野における地方間の交流ネットワークを築き、中小企業同士の共同研究や新製品開発プロジェクト、特産物の相互販売などを推進し、地方発の新しいビジネスモデルをつくります。
- 「ふるさと起業」、「ふるさと遺贈」など福井発の新たなライフスタイルを大都市を中心とした県外の人びとに積極的に提案し、福井の豊かな暮らしと福井における活躍の場を提供します。

## 2 ビジョンの推進方針

変化の激しい時代にあって、このビジョンを実現していくには、県民一人ひとりが福井の将来展望を共有し、力を合わせて行動することが重要です。そのためには、まず県が課題を明確にし、県民に示しながらその責務と役割を全力で果たすことが不可欠です。

『福井県民の将来ビジョン』に掲げた目標の実現に向け、新しい時代にふさわしい県行政の責務と役割を示すとともに、今後の推進方針を掲げます。

### (1) 県行政の責務と役割

グローバル化が進む中、国は複雑になる外交問題や国際問題に迅速かつ適切に対応し、国益を守っていかなければなりません。

住民生活に密着した行政分野においては、市町村や県の責務と役割はこれまで以上に重要になります。地方分権は、市町村や県がその責任を果たすために必要不可欠な改革です。国が細部まで方向性を決める今の行政システムを、これからの10年で大きく変えなければ、日本の国益、国民生活の安全・安心は損なわれることとなります。

県は、国に対して地方分権の推進を働きかけるとともに、住民生活の基礎を支える市町村の活動を支援していきます。また、さまざまな制度改革が提案される中、議会や市町、県民と議論を重ね、県の一体的な発展と県民生活の質の向上を第一に施策を進めていきます。

『福井県民の将来ビジョン』は、このような施策を着実に積み重ね、市町はもとより県民や企業、さまざまな団体の信頼と協力を得ることにより実現されます。



## （「県民主役」の行政を市町とともに推進）

経済的、社会的な課題が複雑・高度化し、県民のニーズもますます多様になる今日、県は県民とのパートナーシップをさらに強め、「県民主役」の行政を展開します。

これまでも、子育てや教育、婚活（結婚活動）の応援、福井を外にアピールする営業活動など、多くの分野において県民との「共動」を進めてきました。こうした活動をさらに充実するとともに、情報公開や行財政改革などを一層推進し、これまで以上に県民に開かれ、信頼される存在となるよう努めていきます。

県議会は、多様化する県民ニーズをとらえ、幅広い議論を通して福井独自の新しい施策づくりを進め、実行に結びつける重要な役割を担っています。

また、市町は住民生活に最も身近な自治の担い手として住民の創意と工夫を取り入れ、住民とともに地域の課題を解決する基礎となる主体です。「平成の合併」により35市町村が17の市町に合併・統合し、新しい市制、町制の下で行財政基盤を強化しながら、住民への行政サービスの充実に努めています。また、合併の道を選ばなかった市町においても、自治の強化に向けさまざまな創意工夫をおこなっています。

地域の自立と創意に満ちた「新しいふるさと」づくりを推進するため、県は市町との間で役割を分担し、それぞれの施策の整合性や協調を保ちながら、一体となってビジョンの実現をめざします。

県は、以下の3つの役割を果たしながら県議会とともに県民生活起点の「総力自治」を推進し、県民、企業、さまざまな団体、市町とともに福井の将来を切り開いていきます。

- ① これからの難局を県民一丸となって乗り越えていくため、県民、企業、団体の自主的な活動を引き出していく仕組みを共につくり、「県民主役」の活動を応援します。
- ② 県民生活に深く関わっている市町の仕事を支援するとともに、特に、広域的な観点から市町の区域を超えた地域間の交流や連携を生み出し、県内の一体感をさらに高めていきます。
- ③ 集権的になりがちな国の施策や地方分権改革などの動きを「地方自立」の観点から常にチェックするとともに、原子力の安全確保や高速交通ネットワークの整備など県民全体の利益を最大限に高めていくようリーダーシップを発揮します。

## （地方と大都市の新しい関係を構築）

大都市は、戦後日本の効率的な経済成長を支える上で重要な役割を果たしてきました。それは、地方が人材、資金、資源・エネルギーを大都市に継続的に供給することで成り立つ、一つの総合的な成長の仕組みでした。

しかし、大都市においては今後、地方と以上にグローバル化や人口の減少・高齢化、環境問題など構造的な変化が進みます。こうした中、地方と大都市の関係を大きく見直し、新しい関係をつくり上げなければなりません。

そこで、県では近隣府県との連携をより緊密化するとともに、他の都道府県とのネットワークを拡大し、地方から大都市に進学する若者、都市に集積する企業などを地方に戻すサイクルをつくるための制度提案を積極的におこなっていきます。また、「ふるさと帰住」など人口循環を生み出す新しい施策を、市町とともに率先して実行に移していきます。

すでに述べたように、福井は大都市からの独立性を維持しながら、豊かさを自らの手で実現できる恵まれた県です。経済的にも、また社会的にも、全国に誇ることのできる優れた力を発揮しています。

地方と地方の間に、大都市に依存しない新しい関係を開くなど多様なネットワークをつくり上げることによって、県民とともに、ふるさとの活力と将来に向けた「私たちの希望」を創造します。

## (2) ビジョンの実現方策

### (さまざまな分野における県民運動の展開)

激動の時代に新しい県づくりを進めるためには、県民一人ひとりがこのビジョンを自らのものとしてとらえ、積極的に「新しいふるさと」づくりに向けた行動を起こすことが第一歩となります。

こうした動きを一つにまとめ積極的な運動へと高めていくことによって、ビジョンに掲げた将来像を実現することができます。

そのため、ビジョンを広く県民と共有するための広報活動を積極的に展開することによって、若者、高齢者、女性、男性といった年齢や性別の区別なく幅広い層の県民が「一人も一役」を買って出て、子育てや教育、街づくり、地域づくり、ボランティアなどさまざまな分野で自発的に活動することを促進します。

また、「県民主役」の開かれた県政を推進するため、現場主義と市町との緊密な連絡調整を徹底するとともに、地区別、分野別に広く県民の意見を聞く「県政マーケティング」の充実など、日々の広聴活動を一層強化します。

### (具体的な施策・プロジェクトの推進)

このビジョンは、県民、企業、さまざまな団体、市町、県共通の行動指針となるものですが、同時にこれから10年の県政運営の「道しるべ」として、新しい県づくりのための長期的な行動指針と目標を明らかにしたものです。

ビジョンに掲げた将来像を実現するためには、変化を続ける経済・社会情勢を的確に把握しながら、弾力的かつ効果的に施策やプロジェクトを推進する必要があります。

住民の生活は、常にさまざまな分野にわたる総合的なものです。今後、経済・産業、子育て、環境、農業、林業、水産業など個別分野における計画を策定・改定する際や各年度において予算を編成する際には、ビジョンの理念や目標、戦略を参考にしながら、県民生活の現実から離れることなく具体的な施策・プロジェクトをつくり、実行していきます。



# 付 属 資 料

# 1 ビジョンの策定経過

## 第1段階 5つの変化要因の分析（平成21年11月～平成22年3月）

### 将来ビジョン検討会議の開催

○今後の社会経済の変化要因による福井への影響や課題を分析、検討

開催日	テーマ
平成21年11月30日	東アジアの成長と福井県
12月17日	都市と地方の連携
平成22年1月7日	人口構造の変化と日本、福井県の課題
1月13日	環境と共生する社会に向けての課題
2月16日	新しい人間像

※のべ参加者数：127人（有識者、県議会議員、若手経済人、学生、市町職員）

## 第2段階 将来像や戦略の検討（県民の方々からの意見集約）（平成22年4月～8月）

### 地区別意見交換会の実施（4月～6月）

○将来ビジョン検討会議（5回開催）の検討結果をもとに、県内各地区の方々と地区および福井の将来像について意見交換

開催日	地区
平成22年4月13日	奥越地区
4月19日	若狭地区
5月11日	二州地区（敦賀市、美浜町）
5月24日	坂井地区（あわら市、坂井市）、永平寺町
5月31日	丹南地区
6月17日	福井地区

※のべ参加者数：172人（各地区の代表者、県議会議員、学生、市町職員）

### 分野別意見交換会の実施（7月～8月）

○福祉、産業、教育などさまざまな団体の方々とそれぞれの分野や県全体の将来像について意見交換

開催日	政策分野
平成22年7月13日	産業・労働
7月15日	人づくり
7月15日	福祉・医療
7月15日	環境・自然保護
7月16日	コミュニティづくり
7月22日	子育て・女性
7月23日	観光
8月26日	農業
8月30日	水産業
8月31日	林業

※のべ参加者数：115人（各分野の関係者）

## 県民アンケートの実施（6月発送、8月集計・分析）

○福井の将来に関する県民アンケートを実施

※県内に居住する満20歳以上の5,000人に送付し、2,501人から回答

### 第3段階 ビジョン素案作成・検討（平成22年7月～10月）

○第1～2段階での議論を参考にとりまとめたビジョン素案について検討

平成22年9月1日 市町首長との意見交換会

9月3日 県議会議員との意見交換会

定例県議会において議論

10月1日 県民パブリックコメント（アイデア）の募集  
～22日

### 最終段階 ビジョンを議案として提出・承認（平成22年11月～12月）

平成22年11月26日 福井県民の将来ビジョンの策定について、定例県議会に  
議案として提出

定例県議会において議論

平成22年12月17日 案の議決・承認

## 2 県民アンケート調査の結果

---

### I 調査の概要

#### 1 調査目的

『福井県民の将来ビジョン』を策定するに当たり、有識者による検討会議や県民との地区別懇談会を開催するとともに、アンケート調査を実施することによって、広く県民の意見を把握し、福井がめざす将来像や戦略に反映させる。

#### 2 調査内容

##### (1) 県民の価値観

豊かさの意味や消費の志向、大切にしている人のつながりなど、県民の価値観を把握し、また過去の調査結果と比較を行うことにより、県民の思いを反映した福井の将来の姿を示す。

##### (2) 県民の満足度

県民のふるさつに対する評価や県外との比較を行うことにより、ビジョンにおける具体的な戦略や施策の方向性を考える際の参考とする。

##### (3) 県民の希望

福井の将来に対する県民の希望（良くなると思うところなど）を把握することにより、ビジョンにおける戦略や施策の方向性を考える際の参考とする。

##### (4) 県民の将来ビジョン

ビジョンの素案に示した戦略に関する柱（人づくり、コミュニティ、環境、産業、街づくり）ごとに、県民が望む将来の姿を把握することにより、戦略や施策の方向性を考える際の参考とする。

#### 3 調査期間

平成22年6月22日～6月30日

#### 4 調査方法

郵送による調査票配布、回収

#### 5 調査対象

県内に居住する満20歳以上の5,000人  
(住民基本台帳から年代別に無作為抽出)

#### 6 回答者数

2,501人(回収率50.02%)



## 7 回答者の属性

### 〔居住地〕

	回答者数	構成比		回答者数	構成比
福井市	794	31.7%	池田町	15	0.6%
あわら市	100	4.0%	南越前町	40	1.6%
坂井市	283	11.3%	敦賀市	179	7.2%
永平寺町	64	2.6%	小浜市	102	4.1%
大野市	119	4.8%	美浜町	27	1.1%
勝山市	97	3.9%	高浜町	30	1.2%
鯖江市	205	8.2%	おおい町	25	1.0%
越前市	262	10.5%	若狭町	46	1.8%
越前町	69	2.8%	未記入・無効等	44	1.8%
			計	2,501	100.0%

### 〔年齢〕

	回答者数	構成比
20～29歳	184	7.4%
30～39歳	276	11.0%
40～49歳	329	13.2%
50～59歳	453	18.1%
60～69歳	520	20.8%
70歳以上	701	28.0%
未記入・無効等	38	1.5%
計	2,501	100.0%

### 〔性別〕

	回答者数	構成比
男	1,052	42.1%
女	1,369	54.7%
未記入・無効等	80	3.2%
計	2,501	100.0%

### 〔職業〕

	回答者数	構成比
自営業	266	10.6%
家族従事者	55	2.2%
会社役員・団体役員	66	2.6%
会社員・公務員	694	27.7%
パート・アルバイト	312	12.5%
学生	17	0.7%
専業主夫・主婦	305	12.2%
無職	578	23.1%
その他	108	4.3%
未記入・無効等	100	4.0%
計	2,501	100.0%

### 〔世帯構成〕

	回答者数	構成比
ひとり暮らし	165	6.6%
夫婦のみ	502	20.1%
2世代世帯	1,038	41.5%
3世代世帯	589	23.6%
その他	144	5.8%
未記入・無効等	63	2.5%
計	2,501	100.0%

### 〔配偶者の有無〕

	回答者数	構成比
有	1,779	71.1%
無	643	25.7%
未記入・無効等	79	3.2%
計	2,501	100.0%

### 〔共働き（配偶者がいる方のみ）〕

	回答者数	構成比
共働きである	913	51.3%
共働きではない	749	42.1%
未記入・無効等	117	6.6%
計	1,779	100.0%

### 〔学生の有無〕

	回答者数	構成比
いる（同居）	688	27.5%
いる（別居）	178	7.1%
いない	1,535	61.4%
未記入・無効等	100	4.0%
計	2,501	100.0%

## Ⅱ 調査結果の概要

- 1 日々の生活の中で「家族との触れ合い」や「友人など気のあう仲間との交流」を大切に考えている。
  - ・日々の生活の中で大切にしたいことについて聞いたところ、「家族との触れ合い」の割合が6割以上と群を抜いて高く、次いで「友人など気の合う仲間との交流」の割合が高かった。
  - ・さらに、3番目に「経済的な豊かさ」が続き、「ふくい2030年の姿」に関するアンケート調査（2004年）（※以下、2004年調査という。）の「趣味やスポーツ、レジャーなどの余暇活動」と異なる結果となり、近年の厳しい経済状況を反映する結果となった。（設問：問1）
  
- 2 「心身の健康」に豊かさを感じている。
  - ・「豊かさ」とはどのようなことか聞いたところ、7割以上が「心身の健康」と答えており、次いで、「安定した家族関係」、「生きがいや目標を持った生活」と続き、2004年調査と同じ結果となった。
  - ・年代別にみると、50歳代以下は、「生きがいや目標を持った生活」、「収入や資産が多いこと」、「時間的なゆとり」の割合が高く、一方、60歳代以上は、「心身の健康」、「豊かな自然に囲まれた生活」、「普段の生活が便利なこと」の割合が高くなっている。（設問：問2）
  
- 3 「健康・医療」に積極的にお金を使いたいと考えている。
  - ・日々の生活の中で何に積極的にお金を使いたいか聞いたところ、4割以上が「健康・医療」と答えており、次いで「趣味・レジャー」の割合が高かった。さらに、3番目に「食」が続き、2004年調査の「住居」と異なる結果となった。
  - ・年代別にみると、50歳代以下は「趣味・レジャー」の割合が最も高く、一方、60歳代以上では、「健康・医療」の割合が、50歳代以下に比べ相当高くなっている。（設問：問3）
  
- 4 「家族」、「地域や近所の人」とのつながりを大切にし、今後、地域社会を支える主体として最もふさわしいと考えている。
  - ・日々の生活の中で、どのような人との関係を大切にしているか聞いたところ、8割以上が日々の生活の中で「家族」との関係を大切にしていると答えており、2004年調査と比較すると23.4ポイント高くなっている。
  - ・また、10年後の福井において、地域社会を支えるのにふさわしい主体として、8割以上が「家族や同じ地域の人」と答えており、今後もこれらの人との関係を大切にしたいと思っていることが伺える。（設問：問4、問21）

5 福井の高齢層（60 歳代～）は、全国に比べ、近所づきあいや地域活動を積極的におこなっている。

・福井では、高齢層の 98.1%が近所づきあいをおこなっており、全国に比べ 4.2%高い。  
また、この 1 年間に 77.4%が地域活動に参加しており、全国に比べ 23.8%高い。

※福 井：「親しくつきあっている（54.9%）」、「あいさつをする程度（43.2%）」

全 国：「親しくつきあっている（47.6%）」、「あいさつをする程度（46.3%）」

※平成 21 年度内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」との比較

（設問：問 5、問 7）

6 8 割以上が福井に暮らしてきて満足しており、「豊かな自然環境」、「災害や犯罪が少なく、安心して暮らせること」、「温かい人間関係を大切にしていること」に満足している。

・82.0%の県民が、福井に暮らしてきたことに対する満足感を持っている。

※「暮らしてきてよかった（51.6%）」、「どちらかといえば暮らしてきてよかった（30.4%）」

・また、福井の良いところについて、「空気や水がきれい、緑豊かな自然環境」と答えた方が最も多く（74.1%）、次いで「災害や犯罪が少なく、安心して暮らせる（57.1%）」、「温かい人間関係を大切にしている（23.6%）」という結果となった。

（設問：問 11、問 12）

7 10 年後の福井に、「福祉・医療サービスの充実」、「自然環境の保全」、「産業の振興、雇用の安定」を期待している。

・10 年後の福井が今よりも良くなってほしいところについて聞いたところ、「福祉や医療サービスが充実し、高齢者や障害を持つ人が大切にされている」が 42.1%と最も割合が高くなっている。次いで、「空気や水がきれいで、緑豊かな自然環境が守られている」40.5%、「産業が盛んで、働く場に恵まれている」35.7%と続いている。

（設問：問 18）

### Ⅲ 項目別の調査結果

問1 あなたが、日々の生活の中で大切にしたいと思っていることはどのようなことですか。最も当てはまるものを2つ選んで○をつけてください。

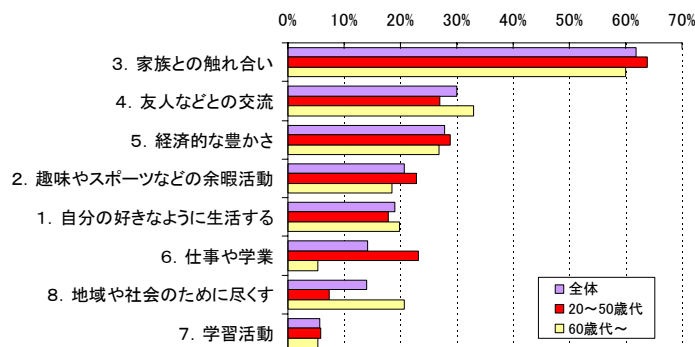
- 答 1. 自分の好きなように生活すること (475) 2. 趣味やスポーツ、レジャーなどの余暇活動 (518)  
 3. 家族との触れ合い (1546) 4. 友人など気の合う仲間との交流 (750)  
 5. 経済的な豊かさ (698) 6. 仕事や学業 (353)  
 7. 学習活動により自分の能力を高めること (139) 8. 地域や社会のために尽くすこと (351)

※上記カッコ内は、各項目の回答者数 (問2以降も同様)

※下記グラフの割合は、「各項目の回答者数/回答者総数」(問2以降も同様)

・「家族との触れ合い」の割合が61.8%で群を抜いて高く、次いで「友人など気の合う仲間との交流」、「経済的な豊かさ」と続いている。

〔年代別〕

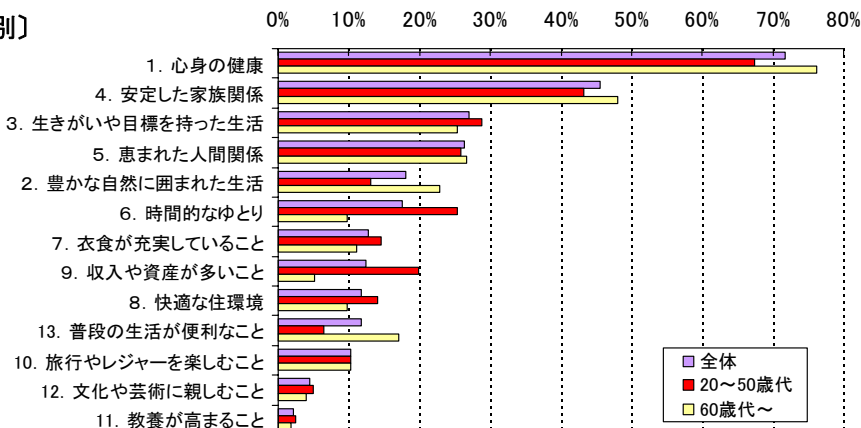


問2 あなたにとって「豊かさ」とはどのようなことですか。最も当てはまるものを3つ選んで○をつけてください。

- 答 1. 心身の健康 (1794) 2. 豊かな自然に囲まれた生活 (450)  
 3. 生きがいや目標を持った生活 (676) 4. 安定した家族関係 (1139) 5. 恵まれた人間関係 (657)  
 6. 時間的なゆとり (439) 7. 衣食が充実していること (321) 8. 快適な住環境 (295)  
 9. 収入や資産が多いこと (313) 10. 旅行やレジャーを楽しむこと (254)  
 11. 教養が高まること (53) 12. 文化や芸術に親しむこと (111)  
 13. 交通や買い物など普段の生活が便利なこと (296)

・「心身の健康」の割合が71.7%で群を抜いて高く、次いで、「安定した家族関係」、「生きがいや目標を持った生活」が続いた。  
 ・年代別にみると、50歳代以下は、「生きがいや目標を持った生活」、「収入や資産が多いこと」、「時間的なゆとり」の割合が高く、一方、60歳代以上は、「心身の健康」、「豊かな自然に囲まれた生活」、「普段の生活が便利なこと」の割合が高くなっている。

〔年代別〕

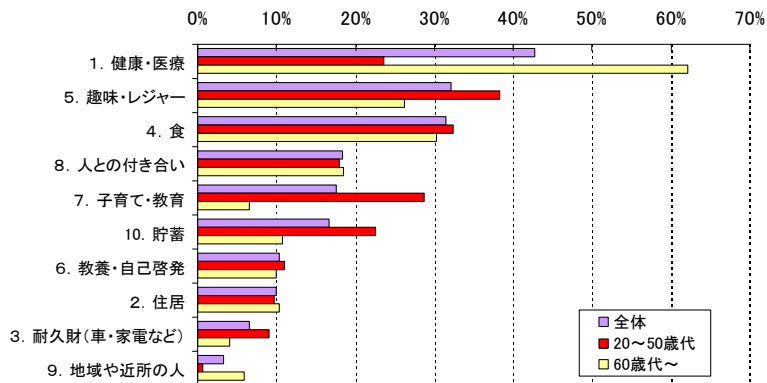


問3 あなたは日々の生活で、何に積極的にお金を使いたいと思っていますか。最も当てはまるものを2つ選んで○をつけてください。

- 答 1. 健康・医療 (1068) 2. 住居 (251) 3. 耐久財 (車・家電など) (165) 4. 食 (787)  
 5. 趣味・レジャー (804) 6. 教養・自己啓発 (257) 7. 子育て・教育 (438)  
 8. 人との付き合い (459) 9. 地域や近所の人 (82) 10. 貯蓄 (417)

- ・「健康・医療」の割合が42.7%で最も高く、次いで「趣味・レジャー」の割合が高かった。さらに、3番目に「食」が続いた。
- ・年代別にみると、50歳代以下は「趣味・レジャー」の割合が最も高く、一方、60歳代以上では、「健康・医療」の割合が、50歳代以下に比べ相当高くなっている。

〔年代別〕

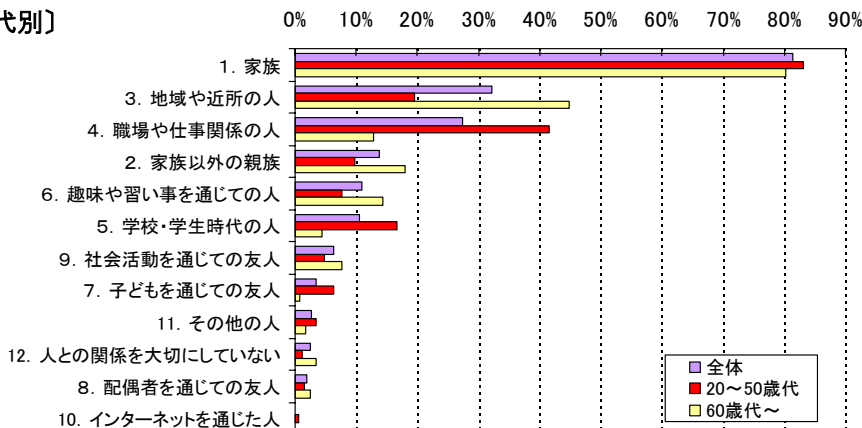


問4 あなたは日々の生活で、どのような人との関係を大切にしていますか。最も当てはまるものを2つ選んで○をつけてください。

- 答 1. 家族 (2037) 2. 家族以外の親族 (346) 3. 地域や近所の人 (804)  
 4. 職場や仕事関係の人 (682) 5. 学校・学生時代の人 (265)  
 6. 趣味や習い事を通じての人 (273) 7. 子どもを通じての友人 (88)  
 8. 配偶者を通じての友人 (49) 9. 社会活動を通じての友人 (157)  
 10. インターネットを通じた人 (6)  
 11. その他の人 (66) 12. 人との関係を大切にしていない (61)

- ・「家族」の割合が81.4%で群を抜いて高く、2004年調査と比較すると23.4ポイント高くなっている。
- ・年代別にみると50歳代以下は「職場や仕事関係の人」、「学校・学生時代の人」の割合が高く、60歳代以上では、「地域や近所の人」、「家族の親族」、「趣味や習いごとを通じての人」の割合が高くなっている。

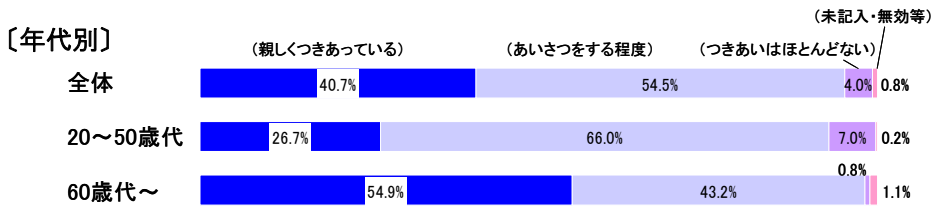
〔年代別〕



問5 あなたは、ふだん、近所の人とどの程度のつきあいをしていますか。最も当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 答 1. 親しくつきあっている (1019) 2. あいさつをする程度 (1364)  
3. つきあいはほとんどない (99) 未記入・無効等 (19)

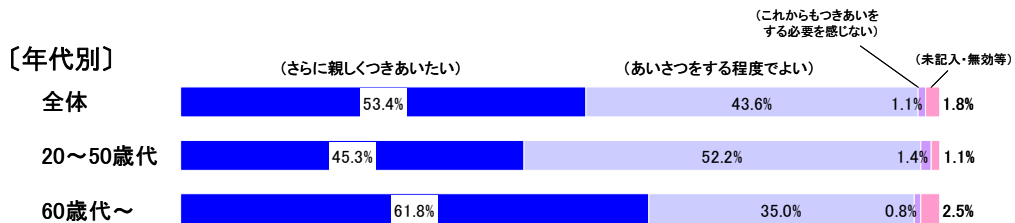
- ・「親しくつきあっている」の割合が40.7%、「あいさつをする程度」の割合が54.5%で、95.2%が何らかの近所づきあいをしている。一方で、「つきあいはほとんどない」は4.0%であった。
- ・年代別にみると、60歳代以上で「親しくつきあっている」の割合が54.9%と、20～50歳代の倍以上となっている。



問6 近所の人とのつきあいについて、これからどうしていきたいとお考えですか。最も当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 答 1. さらに親しくつきあいたい (1336) 2. あいさつをする程度でよい (1091)  
3. これからもつきあいをする必要を感じない (28) 未記入・無効等 (46)

- ・「さらに親しくつきあいたい」の割合が最も高く53.4%であり、「あいさつをする程度でよい」が43.6%、「これからもつきあいをする必要を感じない」が1.1%であった。
- ・年代別にみると、60歳代以上の「さらに親しくつきあいたい」の割合が20～50歳代よりも高くなっている。

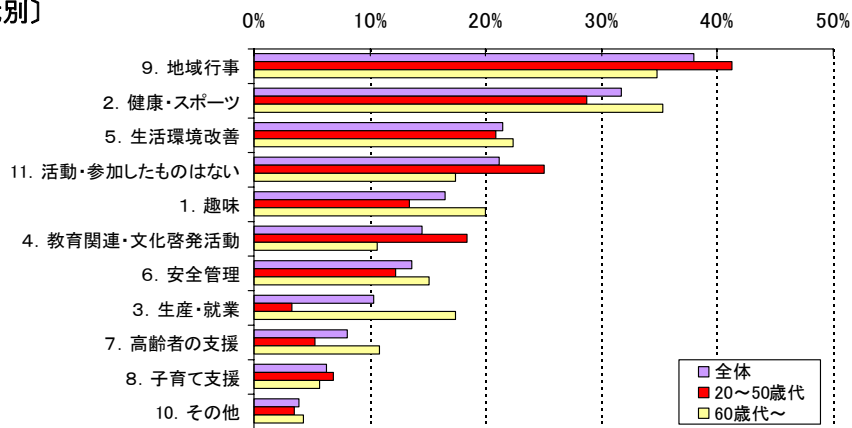


問7 あなたは、この1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている次のような活動を行った、または参加したことがありますか。この中からいくつでも選んで○をつけてください。

- 答 1. 趣味（俳句、詩吟、陶芸等） (412)  
2. 健康・スポーツ（体操、歩こう会、ゲートボール等） (794)  
3. 生産・就業（生きがいのための園芸・飼育、シルバー人材センター等） (258)  
4. 教育関連・文化啓発活動（学習会、子供会の育成、郷土芸能の伝承等） (362)  
5. 生活環境改善（環境美化、緑化推進、街づくり等） (538)  
6. 安全管理（交通安全、防犯・防災等） (341) 7. 高齢者の支援（家事援助、移送等） (203)  
8. 子育て支援（保育への手伝い等） (157)  
9. 地域行事（祭りなどの地域の催しもの世話等） (950)  
10. その他 (98) 11. 活動・参加したものはなし (531)

- ・「地域行事」の割合が最も高く38.0%であり、次いで、「健康・スポーツ」、「生活環境改善」と続いた。一方で、「活動・参加したものはなし」が21.2%であった。

〔年代別〕

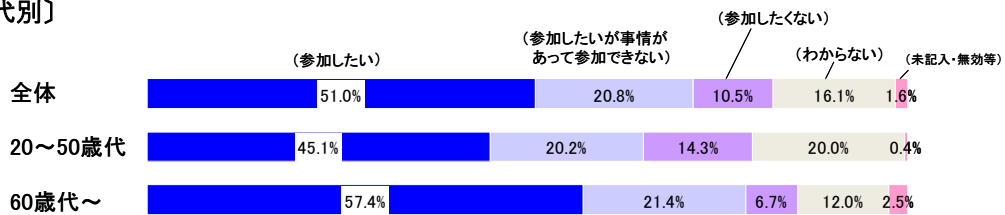


問8 あなたは、グループや団体で自主的に行われている活動(地域活動)に、今後とも(又は今後は)、参加したいと思いますか。参加したくないと思いますか。最も当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 答 1. 参加したい (1276) 2. 参加したいが、事情があって参加できない (521)  
3. 参加したくない (263) 4. わからない (402)

- ・「参加したい」の割合が50%以上を占めている。
- ・年代別にみると、60歳代以上の「参加したい」の割合が20~50歳代よりも高くなっている。

〔年代別〕

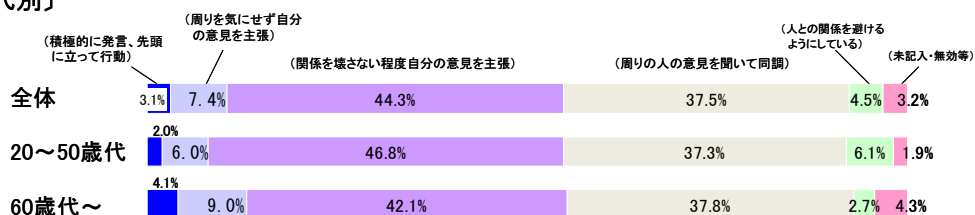


問9 あなたは自分が住んでいる地域で、どのように行動していますか。最も当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 答 1. 積極的に発言し、先頭に立って行動するようにしている。(77)  
2. 先頭に立つつもりはないが、周りの人のことを気にせず自分の意見を主張するようにしている。(185)  
3. 周りの人との関係を壊さない程度に自分の意見を主張するようにしている。(1107)  
4. 自分の意見は主張せず、周りの人の意見を聞いて、正しいと思う意見や多数意見に同調するようにしている。(939)  
5. 人との関係をできるだけ避けるようにしている。(113)

- ・「関係を壊さない程度自分の意見を主張」の割合が40%以上を占め、次いで、「周りの人の意見を聞いて同調」が続く。
- ・年代別にみると、20~50歳代の「関係を壊さない程度自分の意見を主張」の割合が60歳代以上よりも高くなっている。

〔年代別〕

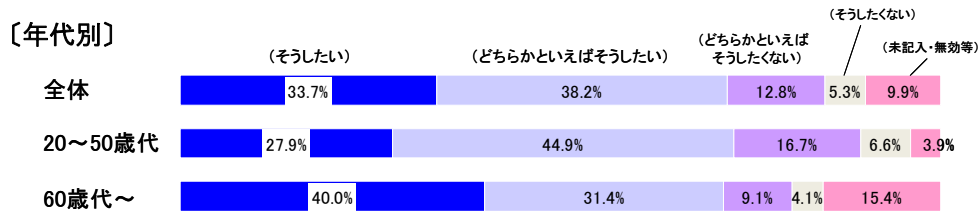


問 10 あなたは自分の老後をどのように過ごしたいと思っていますか。次のA～Gの項目の1～4について、最も当てはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

A. 子どもや孫と一緒に暮らす

- 答 1. そうしたい (843) 2. どちらかといえばそうしたい (956)  
3. どちらかといえばそうたくない (321) 4. そうたくない (133)

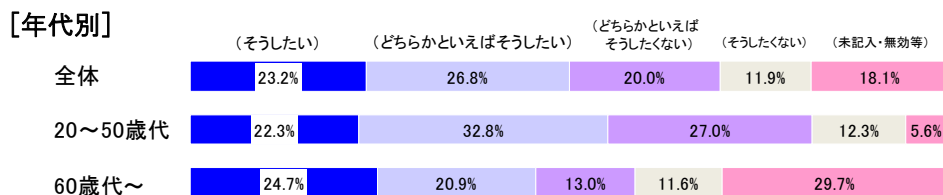
・「そうしたい」の割合が33.7%、「どちらかといえばそうしたい」が38.2%で、両方を合わせた「老後は子どもや孫と一緒に暮らしたい(計)」が71.9%と7割を超えている。



B. 夫婦2人きりで暮らす

- 答 1. そうしたい (581) 2. どちらかといえばそうしたい (670)  
3. どちらかといえばそうたくない (500) 4. そうたくない (298)

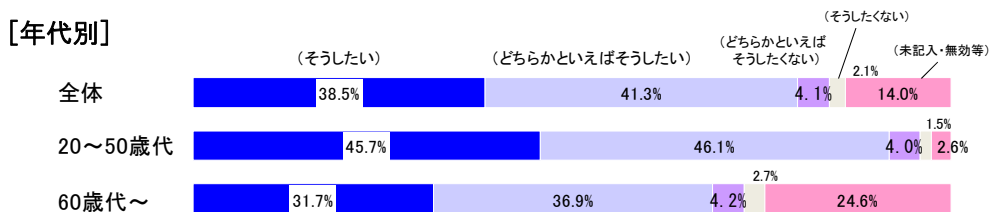
・「そうしたい」の割合が23.2%、「どちらかといえばそうしたい」が26.8%で、両方を合わせた「老後は夫婦2人きりで暮らしたい(計)」が50.0%と約半数となっている。



C. 自分の趣味に時間をかける

- 答 1. そうしたい (964) 2. どちらかといえばそうしたい (1032)  
3. どちらかといえばそうたくない (102) 4. そうたくない (52)

・「そうしたい」の割合が38.5%、「どちらかといえばそうしたい」が41.3%で、両方を合わせた「老後は自分の趣味に時間をかけたい(計)」が79.8%と約8割となっている。

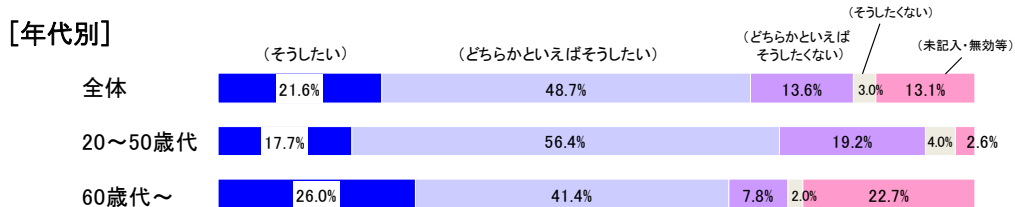




D. 地域の人と交流する

- 答** 1. そうしたい (541) 2. どちらかといえばそうしたい (1217)  
3. どちらかといえばそうたくない (339) 4. そうたくない (76)

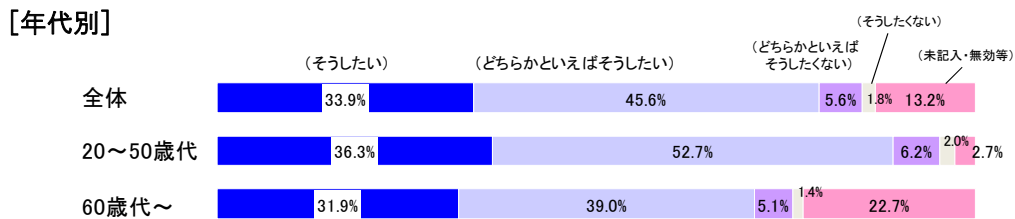
・「そうしたい」の割合が 21.6%、「どちらかといえばそうしたい」が 48.7%で、両方を合わせた「老後は地域の人と交流したい (計)」が 70.3%と7割を超えている。



E. 同年代の仲間と交流する

- 答** 1. そうしたい (847) 2. どちらかといえばそうしたい (1141)  
3. どちらかといえばそうたくない (139) 4. そうたくない (44)

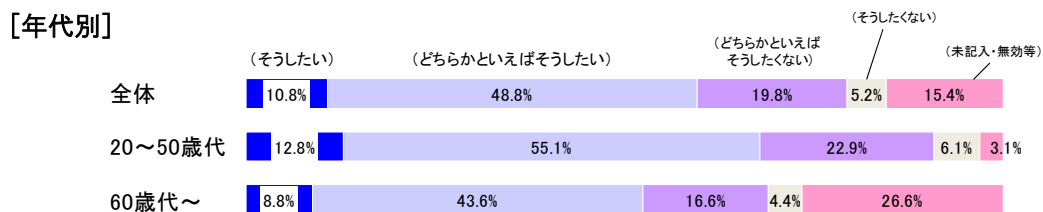
・「そうしたい」の割合が 33.9%、「どちらかといえばそうしたい」が 45.6%で、両方を合わせた「老後は同年代の仲間と交流したい (計)」が 79.5%と約8割となっている。



F. 若い人たちと交流する

- 答** 1. そうしたい (270) 2. どちらかといえばそうしたい (1221)  
3. どちらかといえばそうたくない (495) 4. そうたくない (131)

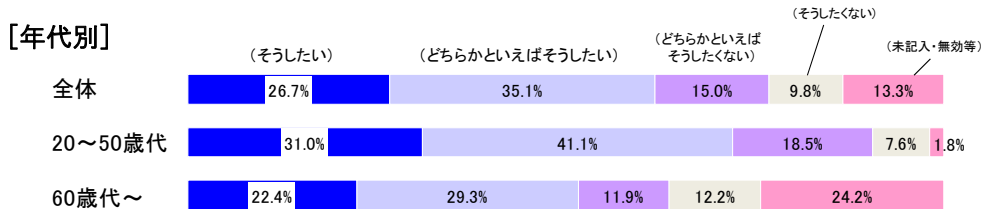
・「そうしたい」の割合が 10.8%、「どちらかといえばそうしたい」が 48.8%で、両方を合わせた「老後は若い人たちと交流したい (計)」が 59.6%と約6割となっている。



G. できるだけ働き続ける

- 答** 1. そうしたい (668) 2. どちらかといえばそうしたい (878)  
3. どちらかといえばそうしたくない (376) 4. そうしたくない (246)

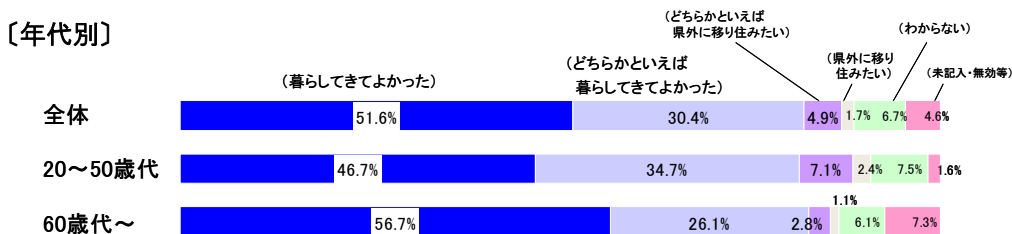
・「そうしたい」の割合が 26.7%、「どちらかといえばそうしたい」が 35.1%で、両方を合わせた「老後はできるだけ働き続けたい(計)」が 61.8%となっている。



問 11 あなたは自分が福井県に暮らしてきて良かったと思っていますか。当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 答** 1. 暮らしてきてよかった (1291) 2. どちらかといえば暮らしてきてよかった (761)  
3. どちらかといえば県外に移り住みたい (123) 4. 県外に移り住みたい (43)  
5. わからない (168)

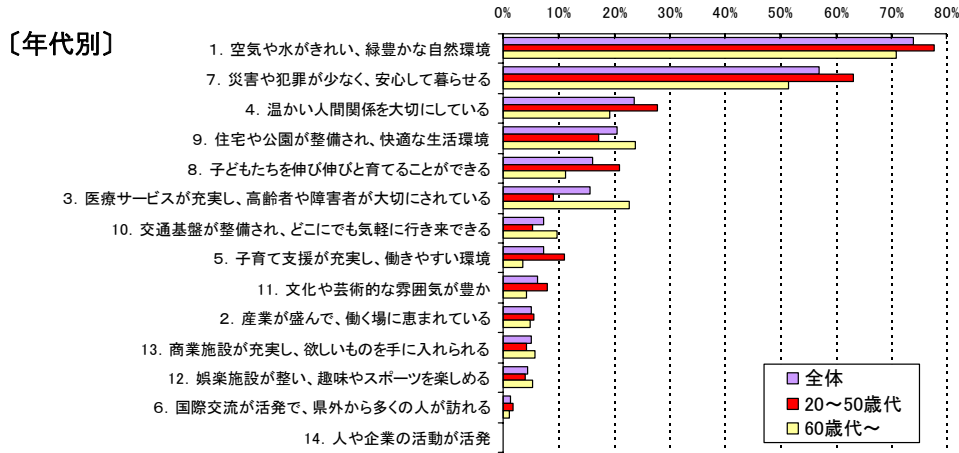
・「暮らしてきてよかった」が 51.6%、「どちらかといえば暮らしてきてよかった」が 30.4%で、両方を合わせた「福井県に暮らしてきたことに満足(計)」の割合が 82.0%と 8 割を超えている。



問 12 福井県の良いところはどこだと思いますか。最も当てはまるものを3つ選んで○をつけてください。

- 答** 1. 空気や水がきれいで、緑豊かな自然環境が守られている (1852)  
2. 産業が盛んで、働く場に恵まれている (128)  
3. 福祉や医療サービスが充実し、高齢者や障害を持つ人が大切にされている (395)  
4. 地域コミュニティの結びつきが強く、温かい人間関係を大切にしている (590)  
5. 子育て支援が充実し、働きやすい環境が整っている (183)  
6. 国際交流や地域間交流が活発で、県外から多くの人を訪れている (35)  
7. 災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる (1428)  
8. 学校の教育や施設等が充実し、子どもたちを伸び伸びと育てることができる (402)  
9. 住宅や公園、下水道などが整備され、快適な生活環境の中で暮らすことができる (512)  
10. 道路や鉄道などの交通基盤が整備され、どこにでも気軽に行き来ができる (185)  
11. 伝統芸能や創作活動が盛んで、文化や芸術的な雰囲気が豊かである (154)  
12. 娯楽施設が整い、趣味やスポーツを楽しむことができる (113)  
13. 商業施設等が充実し、欲しいものをいつでも手に入れることができる (124)  
14. 人口が多く、人や企業の活動が活発である (7)

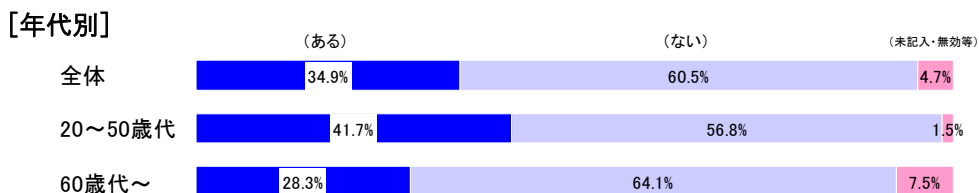
- ・「空気や水がきれいで、緑豊かな自然環境が守られている」が74.1%、「災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる」が57.1%と、ともに半数を上回り割合が高くなっている。次いで、「地域コミュニティの結びつきが強く、温かい人間関係を大切にしている」23.6%、「住宅や公園、下水道などが整備され、快適な生活環境の中で暮らすことができる」20.5%の順となっている。



問13 あなたは過去に1年以上、福井県以外の地域で暮らしたことがありますか。当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

答 1. ある (872) 2. ない (1512)

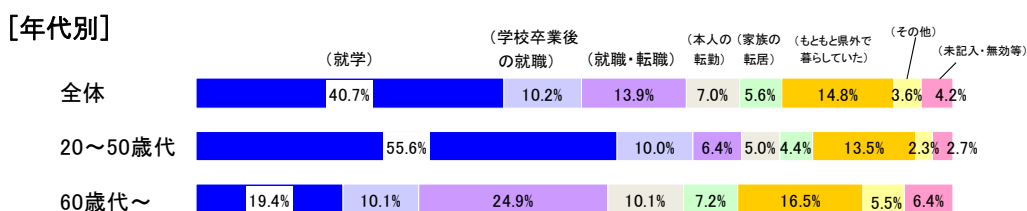
- ・「過去に1年以上、福井県以外の地域で暮らしたことがない」の割合が60.5%を占め、「暮らしたことがある」が34.9%となっている。



問14 問13で1と答えた方のみお答えください。福井県以外の地域で暮らすことになった理由について、当てはまるものを1つ選んでください。複数ある場合には、初めて県外で暮らすことになった時のことについてお答えください。

- 答
1. 就学（専門学校、大学、大学院）(355)
  2. 学校（高校、専門学校、大学、大学院）卒業後の就職 (89)
  3. 2以外の就職、転職 (121)
  4. 本人の転勤 (61)
  5. 家族の転居 (49)
  6. もともと県外で暮らしていた (129)
  7. その他 (31)

- ・「就学」の割合が40.7%で最も高く、次いで「もともと県外で暮らしていた」14.8%、「就職・転職」13.9%と続いている。

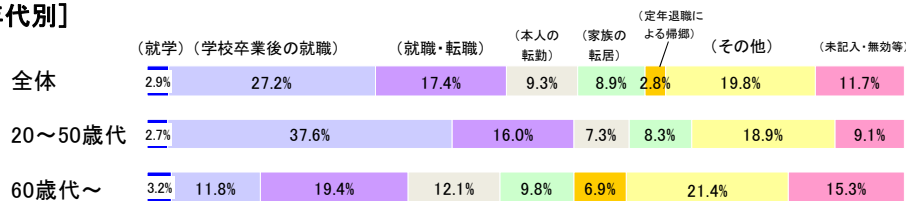


問 15 問 13 で 1 と答えた方のみお答えください。福井県以外の地域から福井県に戻る（来る）ことになった理由について、当てはまるものを 1 つ選んでください。複数ある場合には、初めて戻る（来る）ことになった時のことについてお答えください。

- 答**
1. 就学（専門学校、大学、大学院）（25）
  2. 学校（高校、専門学校、大学、大学院）卒業後の就職（237）
  3. 2 以外の就職、転職（152）
  4. 本人の転勤（81）
  5. 家族の転居（78）
  6. 定年退職による帰郷（24）
  7. その他（173）

・「学校卒業後の就職」の割合が 27.2% で最も高く、次いで「就職・転職」17.4%、「本人の転勤」9.3% と続いている。

**[年代別]**

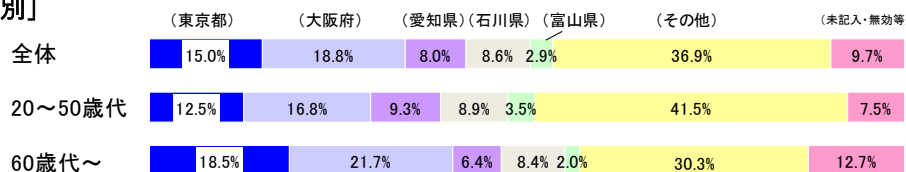


問 16 問 13 で 1 と答えた方のみお答えください。福井県以外で暮らしたことがある地域はどこですか。当てはまるものを 1 つ選んでください。複数ある場合には、もっとも長く暮らした地域をお答えください。

- 答**
1. 東京都（131）
  2. 大阪府（164）
  3. 愛知県（70）
  4. 石川県（75）
  5. 富山県（25）
  6. その他（322）

・「大阪府」の割合が 15.0% で最も高く、次いで、「東京都」15.0%、「石川県」8.6% と続いている。

**[年代別]**

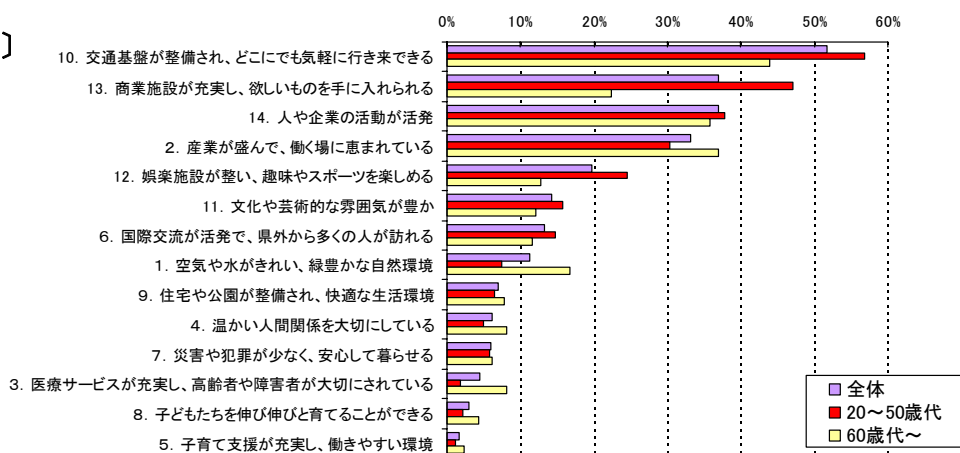


問 17 問 13 で 1 と答えた方のみお答えください。福井県以外の地域で暮らしてみて、福井県よりも良かったと思うことは何ですか。最も当てはまるものを 3 つ選んで○をつけてください。

- 答**
1. 空気や水がきれいで、緑豊かな自然環境が守られている（98）
  2. 産業が盛んで、働く場に恵まれている（289）
  3. 福祉や医療サービスが充実し、高齢者や障害を持つ人が大切にされている（38）
  4. 地域コミュニティの結びつきが強く、温かい人間関係を大切にしている（54）
  5. 子育て支援が充実し、働きやすい環境が整っている（14）
  6. 国際交流や地域間交流が活発で、県外から多くの人を訪れている（116）
  7. 災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる（52）
  8. 学校の教育や施設等が充実し、子どもたちを伸び伸びと育てることができる（26）
  9. 住宅や公園、下水道などが整備され、快適な生活環境の中で暮らすことができる（61）
  10. 道路や鉄道などの交通基盤が整備され、どこにでも気軽に行き来ができる（451）
  11. 伝統芸能や創作活動が盛んで、文化や芸術的な雰囲気が豊かである（124）
  12. 娯楽施設が整い、趣味やスポーツを楽しむことができる（173）
  13. 商業施設等が充実し、欲しいものをいつでも手に入れることができる（323）
  14. 人口が多く、人や企業の活動が活発である（323）

- ・「道路や鉄道などの交通基盤が整備され、どこにでも気軽に行き来ができる」が51.7%と半数を上回り最も割合が高くなっている。次いで、「商業施設等が充実し、欲しいものをいつでも手に入れることができる」、「人口が多く、人や企業の活動が活発である」がともに37.0%で続いている。

〔年代別〕



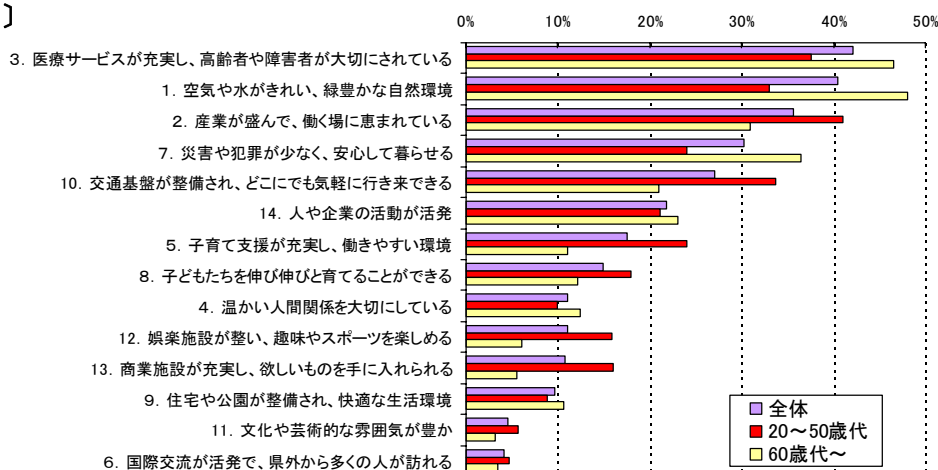
問 18 10年後の福井県が今よりも良くなってほしいと思うところはどこですか。最も当てはまるものを3つ選んで○をつけてください。

答

1. 空気や水がきれいで、緑豊かな自然環境が守られている (1012)
2. 産業が盛んで、働く場に恵まれている (894)
3. 福祉や医療サービスが充実し、高齢者や障害を持つ人が大切にされている (1052)
4. 地域コミュニティの結びつきが強く、温かい人間関係を大切にしている (278)
5. 子育て支援が充実し、働きやすい環境が整っている (437)
6. 国際交流や地域間交流が活発で、県外から多くの人が訪れている (102)
7. 災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる (757)
8. 学校の教育や施設等が充実し、子どもたちを伸び伸びと育てることができる (373)
9. 住宅や公園、下水道などが整備され、快適な生活環境の中で暮らすことができる (241)
10. 道路や鉄道などの交通基盤が整備され、どこにでも気軽に行き来ができる (679)
11. 伝統芸能や創作活動が盛んで、文化や芸術的な雰囲気が豊かである (112)
12. 娯楽施設が整い、趣味やスポーツを楽しむことができる (274)
13. 商業施設等が充実し、欲しいものをいつでも手に入れることができる (269)
14. 人口が増加し、人や企業の活動が活発な地域になる (546)

- ・「福祉や医療サービスが充実し、高齢者や障害を持つ人が大切にされている」が42.1%と最も割合が高くなっている。次いで、「空気や水がきれいで、緑豊かな自然環境が守られている」40.5%、「産業が盛んで、働く場に恵まれている」35.7%と続いている。

〔年代別〕



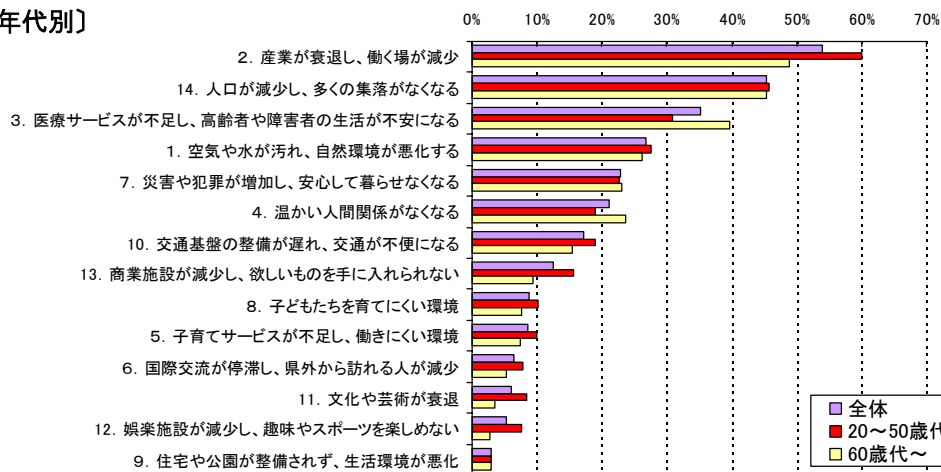
問 19 10年後の福井県が今よりも悪くなるのではないかと心配に思うところはどこですか。最も当てはまるものを3つ選んで○をつけてください。

**答**

1. 空気や水が汚れ、緑が少なくなり自然環境が悪化する (671)
2. 産業が衰退し、働く場が不足する (1350)
3. 福祉や医療サービスが不足し、高齢者や障害を持つ人の生活が不安定になる (877)
4. 地域コミュニティの結びつきが希薄になり、温かい人間関係がなくなる (530)
5. 子育てサービスが不足し、働きにくい環境になる (218)
6. 国際交流や地域間交流が停滞し、県外から訪れる人が減少する (163)
7. 災害や犯罪が増加し、安心して暮らすことができなくなる (570)
8. 学校の教育や施設等の水準が低下し、子どもたちを育てにくい環境になる (221)
9. 住宅や公園、下水道などが整備されず、生活環境が悪化する (75)
10. 道路や鉄道などの交通基盤の整備が遅れ、交通が不便になる (430)
11. 伝統芸能や創作活動が低迷し、文化や芸術が衰退する (150)
12. 娯楽施設が減少し、趣味やスポーツを楽しむことができなくなる (129)
13. 商業施設等が減少し、欲しいものをなかなか手に入れることができなくなる (313)
14. 人口が減少し、多くの集落がなくなったり、なくなる恐れがある (1134)

・「産業が衰退し、働く場が不足する」の割合が最も高く、54.0%と半数を上回り、近年の厳しい経済状況を反映する結果となった。次いで、「人口が減少し、多くの集落がなくなったり、なくなる恐れがある」45.3%、「福祉や医療サービスが不足し、高齢者や障害を持つ人の生活が不安定になる」35.1%と続いている。

〔年代別〕



問 20 福井県の将来に向けて、どのような人を育てていくことが必要だと思いますか。次のA～Dの項目の1～4について、最も当てはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

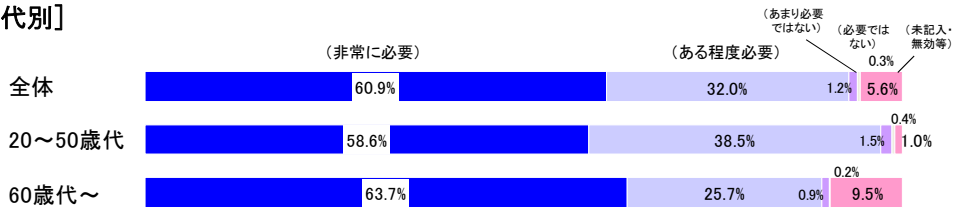
A. ふるさと福井に愛着や誇りを持ち、地域に貢献する人

**答**

1. 非常に必要 (1523)
2. ある程度必要 (801)
3. あまり必要ではない (30)
4. 必要ではない (7)

・「非常に必要」の割合が 60.9%、「ある程度必要」が 32.0%で、両方を合わせた「必要だと思う(計)」が 92.9%と9割を超えている。

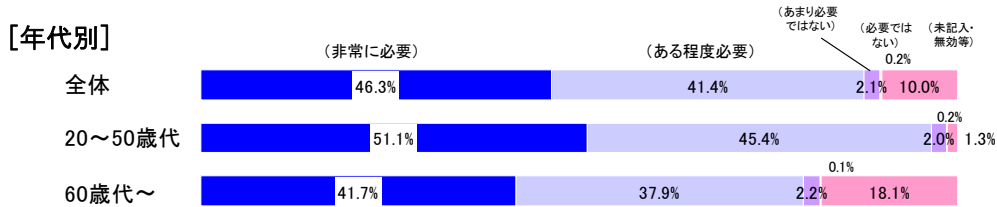
[年代別]



B. 社会に出たときに必要とされる実践的な能力を身に付けた人

- 答 1. 非常に必要 (1159) 2. ある程度必要 (1035) 3. あまり必要ではない (52)  
4. 必要ではない (4)

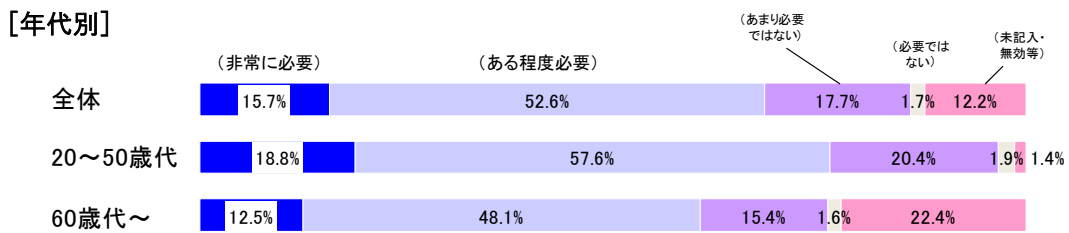
・「非常に必要」の割合が 46.3%、「ある程度必要」が 41.4%で、両方を合わせた「必要だと思う(計)」が 87.7%と約9割となっている。



C. 全国や世界で活躍する科学者やスポーツ選手のように特別な能力を持った人

- 答 1. 非常に必要 (393) 2. ある程度必要 (1316) 3. あまり必要ではない (443)  
4. 必要ではない (43)

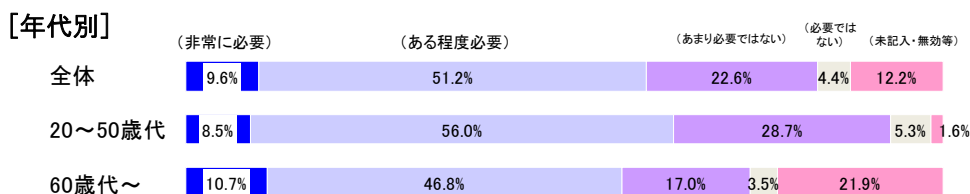
・「非常に必要」の割合が 15.7%、「ある程度必要」が 52.6%で、両方を合わせた「必要だと思う(計)」が 68.3%となった。



D. 有名な高等教育機関(大学等)を卒業するような学力の高い人

- 答 1. 非常に必要 (241) 2. ある程度必要 (1281) 3. あまり必要ではない (566)  
4. 必要ではない (109)

・「非常に必要」の割合が 9.6%、「ある程度必要」が 51.2%で、両方を合わせた「必要だと思う(計)」が 60.8%となった。



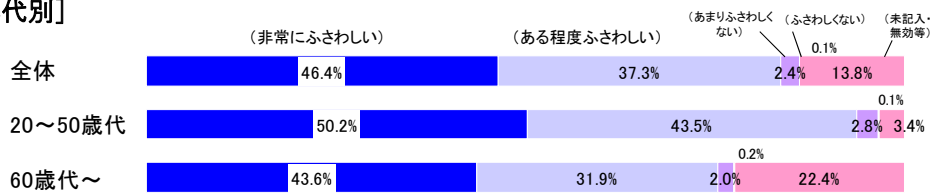
問 21 10年後の福井県において、地域社会を支えるのにふさわしいと思う主体は何だと思えますか。次のA～Dの項目の1～4について、最も当てはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

A. 家族や同じ地域の人

- 答 1. 非常にふさわしい (1161) 2. ある程度ふさわしい (933) 3. あまりふさわしくない (59)  
4. ふさわしくない (3)

・「非常にふさわしい」の割合が46.4%、「ある程度ふさわしい」が37.3%で、両方を合わせた「ふさわしいと思う(計)」が83.7%で8割を超えている。

[年代別]

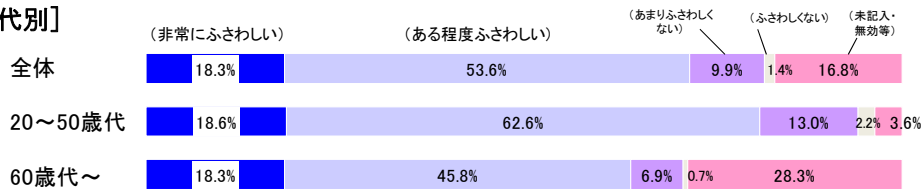


B. NPOやボランティア団体

- 答 1. 非常にふさわしい (457) 2. ある程度ふさわしい (1340) 3. あまりふさわしくない (247)  
4. ふさわしくない (36)

・「非常にふさわしい」の割合が18.3%、「ある程度ふさわしい」が53.6%で、両方を合わせた「ふさわしいと思う(計)」が71.9%で7割を超えている。

[年代別]

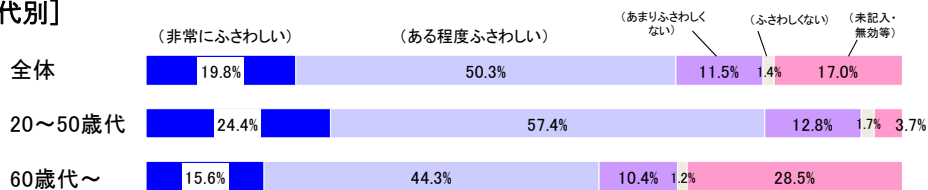


C. 民間企業 (のサービス)

- 答 1. 非常にふさわしい (496) 2. ある程度ふさわしい (1258) 3. あまりふさわしくない (287)  
4. ふさわしくない (36)

・「非常にふさわしい」の割合が19.8%、「ある程度ふさわしい」が50.3%で、両方を合わせた「ふさわしいと思う(計)」が70.1%で7割を超えている。

[年代別]



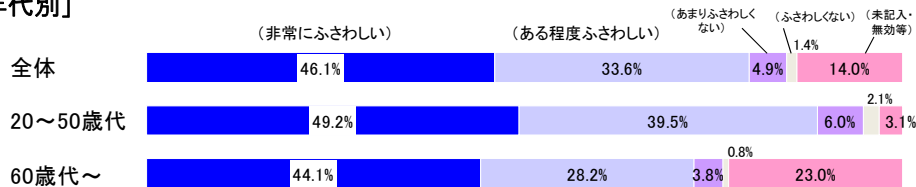


D. 行政（のサービス）

- 答** 1. 非常にふさわしい（1153） 2. ある程度ふさわしい（841） 3. あまりふさわしくない（122）  
4. ふさわしくない（36）

・「非常にふさわしい」の割合が46.1%、「ある程度ふさわしい」が33.6%で、両方を合わせた「ふさわしいと思う（計）」が79.7%で約8割となっている。

[年代別]

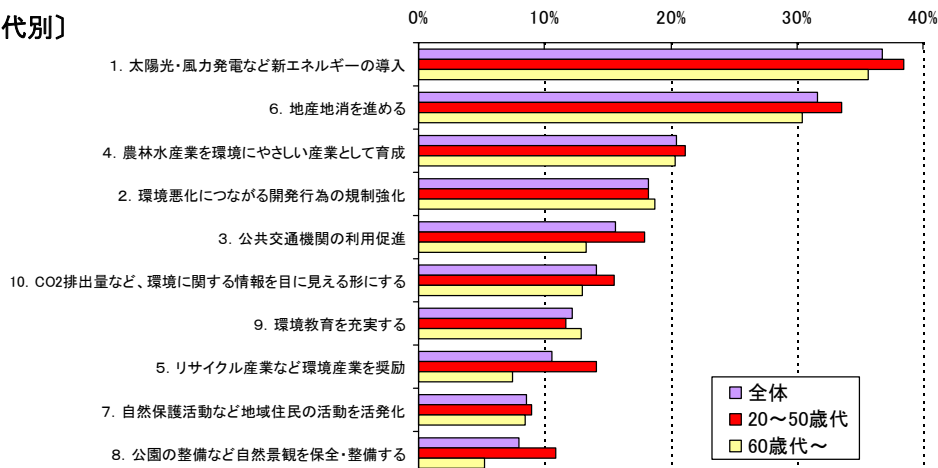


問 22 福井県が地球温暖化問題などの環境問題に対応していくためには、今後、どのようなことが必要だと思いますか。最も当てはまるものを2つ選んで○をつけてください。

- 答**
1. 太陽光発電や風力発電、バイオマス燃料など、石油や石炭に替わる新エネルギーの導入を進めること（920）
  2. 二酸化炭素の排出量や環境の悪化につながる開発行為などに対する規制を強化していくこと（456）
  3. 環境にやさしい公共交通機関の利用を促進していくこと（389）
  4. 農林水産業の衰退に歯止めをかけ、環境にやさしい産業として育成していくこと（513）
  5. 環境調和型商品の製造やリサイクル産業など、環境産業を奨励していくこと（266）
  6. 地元でとれた食材や地元で製造した製品を購入する地産地消を進めていくこと（790）
  7. 地域の緑化運動や自然保護活動など、地域住民の活動を活発にしていくこと（216）
  8. 自然公園や地域の公園を整備するなど、自然景観を保全、整備していくこと（199）
  9. 県民に自然や環境保護の大切さを教える環境教育を充実していくこと（304）
  10. 二酸化炭素や廃棄物の排出量など、環境に関する情報を目に見える形（見える化）にしていくこと（353）

・「太陽光発電や風力発電、バイオマス燃料など、石油や石炭に替わる新エネルギーの導入を進めること」が36.8%と最も割合が高くなっている。次いで、「地元でとれた食材や地元で製造した製品を購入する地産地消を進めていくこと」31.6%、「環境調和型商品の製造やリサイクル産業など、環境産業を奨励していくこと」20.5%と続いている。

[年代別]



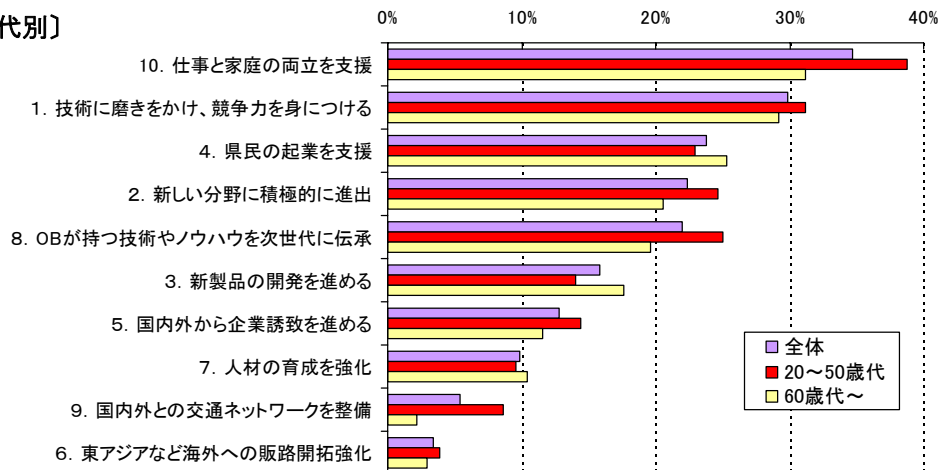
問 23 福井県の産業を活性化していくためには、今後、どのようなことが必要だと思いますか。最も当てはまるものを2つ選んで○をつけてください。

答

1. 県内企業が持つ優れた技術に磨きをかけ、競争力を身につけること
2. 県内企業が時代のニーズに応じた新しい分野に積極的に進出していくこと
3. 県内企業が新素材や新エネルギー、ITなどの新しい技術の導入を進め、新製品の開発を進めること
4. 新しい企業が県内から生まれるよう、県民の起業を支援していくこと
5. 国内外からの企業誘致を積極的に進めていくこと
6. 成長が著しい東アジアなど、海外への販路開拓を強化していくこと
7. 国際競争を乗り越える力を持った人材の育成を強化していくこと
8. 退職した高齢者などが持つ技術やノウハウを次世代に伝承していくこと
9. 商品の流通や人の交流を支える国内外との交通ネットワークを整備していくこと
10. 仕事と家庭の両立を支援するなど、誰もが働きやすい環境を整えること

・「仕事と家庭の両立を支援するなど、誰もが働きやすい環境を整えること」が 34.7%と最も割合が高くなっている。次いで、「地元でとれた食材や地元で製造した製品を購入する地産地消を進めていくこと」29.9%、「新しい企業が県内から生まれるよう、県民の起業を支援していくこと」23.8%と続いている。

〔年代別〕



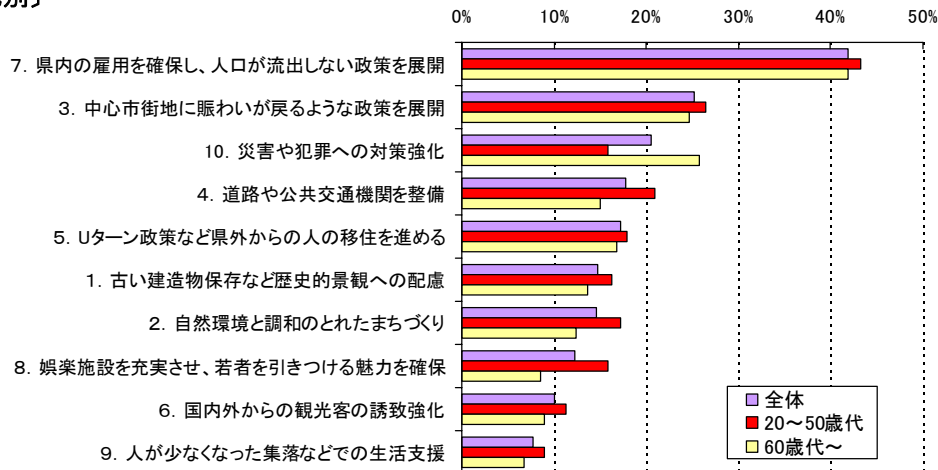
問 24 福井県の将来に向けた街づくりに関して、今後、どのようなことが必要だと思いますか。最も当てはまるものを2つ選んで○をつけてください。

答

1. 古い建造物を保全するなど、歴史的な景観への配慮をしていくこと (371)
2. 公園の整備や自然保護など、自然環境と調和のとれた街づくりを行うこと (366)
3. 中心市街地に賑わいが戻るような政策を展開していくこと (630)
4. 地域内の移動が便利になるよう、道路や公共交通機関を整備していくこと (444)
5. 都市に出た人を呼び戻すUターン政策など、県外からの人の移住を進めること (430)
6. 国内外からの観光客の誘致を強化するなど、人の交流が活発になること (253)
7. 県内の雇用を確保するなど、人口が流出しない政策を展開していくこと (1048)
8. 娯楽施設や商業施設を充実するなど、若者を引きつける魅力を確保していくこと (304)
9. 人が少なくなった集落などでの人々の生活を支援していくこと (193)
10. 県民が安心して暮らせるよう、災害や犯罪への対策を強化すること (513)

・「県内の雇用を確保するなど、人口が流出しない政策を展開していくこと」が 41.9%と最も割合が高くなっている。次いで、「中心市街地に賑わいが戻るような政策を展開していくこと」25.2%、「県民が安心して暮らせるよう、災害や犯罪への対策を強化すること」20.5%と続いている。

## 〔年代別〕



## IV 自由意見

### ○ 教育（人づくり）

- ・ 将来に向けて、教育にはさらに力を入れ充実させていくべきである。
- ・ 福井県民のポテンシャルの高さ（子どもの学力、運動能力の高さ）をずっと維持してもらいたい。
- ・ 日本全体や世界を見据えた広い視野を持てる若手人材の育成が必要である。
- ・ 最先端の技術を学べる教育機関の設置（医療や宇宙工学など）により、全国から優秀な人材が集まり学べる学園都市を目指してほしい。
- ・ 性格的に、しんの強い、くじけない子供を育成してほしい。
- ・ 教育において子どもの心情が豊かに育つように努力してほしい。
- ・ 家庭、地域、学校が連携して子どもの教育に力を注ぐことが何より重要と思う。
- ・ 最近収入に恵まれた人だけが、高等教育（高校・大学）を受け、勉強したくても高等教育が受けられない時代になっている。県として、恵まれない状況にある子どもたちが「希望」を持つ道を拓いてほしい。
- ・ 子どもたちが福井に生まれ育ったことを誇りに思い、たとえ一時離れても戻ってきたいと思えるような福井であってほしい。

### ○ 人口減少・少子高齢化

- ・ 県の人口減少に歯止めをかけるような政策を推進する必要がある。そのために、安全・安心な、また安定した生活ができる街づくりにより、住みやすい福井にしてほしい。
- ・ 60歳代はまだ若く、働く場がほしい。若者に自分たちの技術をもっと教えてあげたいし、そのことによって自分たちも精神的に若いままでいられる。また、生きがいもできる。
- ・ 技術の継承や地域の若者との交流など、高齢者、定年退職者の活動の場を拡大するとよい。
- ・ 定年退職や独り暮らしになった場合、家賃が安いシルバー用のマンションがあるとよい。入居者同士がお互い助けあって老後を楽しく過ごせるのではないかとと思う。

### ○ 子育て・女性

- ・ 核家族の場合、子どもが病気の時など仕事との両立が難しい。企業側の協力など子育て支援の充実を力を入れてほしい。
- ・ 子育て支援金の支給や授業料の無料化など、子育ての経済的負担を軽減するような施策をおこなってほしい。
- ・ 保育園、幼稚園を増やすなど、女性が働きながら子育てしやすい環境を整備してほしい。
- ・ 福井は共働き世帯が多いのはいいが、女性の負担が大きい。男性の育児休業取得など行政、企業が後押しするべきである。
- ・ 子育てが落ち着いた後の女性の再就職支援をおこなってほしい。

○ 医療・福祉

- ・「健康長寿日本一」を推進するのであれば、がん検診などに対する行政の手厚い補助が必要である。
- ・福井市だけでなく、全県に医療施設を整備してほしい。
- ・誰でも安心して入れる老人ホームを増やしてほしい。
- ・高齢者が安心して暮らしていけるよう、医療や年金を充実してほしい。

○ コミュニティ

- ・近頃は近所に住んでいても知らない人が多すぎる。一人暮らしの方への声かけや子どもの世話など、昔みたいに近所で協力してできるとよい。
- ・集落内に若者が少ない。そのため、地域の青年団や消防団に加入し役員をこなさなければならず負担となっている。これらの地域活動について少し見直す必要がある。
- ・核家族が増えており、お年寄り子どもたちの交流の場があるとよい。

○ 安全・安心

- ・車の運転のマナーが悪いと感じる。しっかり取り締まるべきである。
- ・集中豪雨に備え、防災ダムや貯水場をつくってほしい。
- ・原子力発電所の安全性について、正確な情報をこれまで以上にきめ細かく発信できるシステムづくりに努めてほしい。

○ 産業・雇用

- ・若者が安心して働ける場を確保してほしい。
- ・眼鏡、繊維、漆器など、地場産業、伝統的産業が衰退しないよう支援すべきである。
- ・原子力関連の研究開発を産学官で積極的に進め、新産業を創出すべきである。
- ・景気回復のために、企業に対する支援・援助、雇用促進を図り、いつまでも安心して働くことが出来るようにしてほしい。
- ・福井の人は学歴、技術などに優れた人たちが多くいる。その人たちが県内で力を十分に発揮できる企業、職場を充実させる必要がある。
- ・子どもたちが県外の学校へ行ってもまた福井に戻り、働けるような魅力ある仕事があるとよい。

○ 農林水産業

- ・福井は食べ物が美味しく、緑が豊かである。都会化をめざすのではなく、どんどん田舎の良さをアピールし、農業などに携わる方の支援がもっと必要である。
- ・農業を生業とし生活できる環境づくりが必要である。
- ・耕作放棄地が多く見られるが、活用方法を探る必要がある。
- ・漁業においては、「養殖」にもっと力を入れるべきである。
- ・林業はもとより観光に活かせるような林道を整備してほしい。

○ 環境・エネルギー

- ・子や孫の代までも今の福井の豊かな自然が保たれるよう一人ひとりが自覚して生活してほしい。
- ・自然環境の良さは福井が全国に誇れる点だと思う。子どもたちにこのことを教える時間を作るべきである。
- ・山、川、海など福井の自然を大事にしていきたい。道に落ちているゴミを見つけたら拾ってごみ箱に入れることが自然にできる県民気質をもちたい。
- ・自然を活かした施設、例えば老若男女を問わず、子どもから大人まで集える大きな公園がたくさんあるとよい。
- ・福井は原子力発電の電力量で全国1、2位を争うと同時に、CO<sub>2</sub>の削減に努力している県である。今後CO<sub>2</sub>削減のため、積極的に太陽光発電、風力発電などに力を注ぎ、「CO<sub>2</sub>削減全国一位」をめざすべきである。
- ・情報通信網のインフラ整備を進め、電力の管理を一元化するような政策に県をあげて取り組むべきである。

#### ○ 定住・帰住

- ・人間の温かみや自然環境の良さをアピールし、一度来た人がリピーターとしてまた行きたくなくなるような、また、県外から移り住みたいと思われるような福井であってほしい。
- ・若い人や優秀な人材が県外へ流出しない政策を展開してほしい。
- ・Ｕターン政策で福井へ戻るにも仕事がなく、給料も低い。働く場所を作ることが先決である。

#### ○ 交通

- ・公共交通機関の運行本数を増やすなど便利にしてほしい。福井を拠点に京都、大阪、東京などの行き来が十分にできる環境にすれば福井を離れることなく、交流や自由な情報を得ることができると思う。
- ・バス、鉄道など公共交通機関を充実させ、高齢者が自動車の運転をしなくても自由に安全に外出できるようにするべきである。
- ・福井の道路は狭いし、信号が多すぎる。せめて交通量の多い場所はもっときれいで良い道を作ってほしい。
- ・歩道の整備をしてほしい。狭かったり斜めになっていたり、また、急な段差も多くベビーカーが通れない所が多過ぎる。車椅子の方のためにもぜひ、対応してほしい。

#### ○ 街づくり

- ・福井に住む人間がもっと自信を持てるように、駅前を中心にした商業施設を充実し、福井にしかない何かを考えていく必要がある。
- ・県都としての福井市中心街の発展が、県の発展につながると思う。
- ・新しいものを生み出すばかりでなく、旧き良き街並みや建造物を活かして他県とは違う福井ならではの街づくりを推進してほしい。
- ・県外へわざわざ出なくてもいいような娯楽施設が必要だと思う。
- ・県庁を移転し、観光の目玉になるような城址公園を整備してほしい。

#### ○ 観光・ブランド

- ・共働き率日本一、子どもの学力・体力全国トップクラス、健康長寿など、福井の素晴らしい点を活かす県政であってほしい。このことに県民が自信と誇りを持てるよう、大いにPRするべきである。
- ・都市や海外に依存するような文化の発信や経済の発展でなく、福井の持つ豊かな自然や歴史を自ら育む努力をすべきである。
- ・交通の便の改善や観光地周辺施設の充実など、福井の観光産業を発展させるべきである。
- ・媒体をうまく利用して福井の観光名所・特産品をPRし、観光客を呼び込む活動をおこなってほしい。
- ・観光振興策として、特産品の掘り起こし、昔の名物の見直し、おふくろの味を基にした特産品の発掘などを行うとよい。

#### ○ その他

- ・行財政改革の10年後のビジョンがほしい。県の借金の「つけ」を子や孫の世代に残すべきではない。
- ・限られた予算を上手に使って福井の活性化に取り組んでほしい。行政に大いに期待する。